

TOKYO MOTOR SHOW 2011

NEWS 12.03

[東京モーターショーニュース 2011]

SATURDAY VOL.04



Compact. coupé?



RANGE ROVER

プレミアムコンパクトSUV レンジローバー イヴォーク (2012年3月発売予定)

レンジローバー イヴォーク メーカー希望小売価格(消費税込み) Pure:¥4,500,000 Prestige:¥5,780,000 ●全長 4,355mm×全幅 1,900mm×全高 1,635mm ●直列4気筒ターボチャージド 1,998cc 240PS 340Nm
レンジローバー イヴォーク クーペ メーカー希望小売価格(消費税込み) Pure:¥4,700,000 Dynamic:¥5,980,000 ●全長 4,355mm×全幅 1,900mm×全高 1,605mm ●直列4気筒ターボチャージド 1,998cc 240PS 340Nm



facebook.com/RangeRoverEVOQUE.jp



landrover.jp/special-evoque/

EVOQUE DEBUT



*表示価格はメーカー希望小売価格です。価格には、税金(消費税除く)、登録諸費用、保険料、リサイクル料金などは含まれておらず、
※写真のモデルはレンジローバー イヴォーク クーペ Pureです。19インチ スタイル3 アロイホイールはオプションです。



Re BORN



FUN TO
DRIVE,
AGAIN.





mazda



環境の先にある、走る歓びを。

これから10年先も、世界を走るクルマのほとんどがエンジンを載せている。

マツダはそう予測して、SKYACTIV TECHNOLOGYという技術革新に挑戦しました。

まずはエンジンからボディまで、クルマのすべての基本性能を革新し、

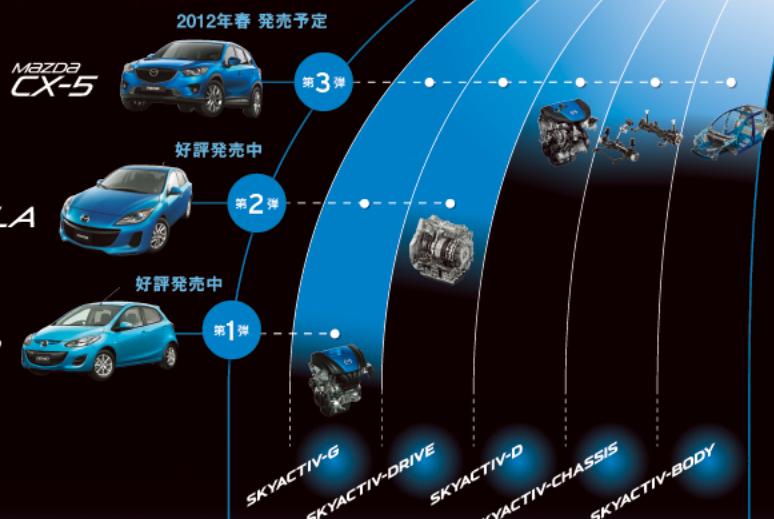
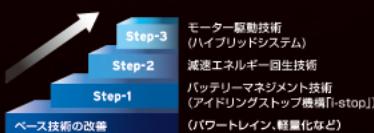
さらに電気デバイス技術を組み合わせていくことで、走る歓びを高めながら、

優れた環境・安全性能を実現していきます。

翼をもったクルマへ

**SKYACTIV
TECHNOLOGY**

TO THE
FUTURE



SKYACTIV TECHNOLOGY搭載モデル、続々デビュー。

好評の新世代デミオ、新世代アクセラ。そして、量産モデルとして初めてSKYACTIV TECHNOLOGYをフルに搭載し、新デザインテーマ「魂動(こどう) — Soul of Motion」を初採用したマツダ CX-5(2012年春 発売予定)。クルマを愛する人へ、新世代のマツダ車が、これからも続々と登場します。

PHOTO:第42回東京モーターショー2011出品車「マツダ CX-5」、コンセプトカー「マツダ 雄(TAKERI)」

後席もシートベルト、チャイルドシートも忘れずに。
昇進・加速はゆるやかに。エコドライブを心がけよう。

カタログのご請求、商品についてのお問い合わせ、
ご相談はマツダ(株)コールセンター

0120-386-919

受付時間: 平日 9:00~17:00
土・日・祝日 9:00~12:00 13:00~17:00

www.mazda.co.jp



□ Cover

ドライバーがクルマのコントロールレバーに触れるのは車庫入れや路地走行時のみ。ナビゲーションに話し掛ければ自動制御走行が可能になる

発行 一般社団法人 日本自動車工業会

制作 株式会社レゾナンス

編集 株式会社ボストン

表紙イラスト 松本零士

プロデューサー 近藤正純(ロバート)(株式会社レゾナンス)

エディトリアルディレクター 堀江史朗(株式会社ボストン)

プランナー 多田裕彦(株式会社ボストン)

□特別編集

ディレクター 若林葉子(株式会社レゾナンス)

執筆 石井昌道(P26・P32・P40・P54・P55・P57)
伊丹李裕、岡崎五朗(P18・P20・P24・P30)

河口まなぶ(P28)、川端由美(P46・P53)

島下泰久(P34・P36)、嶋田智之(P52)

世良耕太(P44・P56)、近田茂(P38・P39)

西村直人(P42)、まるも亜希子(P48・P50)、
若林葉子(P58・P60)

菅原康太、長谷川徹

佐藤秀紀

(以上50音順)

□編集

編集 依田新、室井凡、安島利樹
(以上株式会社アイコック)

高橋満、渡瀬基樹、びえいる籠島

古賀貴司、小見順治(有限会社ジュネコ)

石井隆、今井優香、太田輝

写真 芳賀元昌、河野敦樹、山本佳吾、阿部昌也

奥村純一、真鍋孝太郎、尾形和美

デザイン ファントムグラフィックス

進行 湯浅央子

アートディレクター

加藤浩之、片山正彦
(ファントムグラフィックス)

アカウンティングディレクター

世良田勝彦、菅生雄一郎、飛弾野博、今野真紀
西脇正、二木潔和、赤塚悌晃、武藤睦美
出村浩之、野崎優彦(以上株式会社交友社)

翻訳 関根真理

監修 石川真輔照

協力 臨海副都心まちづくり協議会

印刷 凸版印刷株式会社



CONTENTS

07	JAMA会長インタビュー 「世界一のテクノロジー・モーターショーを目指して」 一般社団法人 日本自動車工業会会長 志賀俊之
08	第42回東京モーターショー 2011 コンセプト&インポートダクション 「世界はクルマで変えられる。」を体験しよう
10	PRESENTATION マツダ・日産・ルノー・スバル
14	EVENT REPORT 開会式など
16	SMART MOBILITY CITY 2011 エキジビションの紹介
18	注目の出展社紹介 18 日産自動車 20 トヨタ自動車 22 ホンダ 24 スバル 26 三菱自動車 28 マツダ 30 スズキ 32 フォルクスワーゲン 34 アウディ 36 メルセデス・ベンツ 38 いすゞ、日野自動車 39 三菱ふそう、UDトラックス 40 日立オートモティブシステムズ 42 旭硝子 44 ブリヂストン 46 ダンロップ 48 NTTドコモ 50 LIXIL 52 ルノー 53 BMW 54 DENSO 55 アイシン精機 56 日本グッドイヤー 57 ポッシュ 58 三菱電機 59 NTN 60 首都高速 61 YAMAHA
67	スタンプラリー、謎解きスパイゲーム
68	FLOOR WATCHING -1 輸入車ブランドと商用車ブランドを探訪 注目ブースから、今クルマに期待したいこと
69	FLOOR WATCHING -2 Today's Question クルマのITが進化。何をしますか?
70	FLOOR WATCHING -3 注目イベント&ブースピックアップ モーターショーでの日々の出来事 緊急対談 社長は会社の“顔”。ショーを通じてファンと接してほしい 寺澤勉さん × 片山豊さん
71	COVER ART 松本零士、22世紀のクルマのある風景
72	EVENT In the TOKYO BIG SIGHT 東京ビッグサイト内開催イベント
73	EVENT In the TOKYO WATER FRONT CITY 臨海副都心エリアの楽しいイベントもチェック!
74	臨海副都心エリアお得MAP
76	東京ビッグサイト会場案内図
78	西展示棟出展ブース一覧
80	東展示棟出展ブース一覧
82	第42回東京モーターショー 2011 協賛会社

SUGGESTION
TO
THE FUTURE

一般社団法人 日本自動車工業会会長

志賀 俊之

●Profile

1953年・和歌山県生まれ。1976年に日産自動車に入社。アジア大洋州営業部ジャカルタ事務所長・企画室長、アライアンス推進室長を歴任。現在同社代表取締役最高執行責任者



Interview with the Chairman

世界一のテクノロジー・モーターショーを目指して

24年ぶりに会場を東京に移して開催する新生・東京モーターショーの目的は、一人でも多くの人にクルマやバイクのファンになっていただくことだと考えております。そのためには単に商品を展示するだけではなく、これからの中自動車やモビリティのありかた、あるいはモビリティと社会とのつながりを俯瞰しながら新たな自動車社会の姿を提案していく必要があります。日本の産業技術は、安全性や環境対策、ITというさまざまな分野においても世界トップクラスであり、その確かな技術力に支えられた「モノ作りの逞しさ」を国内外に発信していくことで、ファン作りという大きな目的を果たしていくことができると思っています。

日本は本年3月11日に発生した東日本大震災により、言葉では表現できないほどの、たいへん大きな損害を被りました。基幹産業である自動車産業もサプライチェーンの寸断により生産が大きく落ち込みましたが、日本の自動車産業全体が総力を挙げてこの震災からの復旧復興に向けて取り組んできた結果、想定よりもはるかに短い期間で正常な状態に戻すことができました。

今回の東京モーターショーには世界12ヶ国・1地域から合計179の出展者が参加します。国内全ての自動車メーカー14社・15 ブランドはもちろん、

海外からは欧州を中心に21社・25ブランドの乗用車、商用車、二輪車メーカーおよびカロッツェリアが参加します。世界初の発表となるワールドプレミアは計53台、日本初であるジャパンプレミアは82台という国際モーターショーに相応しい展示内容になっています。

「世界はクルマで変えられる。」“Mobility can change the world.”を今回のショーのテーマいたしました。そのテーマを具体的にお見せするため、新たに主催者テーマ事業として、“SMART MOBILITY CITY 2011”を東京モーターショーの会場内で開催いたします。社会全体の関心が地球環境及びエネルギー問題へと高まっていくなか、自動車の先進技術と社会の仕組みとのつながりを通して、これからモビリティ社会をわかりやすく提示いたします。

アジアでは急速に自動車市場が拡大するなか、北京や上海、ニューデリーなどのモーターショーへの関心も急速に高まっています。こうした中で、私ども日本自動車工業会は、東京モーターショーを「技術立国・日本」のシンボルと位置付け、世界一のテクノロジーモーターショーを目指して、クルマと都市、そして人々の暮らしに結びつく先端技術を発信して参ります。ご期待ください。



■ MAZDA

マツダ

挑戦する姿勢が生み出した第三のエコカー その究極のカタチがショー最大のトピックスに

マツダが今年のモーターショーで強くアピールしたのは、マツダスピリット「飽くなき挑戦の精神」である。その象徴がクルマのベース技術を革新し、電子デバイスの導入で既存のガソリンエンジンの性能を突き詰めていく「スカイアクティブ技術」。第三のエコカーというジャンルを生み出したこの技術が今後のマツダを支えていくこと、その開発の手を緩めずに存在感のあるブランドを目指していくことがプレゼンテーションの場で山内孝社長により宣言された。

マツダの最大のトピックスはそのスカイアクティブ技術を採用した2台のクルマである。1台はエンジン、ミッション、ボディ、シャシーにこの技術を使い、マツダの新しいデザインテーマ「魂動」を採用したフルスカイアクティブ第一弾「CX-5」。来年の春には発売されるこの小型SUVは国内で販売されるSUV最高値となる18.6 km/ℓと

いう数値が発表された。

もう一台はフルアクティブハイブリッドの究極のカタチとして発表されたコンセプトカー「TAKERI(タケリ)」。減速エネルギー回生システムなどを採用し、航続可能距離は1500km、「CX-5」と同じ魂動デザインを採用している。このタケリは「全てのお客さまに走る喜びと優れた環境安全性能を提供する」というマツダのビルディングブロック戦略を具現化したモデルに位置づけられるという。

今回のショーでマツダが強くアピールしたのは「挑戦する姿勢」と新技術を追求をすることで得られる「自動車メーカーとしての個性」である。

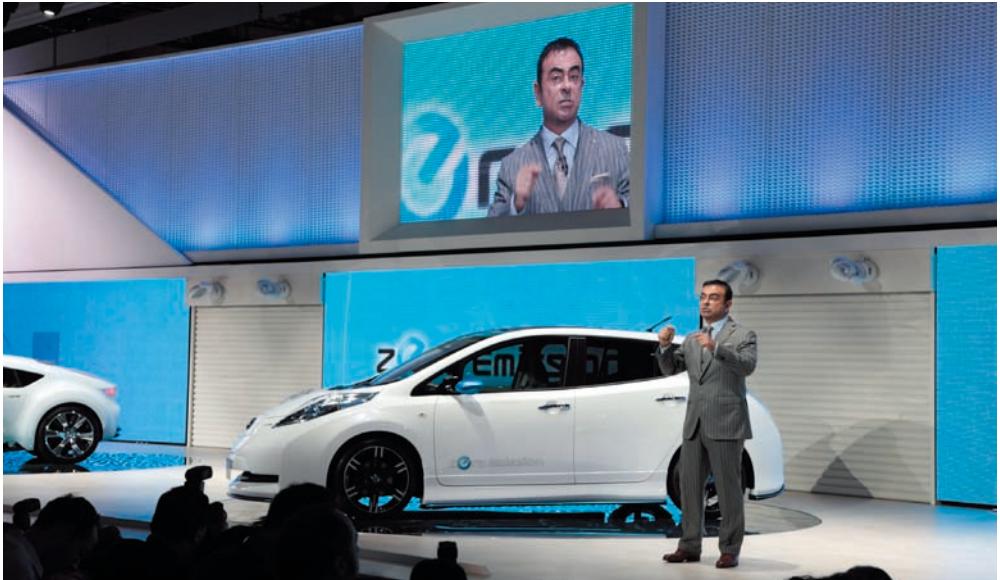
マツダにしかない特別な世界。「大空のように無限の可能性を信じる」が意味するスカイアクティブテクノロジーというコンセプトが、今後自動車の世界でどんな位置を占めていくのか。マツダの挑戦は終わらない。



プレゼンテーションで発表された小型SUVのCX-5とコンセプトカーの「TAKERI(タケリ)」。ともに全てのスカイアクティブ技術が採用されている。



展示車両は全17台。全社を挙げて取り組んできたスカイアクティブ技術の詳細が分かるよう、エンジンなどはカットモデルが用意されていた。



■ NISSAN

日産

環境に優しいEVと次世代型ホームで
新しいライフスタイルを提案する

09年の東京モーターショーで発した「ゼロ・エミッション競争の幕が切って落とされました」というカルロス・ゴーン社長の言葉通り、現在のクルマ社会はエコカーが中心となっている。なかでも昨年12月に発売されて以来、わずか1年で2万台以上が販売されたリーフを旗印に、量販電気自動車の先頭を走る日産は、3台の電気自動車コンセプトモデルと、日産初となるコンセプトハウスを発表した。

コンセプトEVの主役となる「PIVO3」は、日産の革新技術を採用した市街地走行向けの超小型電気自動車。先進的なイン・ホール・モーターを採用することで、従来の車両プラットフォームとパワートレインの制約にとらわれる必要がなくなり、車両構造とデザイン構想が無限大に広がった。そのため、回転半径2mという市街地走行向けの仕様を実現しているのだ。さらに、将来のスマートシティで想定されるオ

ートマチック・バレー・パーキング（AVP）にも対応。ドライバーが操作することなく駐車スペースに停車したうえ、駐車中の自動充放電、スマートフォンによるAVP出口までの呼び出しを可能としている。ほかに、5秒で100km/hまで加速できるピュアスポーツカーの「エスフロー」、4つの観音ドアを採用して、乗用車の快適性と商用車の実用性を両立させた「タウンボッド」と、2タイプのEVを日本市場に披露した。

また、リーフのバッテリーに蓄えた電気エネルギーを利用する「リーフ・トゥ・ホーム」を活用したスマートハウスを提案。太陽光パネルと燃料電池による発電で、安定した自家発電と、災害などで燃料供給が途絶えた場合でも太陽光発電とEVにより対応可能としている。カルロス・ゴーン社長は「これは始まりに過ぎません。自動車メーカーがクルマづくりにのみ集中する時代は終わりを告げたのです」と語った。



05年に発表したPIVOが、PIVO3に進化して登場。EV特有の制限のないボディ形状で、次世代のシティコミューターを作り出した。また、EVの充電能力を活かすスマートハウスも提案



コンセプトカーのほかに、2012年に国内で発売予定のNV350キャラバンを発表した。PURE DRIVE技術を採用して燃費改善を図ったほか、クラストップレベルの荷室容量を誇っている



■ RENAULT

ルノー

「フレンチタッチ」「トレンディ」「スポーツ」をカタチにしたジャパン・プレミア4モデルが登場

ルノー・ジャポンは、ジャパン・プレミア4台を含む、計6台を出展。メーカークリーフィングでは、同社COOである大極 司氏が登壇し、「フレンチタッチ」「トレンディ」「スポーツ」というブランド・キーワードについて解説した。

「フレンチタッチ」とは、すべての乗員に優れた快適性、安全性、心地よさを提供するというもの。「トレンディ」は、革新的なテクノロジー、斬新なデザイン、驚きをもたらすもので、「スポーツ」は、F1を初めとするモータースポーツで培ってきた技術を元にした耐久性や、高性能、スピード、挑戦、興奮を表している。

また、これらのブランド・キーワードを具現化したジャパン・プレミア4モデルについても紹介。

「キャプチャー」は、これからのルノーのデザイン戦略を実際に示したモデルで、流麗さとたくましさを融合させ

たボディデザインが特徴のスポーティクロスオーバーで、走りを楽しむことができる優れたパフォーマンスと、CO₂排出量の低減を実現した、エンジン-dCi160ツインターボコンセプトエンジンを搭載したコンセプトカーとなっている。

「カングー・イマージュ」は、「カングー・ビボップ」と同じデザインのバンパーを装着し、明るい色調の内装を採用したスタイリッシュに仕立てられたカングーの追加グレード。「ウインド・ゴルディーニ」は、2シーターのケーブロードスターであるウインドを、ゴルディーニデザインで飾ったモデルとなっている。併せて新型の「メガーヌ・グラスルーフ・カブリオレ」もお披露目。従来型と同様に開閉式のガラス製ルーフを備えている。

3台とも2012年に発売が予定されている。



カングーをより個性的に演出した「カングー・イマージュ」。内装は、専用のスリートーン仕立てとなる。ウインドをベースとした、ゴルディーニ・デザインモデルも展示される



新型メガーヌをベースとした、従来型でも好評を博していた「グラスルーフ・カブリオレ」が発表された。ルーフは全面がガラス製となる



■ SUBARU

スバル

話題のBRZワールドプレミアに加え
ツアラーコンセプト&インプレッサが登場

ブランドステートメント“Confidence in Motion”をテーマに、信頼できるクルマを通じて安心と愉しさをユーザーに提供。同時に、環境対応にも果敢に取り組み、約30%の燃費向上やハイブリッド車の投入を行っていくとしたスバル。ブースもそのステートメントにのっとり、安心と愉しさを表現したものとなった。ワールドプレミアとなるコンセプトモデル「アドバンスド ツアラー コンセプト」と待望のFRスポーツ「BRZ」に加え、4世代目となる「インプレッサ」の新型を国内初披露する。

「アドバンスド ツアラー コンセプト」は環境時代における革新スポーツツアラーをテーマに、走行/環境/安全性能と、長年追い求めているグランドツーリング性能を高次元でバランス。これまで培ってきたワゴンの技術を遺憾なく発揮した、まさに次世代ツアラーコンセプトとなる。

走りを期待させるスタイリッシュなエクステリアには、ダウンサイ징された直噴水平対向ターボエンジンや、高トルク対応型のリニアトロニックなどを搭載。更にスバル独自のハイブリッドテクノロジーを織り込み、シンメトリカルAWDを組み合わせた。またトヨタと共同開発した「BRZ」は、美しい外観と世界トップクラスの低重心をもつ、水平対向エンジンFR+レイアウトのスポーツカー。スバルと水平対向エンジンに、トヨタのD-4S(直噴エンジン)を組み合わせ、高効率で環境にもやさしいクルマに仕上がっている。

またNEW VALUE CLASSをコンセプトに上質なグローバルカーを目指したインプレッサが登場。イメージを明確化するため、5ドアにスポーツ、4ドアにG4というサブネームが与えられた。昨年投入された新しい水平対向エンジンにリニアトロニックを初めて組み合わせている。



BRZは最高出力200psを発生する2ℓ水平対向エンジン、6MTとMTモード付き6ATを搭載。なおブース内にはGT300仕様(写真下)も展示されている



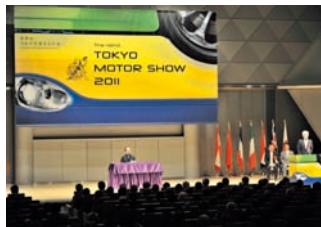
フルモデルチェンジを果たした基幹モデルの新型インプレッサ。エンジンは1.6ℓと2ℓを用意、軽量化を始め環境性能にも考慮された。価格は154.4万～233.1万円となっている

見て触れて話して体感する、新しい東京モーターショー

01 開会式

寛仁親王殿下によるテープカットで、華々しいスタートを切った、第42回東京モーターショー

今回で42回目を迎えた東京モーターショーは、24年ぶりに東京都で開催される最新自動車テクノロジーの祭典である。その開会式は、盛大に執り行われた。



寛仁親王殿下のテープカットによりスタートを切った第42回東京モーターショー。今回のショーでは、179の展示が行なわれており、「世界はクルマで変えられる。」というテーマの元、最新技術が集結している

開催初日となる12月2日、総裁であらるる寛仁親王殿下ご参加の下、第42回東京モーターショーの開会式が行われた。同式典には経済産業省から牧野聖修副大臣、国土交通省からは松原 仁副大臣、そして東京都からは佐藤 広副知事が参加し、祝辞を述べた。日本自動車工業会の志賀俊之会長のスピーチ、日本自動車工業会副会長である豊田章男氏の開会宣言に続き、寛仁親王殿下によるテープカットが行われた。

02 総裁場内ご高覧

世界中の最新自動車テクノロジーを総裁がご高覧された

第42回東京モーターショーの総裁であらるる寛仁親王殿下が各ブースをまわり、自動車技術の今をご高覧された



日本自動車工業会の志賀俊之会長が説明役として同乗したカートで、各出展社のブースを訪れ、総裁が最新のテクノロジーをご高覧された

東京モーターショーの総裁であらるる寛仁親王殿下は、開催初日の午前に、東西に分かれる会場をご高覧してまわられた。殿下がご乗車されたEVには、日本自動車工業会の会長である志賀俊之氏や、同副会長である豊田章男氏が同乗し、各ブースについてご紹介した。殿下もご熱心に耳を傾けられた。

03 祝賀レセプション

世界の自動車社会を日本の技術がリードすべく!

日々進化を続ける日本の最新テクノロジーが、世界中のクルマを、そして世界中を変える、そんな未来を目指して開催されたレセプション



東京モーターショーの関係各社が参加し、お互いの情報、交友、モチベーション、志を共有する場となった祝賀レセプション。豊田章男副会長は、今後の日本における自動車産業の発展について熱く語った

開会式に続いて、祝賀レセプションが開かれ、日本自動車工業会副会長を務める豊田章男氏が乾杯の音頭をとった。豊田氏のスピーチでは、円高問題や、タイの洪水被害など、日本のメーカーにとって不利な現状を踏まえた上で、これから日本の技術力が世界を主導していくべく、志を語った。

04 トミカ

トミカのブースでオリジナルのロンドンバスが作れる

ミニカーといえば「トミカ」を思い浮かべるほど、クルマ好きにとって馴染みのあるメーカー。年齢や世代を問わず、トミカのミニカーの魅力を存分に味わえるのが、西ホール4階にあるだ



トミカブース最大の魅力が体験型であること。トミカ組み立て工場では、3色の中から好きな色を選んで、オリジナルカラーのバスを作ることができる。これには子どもはもちろん、大人も参加できる。さらに、トミカ製品で作った大きなジオラマを展開しているほか、東京モーターショーの開催に合わせて、12種類の記念モデルを発売。会場でしか味わえないトミカが待っている

誰もが幼い頃に遊んだトミカのプラレールやミニカーなど、親子2世代、3世代にわたって楽しめる商品が多く展示されている。ブース内にある「トミカ組み立て工場」ではボディやルーフの色を選んで、オリジナルのロンドンバスが作れ、商品を眺めるだけではなく、来場者が参加できる体験型ブースとなっている。また、トミカ製品で大きな街を作り上げた「トミカジオラマ」があり、子どもだけではなく大人も楽しめる。

05 ユナイテッドアローズ

ここでしか手に入らない限定Tシャツを購入しよう

人気の高いセレクトショップのユナイテッドアローズでは、会場限定のTシャツが販売されている



コラボレーションTシャツは税込2980円で販売される。なお、限定Tシャツの売り上げのうち50%は、赤い羽根の中央共同募金を通じて東日本大震災支援に役立てられる

東日本大震災復興プロジェクトとして、ユナイテッドアローズは「REVITAL NIPPON!」をテーマに、オリジナルデザインのTシャツを販売している。国産自動車メーカー14社とコラボレーションしていて、メーカーのロゴが胸に大きく描かれているのが特徴。会場内でしか入手できないレアアイテムとなっている。

06 プレミアムグッズ

直営店でしか入手できないプレミアムなグッズが盛りだくさん

クルマ好きなら誰もが気になるメーカーの公式プレミアムグッズ。最新グッズからレアものまで一見の価値あり



国内外のメーカーがリースするグッズを一堂に集めたのが、プレミアムグッズショップだ。商品は数千円のお手頃なものから、数万円の高価なものまで取り揃えている

第30回のショーから継続して販売しているオフィシャルグッズに加えて、第40回からスタートし、来場者から好評を博しているのが出展者プレミアムグッズだ。もちろん、今回も継続。ブースを出展している国内外のメーカーの直営店でしか扱っていないプレミアム感のあるグッズを厳選して販売している。

SMART MOBILITY CITY 2011

最先端の情報・環境・エネルギー技術が実現する人とクルマと都市の未来

EXHIBITION

自動車業界が誇るハイテクノロジーが一堂に会す

西展示棟4階で開催されているスマート・モビリティ・シティ2011。

ここでは次世代のモビリティ社会を支える技術を見ることができる

ITS Japan

ITSって何？ 次世代の交通事情を支える新しい技術のオンパレード



情報通信技術や電子制御技術によって、事故や渋滞など、現在の交通事情の問題の解決を目指すITS。そのITSの発展・普及、そして実用化の促進を目的に設立されたのがITSジャパンだ。ブースでは、ITSを実現するにあた

って必要不可欠となる協力会社・団体の先端技術の数々を展示し、ITSがもたらす次世代の交通スタイルはどういったものなのかをわかりやすく解説。また、2013年にITS世界会議が東京で開催されることもアピールしている。

旭硝子

「曲がる」「割れにくい」「薄い」、これまでの常識を覆す新しいガラスの世界



旭硝子(AGC)は、一般的にガラスと聞いて連想するものとは一線を画す新しいガラスを多数展示している。薄さ0.1mmという世界最薄のロールガラス「Ultra Thin Glass」や、薄くてしなやかな上に割れにくい「Dragon

trail」、光を通しエネルギーを作り出すガラス「サンジュール」、紫外線を99%カットする「UVペールPremium」など、自動車への応用が楽しみな、様々な目的にフィットする最新のガラス技術が満載。

愛知電機

複数のEVやPHVを同時に効率的に充電できる新システム



電気自動車普及充電システム「Deco system」を展示していたのは、愛知電機株式会社。これは複数台の電気自動車またはプラグインハイブリッド車を同時に充電する場合、充電時間を分散させて電力の契約容量を超えないように制御する「負荷平準化機能」(特許出願中)を搭載している

インターネットITS協議会

ガソリン車をEVへと変身させるコンバージョンキットを展示



ITSの実現に向けて自動車と社会が相互に情報を交換する世界を目指すインターネットITS協議会は、「すべての自動車のネットワーク化を目指す」をスローガンとしている。今回は、ガソリン自動車をEV化させるコンバージョンキットを発表。ブース中央には、EVに生まれ変わったMR-Sを展示

ecomo

SmartMobilityのあり方を次世代に伝える



ecomoのブースでは「人と未来をNew Mobility Designでつなぐ」をメインテーマにしている。千葉県柏市・柏の葉キャンパスシティにおけるスマートモビリティのあり方、未来像を提案。同社がプロデュースした電動二輪車に触れたり、各種デザインセミナーやイベントに参加したりできる

TEST RIDE

自動運転

西展示棟4Fの屋上展示場で行われているのが、最先端技術を活かした自動運転の同乗走行＆デモンストレーションだ。NEDO技術開発機構が進める研究による自動運転の世界が、目の前に迫っていることを感じられるはずだ。



車体前部に取り付けたセンサーによってお互いの車両位置の情報を把握することで、前車に追従するシステムを可能としている。一糸乱れぬ縦列走行によって後車の空気抵抗を減らして燃料消費の削減を図るのが研究の狙い。デモ走行時には、どんな走りをしているのかを丁寧に説明してくれる

NEDO技術開発機構が2008年度から実験を行っているのが「エネルギーITS推進事業」だ。この事業は、ITを活用して効率のよい走行を可能とし、省エネルギー化を実現させることが目的。最終的にはクルマの自動運転に向けた研究・開発を行っているのだ。とくに、高速道路を走る大型トラックの自動運転化が目標で、安全かつ無駄のない隊列走行を行い、空気抵抗を減らすことでの燃料の消費削減を狙っているのだ。

このプロジェクトには、多くの企業や大学が参画しており、それぞれ得意分野で研究・開発を進めている。今回の自動運転デモンストレーションと同乗走行では、金沢大学による「オンドマンド型の自動運転」と「障害物自動回避」、慶應義塾大学の「自動運転」と「隊列形成／隊列走行」、東京農工大学の「車線自動追従制御」と「障害物回避」のほかに、トヨタがプリウスで「自動運転」と「障害物回避」「自動駐車」、日本自動車研究所によるエルフの「自動運転」の走行デモを行っている。

各分野におけるトップレベルの組織が研究を行っている最先端の技術を間近に見る、あるいは体験できる希少な機会といえる。



先頭車両に追従して、無駄のない効率的な走行を実現。アクセルやブレーキ操作だけではなく、ステアリング操作も一切必要ない。各社の技術を統合することで、将来的には自動運転を実現し、省エネ効果を發揮する



NISSAN のキーワードは「クルマのワクワクを、次の100年へ」

EVのある生活が、社会と暮らしを変える

News
1

EVのある 豊かな近未来とは

日産は、電気自動車を世界中に普及させ、ゼロ・エミッション社会を創出することを同社の使命であると宣言し、その先頭を走ってきた。

今回の東京モーターショーでは、日産リーフから家庭に電力供給ができる「LEAF to

HOME」や、急速充電器などのインフラ整備への取り組み、そして日産としては8番目のEVコンセプトとなるPIVO3などを通じて、近未来社会におけるモビリティのあるべき姿が具体的に示されている。EVがもたらす豊かな未来を日産のブースで実感したい。

News
2

「LEAF TO HOME」 日産リーフから家庭に電力供給

走行段階でCO2やその他の排出ガスをまったく出さない「ゼロ・エミッション」を強力に推し進める日産。その中心となるのが、2010年12月に世界初の量産EV（電気自動車）として発売された「日産リーフ」だ。

興味深いのは、日産のゼロ・エミッションへの取り組みがEVだけにはとどまらないこと。社会全体をゼロ・エミッションに向かわせるために、日産は様々な周辺技術を開発している。そのなかでも大きなウェイトを占めるのが「LEAF TO HOME」だ。

「日産リーフ」が搭載するバッテリーの容量は24kwh。これは一般家庭のおよそ2日分の



LEAF TO HOME

「日産リーフ」の駆動用バッテリーから一般住宅へ電力を供給するシステム。



電力需要の少ない夜間に充電し、需要の高まる日中に活用すれば、社会全体としても大変、効率的。

News
3

「いつでもどこでも充電できる」インフラを整備。 全国の日産のお店で普通充電可能、急速充電器も倍増！

安心してEVに乗れる環境を整えるため、日産は充電インフラの整備にも積極的に取り組んでいる。全国約2,200店舗の日産のお店に既に普通充電を設置済み。このうち約200店舗に急速充電器を設置済みだが、これを2012年春を目安に倍増する予定。また、日産含めた全国の急速充電器は現在約650基（2011年10月時点）だが、これを大幅に増やすべく、独自に急速充電器を開発。今年11月に発売した新型急速充電器は、より小さなスペースに

設置できるよう、容積を従来品のおよそ半分へとスリム化。さらに注目したいのは、価格も従来の半額以下となる50万円台からとしていることだ。

今までネックとなっていた設置場所と価格の問題がクリアされたことで、今後は自治体だけでなく、民間有料駐車場やスーパー、コンビニ、企業などで急速充電器の設置が進むだろう。日産はこの新型急速充電器を、2015年度末までに5,000台販売する予定だ。



News 4

都会派スマートEV 「PIVO3」 夢のようなクルマ?!

2005年の東京モーターショーに展示され、ユニークなデザインや360度回転するキャビンが大きな話題を呼んだPIVO。その進化型であるPIVO2も、2007年の東京モーターショーで大いに注目された。

今回登場したPIVO3のコンセプトは「日産の考える近未来のカーライフを具現化した都会派スマートEV」。全長3m弱というコンパクトなボディに3人分のシートを設置し、さらに大舵角を実現する4輪インホイールモーターと狭いリアトレッドにより「前輪が通れば絶対に擦らない内外輪差ゼロ」と、「4m道路でのUターン」といった驚異の取り回し性能を実現した。将来のスマートシティ駐車場



に対応した「オートメーテッドバレーパーキング（AVP）」も注目の機能。ドライバーが下りると自動的に駐車スペースまで移動して充電開始。スマートフォンで呼び出せば自動で出庫するという夢のようなシステムだ。



News 5

EVコンセプトカーやワールドプレミア… 絶対に見逃せない、期待のクルマが続々！



NV350キャラバン
（ワールドプレミア）
(参考出品車)

積載性や機能性にも優れた新世代の本格商用バン。堂々としたデザイン、クラストップレベルを目指した燃費性能にも注目。2012年夏、国内で発売予定。



TOWNPOD (タウンポッド)
スタイリッシュクーペとルーミーなバンを融合したエクステリア。若い起業家をイメージして、乗用車の快適性と商用車の実用性を両立させたコンセプトEV。



ESFLOW
(エスフロー)

後輪駆動の2シーターでのピュアEVスポーツカー。環境に配慮したEVでも、存分にドライブを楽しめることを証明する1台。

日産自動車のモーターショーホームページにアクセス！

日産自動車のモーターショーホームページでは、会場の様子をはじめ、様々な情報を、開催期間中、毎日発信しています。様々なニュース、インタビュー、映像が加わって、毎日成長していくホームページにアクセスしてみよう。

- <http://tms2011.nissan.co.jp/>
「日産モーターショー」で検索！

ツイッターで会場の様子やイベント情報も発信しています。

- [@NISSANをフォロー](http://twitter.com/#!/NISSAN)

東2ホールの日産ブースへ是非、行ってみよう。

私たちもお待ちしております。



TOYOTA キーワードは「FUN TO DRIVE, AGAIN」

もう一度ドライブしよう！そんなワクワク感がいっぱい

1
News

「どこでもドア」で未来への扉を開けよう そこにあるのは…

今回のトヨタは、"FUN TO DRIVE, AGAIN."の考え方のもと、「もう一度、クルマの持つ夢・楽しさを創造したい」という想いをブースに込めている。

グリーンを基調とし、最近のトヨタのCMでお馴染みのドラえもんの世界観を採用した個性的なブースデザインは非常に興味深い。展示はおおよそ未来へと続く時系列になっている

ため、それに沿って見ていくのがオススメだ。ダイハツブースから入ると「86」のプロトタイプモデルといった、走る楽しみをアピールするクルマがワクワク感を味わわせてくれる。未来への扉を暗示するドラえもんの「どこでもドア」から先には、現行ハイブリッド車に加えて、圧倒的な低燃費と使いやすさ、楽しさを提供する話題のコンパクトハイブリッド専用モデル「AQUA」を展示。「プリウスPHV」や都市型電気自動車の「FT-EV III」、燃料電池自動車の「FCV-R」にも注目だ。

小道をさらに奥へと歩いていくと、小さな丘と1本の木が見えてくる。小学校の裏山で街を見下ろし、のび太がドラえもんに様々なことを相談するシーンをイメージしたもの。そして、その奥には、ヒトとクルマと社会が“つながる”将来の姿を具現化したコンセプトカー「TOYOTA Fun-Vii」が展示されている。



「86」登場！

「TOYOTA Fun-Vii」や「プリウスPHV」も！

プリウスの発展系とも言うべき存在が、発売間近の「プリウスPHV」だ。外部からの充電が可能な高容量リチウムイオンバッテリーを搭載し、家庭用電源からの充電が可能。近距離は電気自動車として、中・長距離はハイブリッド車として走行できるため、バッテリー残存量や充電インフラを気にせず利用できる。

トヨタブースのみならず今回のショーで注目されているのが、小型FRスポーツの「86」だ。狙いはスピードの追求ではなく、ドライバーが主役になって操ることの楽しさを提供すること。果たしてどんな走りをみせてくれるのか…2012年春の発売に向けたプロトタイプモデルが世界初登場する。

「TOYOTA Fun-Vii」は、最先端のネットワーク技術によって「ヒトとクルマと社会」を“つなげる”コンセプトカー。未来のクルマ像を垣間見せてくれるモデルとして要注目だ。



2
News

上左：プリウスPHV
上右：外装をディスプレイとして使えるTOYOTA Fun-Vii
下：86プロトタイプモデル

News 3

レクサスブースでは、 フルモデルチェンジの次期「GS」が必見！

2005年に日本でブランドを立ち上げたレクサス。当時はGS、IS、SCの3モデルのみだったが、その後フラッグシップのLSやRX、HS、CTを追加し、充実したラインアップを展開している。

今回の見どころは、国内レクサスとしては初のフルモデルチェンジとなる次期GSだ。力強い躍動感をもつエクステリアデザインは、次期GSがもつ優れた走行性能を予感させる。ダイナミックな映像と迫力あるBGM、鮮やかなエフェクト照明が交錯するなか、次世代レクサスの象徴となるスピンドルグリルが浮かび上がる次期GSの演出は必見である。

次期GSの「スピンドルグリル」は、コンパクトハイブリッド「CT200h」のスピンドル形状のグリルをより明確に表現したもので、これからの新しいレクサスのアイデンティティを予感させる。エクステリアデザインだけでなく、細部まで丁寧に仕上げた先進的で上質なインテリアにも注目したい。

日本発のプレミアムブランドレクサスが次世代モデルとして次期GSを目指したのは「感性に響く走り」。開発陣が一体となって魂を込めたその走りの実力を試すまでにはもう少しの時間が必要だが、ステージ上でまばゆいばかりに輝く次期GSの勇姿を眺めながら、思いを馳せてみるのも楽しいはずだ。



自動運転で障害物を回避？! 見て乗って体感しよう

トヨタは西棟4Fで開催されているスマートモビリティシティにも専用ブースを設置している。

見どころは「トヨタスマートモビリティパーク」だ。これは、太陽光や風力による発電と蓄電、そして、プリウスPHVやWinglet、電動スクーター、電動アシスト自転車といった多彩なモビリティへの充電、エネルギー管理

ができる近未来型モビリティパークである。

他にも、家とクルマのエネルギーを上手に管理してくれる「H2V Manager」やトヨタホームのスマートハウス「アスイエ」を紹介する家とクルマのエネルギー・マネジメントゾーン、インフラ協調や自動運転技術で実現する「安全・安心・快適な移動」を紹介する次世代ITSゾーン、そして、これら近未来の世界をバーチャル体験できるコーナーなど盛りだくさんだ。

4Fの屋外展示場では、プリウスをベースに開発した自動運転車両「TOYOTA A.V.O.S.」のデモを体験することもできる。試乗は後席



News 4

MEGA WEB



会場を出たら、 その足でMEGA WEBへ

東京モーターショー開催期間中、メガウェブでは、86やプリウスPHVの試乗をはじめ、オフロードやヒストリックカーの同乗試乗が体験できる。また、各種デコカーや60周年を迎えた歴代のランドクルーザーの特別展示、そして親子で楽しめる工作教室や本格的なカート体験などもあり、盛りだくさんの内容で迎えてくれる。

GAZOO METAPOLIS

未来のカーライフをWeb上で疑似体験できるバーチャル都市ガズームタropolisに東京モーターショーブースが登場。自宅のパソコンやスマートフォンアプリから楽しめる。さらにバーチャルイベントも開催予定。
<http://metapolis.toyota.co.jp/>



HONDA ◎ キーワードは「にんげんの気持ちいいって、なんだろう。」

「にんげん」を中心とした、 Hondaならではの多彩なラインアップ。

News 1

**ブーステーマは
「にんげんの気持ちいいって、なんだろう」**



今回Hondaは、出展各社の中で単独ブランドとしては最大面積のブースに、コンセプトモデルを含む二輪車、四輪車および汎用製品などを合同で展示し、Hondaならではのドキドキ、ワクワクする未来のモビリティライフを提案する。

ブースコンセプトは、『にんげんの気持ちいいって、なんだろう。』

「技術で人の生活を幸せにしたい」「人の役に立つものをつくりたい」という創業時からの夢を原動力に、人を中心としたモビリティの研究に取り組み、ものづくりにチャレンジするHondaの想いを表現したブースだ。

News 2

Hondaならではの、EVの提案がいろいろ

ブース中央のメインステージでは、四輪車はもちろん、二輪車や電動カートも含めた未来のEVコンセプトモデルが登場する。

四輪車ではEVコミューターの「MICRO COMMUTER CONCEPT」やプラグインハイブリッド車「AC-X」。二輪車ではコンパクト

なEVコミューター「MOTOR COMPO」や、Honda独自の三輪スクーターにEVシステムを搭載した「E-CANOPY」、電動カート「モンバル」のコンセプトモデル「TOWNWALKER」など、運転する楽しさと、環境性能を備えたEVモデルなど多彩なラインアップが取りそろ

MICRO COMMUTER CONCEPT

人にとってより身近な存在となるマイクロサイズ未来都市型電動コミューター。人とモビリティーの新しいコミュニケーションの楽しさや、手軽なカスタマイズを楽しめるエクステリアなどを提案。二輪研究所と四輪研究所とのコラボレーションにより、二輪コミューター「MOTOR COMPO」の搭載を可能にした。



TOWNWALKER

シンプルさと軽快さを追求した、誰もが気軽に街中での移動を楽しめるタウンモビリティー。ステアリング部とシート部を折り畳めば、クルマに積んでの移動も簡単に行える。



MOTOR COMPO

二輪車の手軽で便利な機動性に加え、「乗らない時でも使える」ことを目指した、コンパクトなEVコミューター。「MICRO COMMUTER CONCEPT」にも搭載可能で、着脱式の走行用バッテリーは、生活中での電源としても活用できる。

えられている。

そして、四輪車では次世代EVスポーツモデルの「EV-STER」、二輪車ではEVスーパー・スポーツ「RC-E」と、Hondaならではのスポーツモデルも登場。

また、モビリティーだけではなく、クリーンにエネルギーを創るためのHondaの取り組みについて、東京ビッグサイト西展示棟4階の「Smart Mobility City」でもブースを出展し、紹介している。

市販車や市販予定車も 多数出展

そのほか、四輪車では、空間のゆとりを創造した新たな軽乗用車シリーズ「N CONCEPT」を展示し、その第一弾モデルとなる「N BOX」を発表する。二輪車は、新開発のグローバル700ccエンジンを搭載した「NC700S」「INTEGRA」「NC700X」や日常での扱いやすさとオフロードでの楽しさを両立した「CRF250L」などの市販予定車を含む各種モデルを展示している。

N BOX



INTEGRA



CRF250L



News

3

NC700S



NC700X

News
4

その他の出展物

★はワールドプレミア ☆はジャパンプレミア

N CONCEPT (★)

N BOX (★)

フィットEV (☆)

CR-V (☆)

フリード ハイブリッド

フリード スパイク ハイブリッド

インサイト

E-CANOPY (★)

RC-E (★)

NC700S (☆)

INTEGRA (☆)

NC700X (☆)

CRF250L (☆)

CBR1100RR (☆) ほか

CR-V



SUBARU キーワードは「Confidence in Motion」

信頼と革新。変わらるのは、「人」が中心であること

News 1

変化する時代の要求に応えつつ、 変わらず、「安心で嬉しいクルマ」をつくり続ける

1958年に発売した「360」以来、スバルは50年以上にわたって「人を中心とした確かなクルマづくり」を続けてきた。ラリーを中心とするモータースポーツに積極的に参加してきたのも、モータースポーツという極限の場で培ったノウハウを市販車に反映し、「安心で嬉しいクルマ」をつくるためだ。

スバルは昨年、「Confidence in Motion」という新しいブランドステートメントを発表した。「Confidence」とは、スバルが貫いてきた確

かなクルマづくりの姿勢と、安心と愉しさを約束し続けることによるユーザーとの信頼関係を示し、「in Motion」とは変わり続ける時代の要求に応えつつ「Confidence」を進化し

ていくというスバルの固い意志宣言なのだ。

実際、スバルは年々高まる安全性能と環境性能に対して真摯に取り組んでいる。危険を予測し、衝突の回避、または被害の軽減を図る“ぶつからない技術”

「EyeSight Ver.2」を積極的に採用する他、最新の水平対向4気筒エンジンは燃

Confidence in Motion

続けていくことを表す。

そう、「Confidence in Motion」とは、ユーザーと交わした約束である「安心で嬉しいクルマ」をつくり続けるため、常に変革を続け

費の大幅アップに成功した。

こうした数々の革新を重ねているスバルだが、その視線の先にあるのは常に「安心と走る愉しさ」だ。

News 2

革新を重ね、本質を磨き続ける。 スバルのコアテクノロジー

スバルの核となる技術が、エンジン、トランスミッション、4WDシステムが縦一列に並ぶ「シンメトリカルAWD」だ。重心が低く、かつ前後左右の重量バランスにも優れるため、クルマの運動性能を高めていく上で非常に有利なレイアウトである。

現在量産しているのはスバルとポルシェだけという、水平対向エンジンも特徴的な技術だ。ピストンが左右に向かってストロークす

る動きが、ボクシングで互いの選手が交互にパンチを繰り出すのに似ているため「BOXERエンジン」とも呼ばれる。左右のピストンが振動を打ち消し合うためスムーズに回り、かつ重心を低くできるのがメリットとなる。

それに組み合わせるのが無段変速機の「リニアトロニック」。BOXERエンジンの性能をフルに引き出すことによって、優れた燃費と高い走行性能を実現した。

「EyeSight Ver.2」は、ドライバーの油断やミスによる事故のリスクを大幅に減らしてくれるスバル独自の先進技術だ。

主な機能は、①プリクラッシュブレーキ、②全車速追従機能付クルーズコントロール、③AT誤発進抑制制御、④車線逸脱警報＆ふらつき警報の4点。フロントウィンドウ上部に組み込んだ2個のカメラが“目”的役割を果たし、数々の情報を画像処理システムが処理することで、クルマ、自転車、歩行者、車線などを認識。危険を察知するとブレーキをかけたり警告音を鳴らすなどしてくれる“ぶつからない技術”である。



SUBARU BOXER

ピストンを左右水平に配置した水平対向エンジン。スバル独自の“しなやかな走りはBOXERエンジンから生まれているといっても過言ではない(写真上)。

SYMMETRICAL AWD

スバルは4駆がまだ一般的でない頃から、そのポテンシャルに注目。BOXERエンジンとシンメトリーに構成されたAWDレイアウトで可能性を広げてきた。高い直進安定性やシャープなハンドリングを実現する(写真下)。



EyeSight Ver.2

事故をなくすこと。世界中の自動車メーカーが願う究極の目標に近づくべく開発されたのがEyeSight Ver.2。ルームミラー脇のステレオカメラが捉えた前方の状況を高度な画像処理システムによって処理し、危険を未然に防ぐ。



リニアトロニック

リニアトロニックは、量産AWD乗用車用としては世界初となる縦置きチェーン式無段変速機。BOXERエンジンの性能をフルに発揮し、常に最適な回転数を維持することで、気持ちのいい走りと優れた燃費性能を両立する。



News 3

見逃せない3台。コンセプトカーと、 新型「IMPREZA」、「BRZ」



スバルブースで真っ先に見たいのがコンセプトカーの「ADVANCED TOURER CONCEPT」だ。

スポーティーな走り、高い環境性能、搖るぎない安全を、かつてないほどの高い次元で融合した未来のツーラーだ。自信に満ちた存在感を誇るボディには、1.6LにダウンサイジングしたBOXER直噴ターボ+ハイブリッドシステムを搭載。加えてスバルのコアテクノロジーであるシンメトリカルAWDやさらに進化したEyeSight Ver.2が、レガシイによって築きあげられてきたグランドツーリング性能

をさらに高みに押し上げた。人を中心とした設計コンセプト「ヒューマン・センタード・デザイン」を取り入れたインテリアも必見だ。

新型インプレッサにも注目したい。5ドアハッチバックの「SPORT」は、走りを含めた全体の質感を高め、すべての人が乗って心地良いクルマを目指した。4ドアセダンの「G4」は、知的で高密度な大人のスポーツセダンがコンセプト。それらを実現するため、印象的なデザインや、上質なマテリアルを使ったインテリアなど、各部にスバルらしいこだわりが満載されている。もちろん、新世代BOXER

エンジンや進化型SI-シャシーなど、走りの進化にも期待していいだろう。

BOXERの走りを新たな次元へ。というキヤッココピーとともに登場するFRスポーツ「BRZ」も見逃せない1台だ。半世紀近くにわたってスバルが熟成してきたBOXERエンジンがもつ軽量、コンパクト、低重心、振動の少なさといったメリットこそが、究極の愉しさを目指したBRZの運動性能を支えるキーとなったのは間違いない。共同開発車として同時デビューを果たしたトヨタ「86」とじっくり見比べるのも楽しいはずだ。

News 4

「挑戦するスバル」 を象徴する スーパーGTとNBR

日本メーカーとしては唯一、WRC（世界ラリー選手権）で3連覇を成し遂げるなど、ラリーでの強さが有名なスバルだが、サーキットレースにも積極的に参戦している。

各メーカーが威信をかけ熱い戦いを繰り広げる国内最高峰のスーパーGT選手権には、2009年からレガシイB4をベースにしたGT300マシンで参戦。2011年の第5戦、鈴鹿サーキットでは見事優勝。2010年に続き鈴鹿での2連勝を飾った。また、第7戦のオートポリスでも優勝するなど、スバルのマシンの戦闘力は着実に向上してきている。

スバルの挑戦は国内レースだけにとどまらない。世界一過酷なサーキットといわれるドイツのニュルブルクリンク（NBR）で開催される世界最大のツーリングカーレース「ニュルブルクリンク24時間レース」には、2008年からインプレッサWRX STIをベースにしたマシンが参戦。2011年目の今シーズンには、多くの強敵を退け、挑戦4年目にしてついに念願のクラス優勝を成し遂げた。

モータースポーツはクルマの基本性能を磨くための挑戦。「Proud of BOXER」を胸に、スバルの挑戦はこれからも続く。

スーパーGT300に、レガシイB4で参戦。今季第5戦鈴鹿で見事優勝。



MITSUBISHI MOTORS ◎ キーワードは「For your world, For our earth.」

「For your world, For our earth.」 世界が拡がる。歓びが広がる。

News
1

世界戦略車の新コンパクトカー MIRAGE (ミラージュ)

世界の自動車市場は環境性能ニーズの高い成熟市場と、エントリーカー需要の高い新興市場に二分されている。先進国では高コストなハイテクノロジーを採用してもそれに見合う付加価値があれば受け入れられるが、新興国ではそうもいかないというのがメーカーにとっては悩み所だ。

そこで三菱自動車はあらゆる地域のニーズ

に応えらえるよう「低価格」ながら「低燃費／低CO₂」という技術革新にチャレンジ。それも世界中で需要が増えている小型車に的を絞ることで、真の世界戦略車たるコンパクトカー、「ミラージュ」を造り上げたのだ。

エンジンやトランスミッション、ブレーキにタイヤ、ボディの軽量化や空力性能向上などベーシックな技術を徹底的に磨きあげること

で燃費は30km/Lの実現を目指す。高コストなハイブリッドカーをのぞけばクラストップということになる。

世界中のニーズに応えた結果、身の丈にあったサイズ・価格ながら、低燃費で環境性能も高いというミラージュの優位性は、時代を象徴する先進的なコンセプトによるものだ。



For your world,
For our earth.

世界が拡がる。歓びが広がる。



News
2

電動車両の新たな役割を紹介する MiEVハウス

三菱自動車ならではのスマートで効率のよいライフスタイル提案がMiEVハウスだ。

家庭内の電力需要と供給の状況を可視化し自動制御するHEMS (Home Energy Management System)、電気自動車の駆動用バッテリーの状態を常時モニタリングし、家庭への充給電に最適に利用する三菱自動車独自のElectric Vehicle Integration System (EIS) を加えた統合システムが、今回の東京

モーターショーで展示される。

ワイヤレスで車の電池へと電力を供給する非接触充・給電システムや、住宅のバッテリーとして使用できるEV・再生可能なエネルギーのひとつであるリユースバッテリーなどと合わせ、三菱自動車が研究を続けている、スマートで効率の良い、無駄のないライフスタイルとはどんなものなのか…。未来の暮らしをベースで体感してみたい。



News 3

環境対応SUV MITSUBISHI Concept PX-MiEV II

世界に先駆けて2009年に『i-MiEV』を発売した三菱自動車は、電気自動車派生型の「三菱プラグインハイブリッドEVシステム」を採用したSUV『MITSUBISHI Concept PX-MiEV II』を世界初披露する。

シティコミューターとして使われることが多い『i-MiEV』に対して、こちらは長距離移動や大人4人がゆったり乗車できる中型乗用車以上向けのシステム。大容量バッテリーを

搭載しており、電力のみで50km以上のEV走行が可能。発電しながらの走行も可能なため、走行距離に制限がなく、行動範囲を大きく広げてくれる。また『ランサーエボリューションX(テン)』に搭載している車両運動統合制御システム「S-AWC (Super All Wheel Control)」の思想をツインモーター式4WDをベースに開発・搭載。操縦安定性の高さと安全性を追求した。



News 4

あなたのクルマの、「ずっと」のために。 ミツビシ愛着力

「気に入ったモノと、長くつきあっていきたい」。そんな時代のニーズに応えるべく、2010年6月から開始している「三菱愛着プロジェクト」。

国内初の「最長10年10万km特別保証延長」、古くなった塗装やシートをピカピカにしたりヘッドライトのバルブ交換による視認性アップなどを行う「リフォームサービス」、お得な価格で様々なサービスが利用できる「愛

着クーポン」などを用意している。これは、クルマ自体が丈夫で長持ちなことが必然であるのはもちろんが「1台のクルマをずっと好きでいる気持ち」を持ち続けてもらうための取り組みだという。日本発のエコロジー意識「MOTTAINAI」を具現化するミツビシ愛着力は、ある意味で原点回帰であり、東京でカムバック開催されるショーに相応しい。また自家用車の長期保有傾向に則した新たな一歩としても注目されるだろう。

Drive@earth





MAZDA ◎ キーワードは「新時代を切り開く道筋には、いくつもの選択肢がある」

環境の先にある、走る歓びを。 マツダらしい新たなブレークスルー！

1 News

マツダらしさを極めるSKYACTIV TECHNOLOGYと 「魂動（こどう）-Soul of Motion」

マツダのテーマは「環境の先にある、走る歓びを。一クルマを愛する人がいる限り、マツダは『走る歓び』と『優れた環境・安全性能』を革新し続ける。」

マツダ代表取締役会長・社長兼CEO山内孝氏は言う。「環境・安全という社会的要件を満たすこととクルマの走行性能はトレードオフの関係ではない。これらを高い次元で両立する解を実現しお客様に届けることがマツダの使命であり存在意義」。これを体現するのが

新世代技術SKYACTIV TECHNOLOGYで、今回出展の新世代クロスオーバーSUV「CX-5」に結集している。

また山内氏は言う。「クルマは単なる移動手段ではない。見て、触れて、乗ったとき、瑞々しい感動やときめきが運転者に伝播し奮い立つ勇気になる。それが『走る歓び』の本質」。

新デザインテーマ「魂動（こどう）-Soul of Motion」はこの「走る歓び」を具現化する思想で、マツダ雄（TAKERI）はこの結晶である。



代表取締役会長・社長兼CEO
山内 孝（やまのうち たかし）氏

2 News

マツダの持てるあらゆるものの中の結晶。 「マツダ雄（TAKERI）」をその目で！

「マツダ雄（TAKERI）」は、新世代デザインテーマ「魂動（こどう）-Soul of Motion」と、新世代技術SKYACTIV TECHNOLOGYをフルに取り入れ、見た目も中身も次世代を示唆するコンセプトだ。

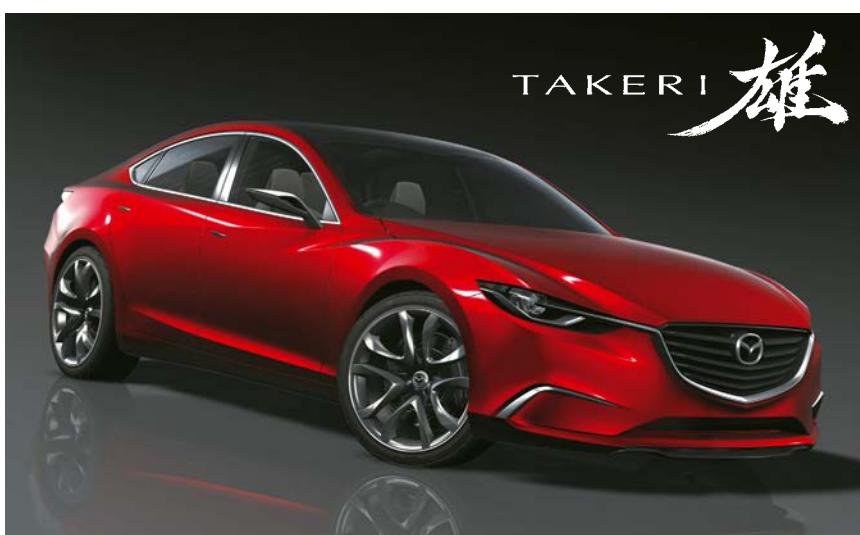
マツダ雄（TAKERI）は、魂動を初めて具現化した鞆（SHINARI）をベースに、男性的な力強さや端正なバランス感を研ぎ澄ませた、

見る者を魅了するデザイン。「誰もが直感でわかるセダンらしさ」や「エモーショナルで突き抜けた魅力」を高次元でバランスし、品格の高さを漂わせつつ、比類なくスポーティな造形により、ミドルサイズセダンのデザイン革新に挑戦した。

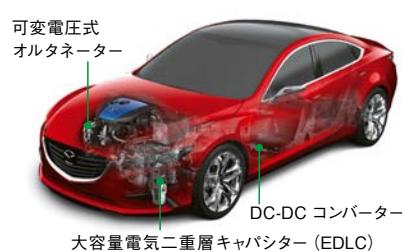
一方、新世代技術SKYACTIV TECHNOLOGYで注目すべきは、新世代クリ

ーンディーゼルエンジン「SKYACTIV-D」。また独自の減速エネルギー回生システム「i-ELOOP（アイ・イーループ）」を採用。「電気二重層キャパシター」により減速の度に発電される電気エネルギーを瞬時に蓄え、その電気を電装部品やヘッドライト、エアコンなどに使う。アイドリングストップ時間の延長による効果もあり、さらなる燃費向上が期待できる。

つまり雄（TAKERI）とは、マツダのデザインと技術の全ての粋を集めて描き出した結晶といえるもの。そしてそれはマツダの新世代セダンの理想形を示唆している。



「マツダ雄（TAKERI）」コンセプト（参考出品車）



▲マツダ独自の減速エネルギー回生システム「i-ELOOP（アイ・イーループ）」



▶新世代クリーンディーゼルエンジン SKYACTIV-D

News 3

マツダの新時代の始まり —来春市販予定の新世代 クロスオーバーSUV「マツダCX-5」

新世代軽量高剛性ボディ
SKYACTIV-BODY



新世代クロスオーバーSUV
「マツダCX-5」(参考出品車)

まさにこのクルマからマツダの新たな時代が始まる…そう表現できるのが来春市販が予定されている新世代クロスオーバーSUV「マツダCX-5」である。

CX-5からマツダの新たな時代が始まる理由は、このクルマがマツダの新世代技術SKYACTIV TECHNOLOGYをフルに採用したモデルだから。このクルマには「走る歓びを革新する」というマツダの決意が込められている。

エンジンは既にお馴染みのSKYACTIV-Gの他、新たに新世代クリーンディーゼルエンジン「SKYACTIV-D」を採用したことがトピック。これは日本市場にも投入される。さらに組み合わせるトランスミッションは新世代高効率6速AT「SKYACTIV-DRIVE」となり低燃費と走りの楽しさを引き出す。

そしてCX-5で初お目見えとなる新世代の軽量高剛性ボディである「SKYACTIV-BODY」

では、高剛性と優れた衝突安全性を達成しつつ軽量化を実現した。また新世代高性能軽量シャシー「SKYACTIV-CHASSIS」も初登場で新たな走りの楽しさと快適性を高次元でバランスした姿を披露する。

全ての技術が常識を突き抜けた先にあり、それがマツダらしい「走る歓び」を革新する…その具現化の第一弾こそがCX-5。間もなく市販が予定されている期待の1台だ。

メインスタンドとSMCで SKYACTIV TECHNOLOGY の世界をじっくり体感しよう

今回のマツダスタンドは、クルマを引き立てる黒と白のコントラストにダイナミックな造形を組合せ、マツダブランドの躍動感が体感できる。メインステージには「マツダ雄(TAKERI)」と「マツダCX-5」の2台を展示。スタンド手前のSKYACTIVエリアでは、CX-5をスライド画面でスキャンしながらSKYACTIV TECHNOLOGYの革新性を、その右側の魂動エリアでは新世代デザインテーマ「魂動」の魅力や世界観が表現される。

またメインステージ左奥のSpiritsエリアでは、これまでマツダが立ち向かってきた数々の挑戦の歴史に触れる一方、ステージ右端の減速エネルギー回生システム「i-ELOOP」



(アイ・イーループ)」展示コーナーでは、マツダ雄(TAKERI)に搭載される最新技術のしくみを体感できる。

更に、SKYACTIV TECHNOLOGYの世界を、大迫力の3D映像で楽しく体感できる西ホール「SMART MOBILITY CITY 2011」(SMC)のマツダブースにも足を運びたい。

News 4

▲新デザインを採用したメインスタンド。5つのエリアで、マツダの新世代商品・デザイン・技術をじっくり体感できる。

SUZUKI のキーワードは「小さなクルマ、大きな未来」

小さくとも、いえ小さいからこそ未来は大きい

News
1

「小さなクルマづくり」 スズキのノウハウに世界から 熱い視線が集まる

1955年のスズライト以来、一貫して小さなクルマづくりの実績を積み重ねてきたスズキ。エコロジー志向の高まりによって、スズキがもつ小さなクルマづくりのノウハウには世界中から熱い注目が集まっている。

そんなスズキが打ち出すスローガンは「小さなクルマ、大きな未来」。単なるエコロジー志向やエコノミー志向にとどまらない小さなクルマの可能性を示唆したこのスローガンには、「小さなクルマづくりを通して豊かな未来づくりに貢献したい」という、スズキの想いが込められているのだ。

新型スイフトスポーツなど注目モデル満載

そんなスズキのメインステージで主役を張るのが、次世代グローバル・コンパクトカーの「REGINA」だ。0.8Lの直噴ターボを搭載しつつ、リッターあたり32km以上 (JC08) と

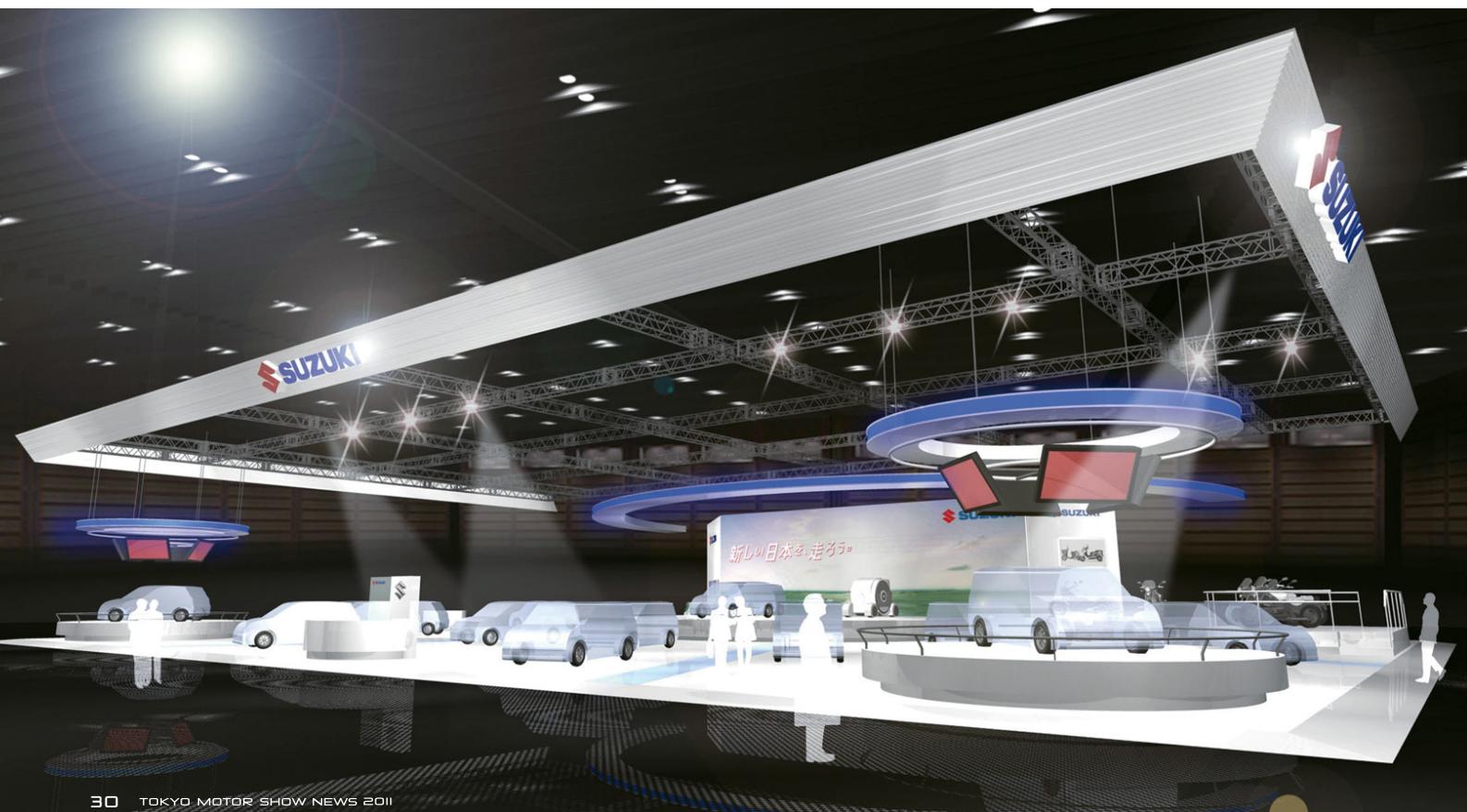


SWIFT
Sport

いうハイブリッド車並の燃費を実現。と同時に、見る者の感性に強く訴えかけてくるデザインを採用しているのも「REGINA」の特徴だ。ヨーロッパの石造りの街並みにも負けない強い塊感や、個性的なフロントフェイス、流れるようなシルエットには、従来のエコカーのイメージを変える強烈なインパクトがある。ナビ、オーディオ、エアコンなどを統合した「フローティング・インターフェイス」を採用

したインテリアも必見だ。

その他、半径10km程度での使用を想定した2人乗りの超小型モビリティ「Q-Concept」や、バッテリーがなくなても小型エンジンで発電しながら走ることができるEV、「スイフトEVハイブリッド」、フランクフルトモーターショーで発表され高い評価を獲得した「新型スイフトスポーツ」など、スズキのブースには注目モデルが目白押しだ。



2

News

スズキならでは。四輪と二輪、モビリティ全体で、 環境にやさしい「大きな未来」をめざす

低燃費を実現する力タチはいろいろ

全長2.5m、全幅1.3mという超コンパクトなボディをもつ「Q-Concept」は、2輪車と4輪車の中間に位置するニューカテゴリー車である。

4輪車より乗りやすく、2輪車のように気軽に、かつ快適に使えるモビリティとして、買物や通勤、子供の送迎といった短距離用途でのベストユーティリティを目指した。一充電当たりの走行距離は50km。最高速度は60km/h。前後2人乗りのタンデム仕様に加え、後席に

2人乗り用チャイルドシートを備えた「ママ仕様」を用意するあたりは、海外メーカーにはない日本メーカーならではの親切発想だ。

「スイフト EVハイブリッド」は、家庭用電源で充電したバッテリーにより約30kmのEV走行が可能。それ以上の距離を走るときは660ccのエンジンによって発電→充電しながら走るため、ガソリンさえ入れれば航続距離を気にしないでどこにでも走っていける。EVとガソリン車のいいとこ取りをしたモデルだ。

非ハイブリッドでありながらリッターあたり

32km以上という驚異的な燃費を達成したのは「REGINA」。低燃費の秘密は、同社の軽自動車「アルト」並みの730kgという軽量ボディにある。車体構造を根本から見直すとともに、軽量素材を積極的に使用することで、従来モデルに対し100kg以上の軽量化を実現。徹底した空力性能の追求や、効率の高い0.8L直噴ターボエンジン、減速エネルギー回生付きアイドリングストップシステムなども燃費に貢献した。この3台以外のモデルはブースで確認して欲しい。



Q-Concept



REGINA



SWIFT
EV Hybrid

注目の二輪。「e-Let's」と 「バーグマン フューエルセル スクーター」

スズキといえば2輪車も忘れるわけにはいかない。今回の注目モデルは、電動スクーターの「e-Let's」と、燃料電池スクーター「バーグマン フューエルセル スクーター」の2台。「e-Let's」は、回生充電機能を持つ高性能インホイールモーターと、リチウムイオンバッテリー、充電器を搭載しつつ、ガソリンエンジン車と同等の重量を実現。室内電源で充電ができる脱着式バッテリーを採用し、家庭用の100V電源から充電することができる。

一方、水素を使って発電する燃料電池を搭載したのが「バーグマン フューエルセルスクーター」である。コンパクトな空冷式の



e-Let's



バーグマン フューエルセル スクーター

燃料電池システムを採用することで、2輪車への搭載を可能にした。スズキは2輪・4輪を通じて、世界初となる欧州統一型式認証(WVTA)を取得した。



Volkswagen キーワードは「German Engineering @ the Pulse of Time」

人の心を動かすクルマ作りに、技術と情熱を注ぎ込む

News
1

German Engineering @ the Pulse of Time

技術と情熱が、時をとらえる。

社会や環境と共存するモビリティの実現を願うフォルクスワーゲンは「技術と情熱が、時をとらえる」というキーワードを掲げている。低燃費やクリーン化といった環境対応などの技術を磨き続けるのは当然ながら、時代とともに

に移りゆく社会情勢や価値観をとらえる先見性があってこそ、理想の自動車社会に近づける。そのために惜しみなく情熱を注ぎ込んでいるということだ。それを支える3本の柱が「DESIGN & TECHNOLOGY」、「EMOTION & LIFESTYLE」、

そして「SUSTAINABILITY」。いくら環境性能が高くても、人の心を動かせるようなクルマでなければ普及もせず、真の環境負荷低減には繋がらない。全ての要素が高い次元で融合してこそ、未来への責任が果たせるのだ。



DESIGN & TECHNOLOGY

未来が求めるフォルムをデザインする。時代を先取り、常に社会にふさわしいクルマを革新のテクノロジーでつくり上げていく。



EMOTION & LIFESTYLE

時代とともに、求められるクルマも変わる。社会の価値観を先んじてとらえ、期待を超えるクルマで人の心を動かしていく。



SUSTAINABILITY

この青い星のために、出来ることすべてを。自然環境と調和したクルマづくりを徹底する。未来に責任を持つ自動車社会へ。

News
2

The Beetle

ジャパンプレミアイベント開催

12月3日(土) 11:30~フォルクスワーゲンブースにて、いよいよ日本デビューとなったThe Beetleの全貌をいち早く見ることができる。

フォルクスワーゲンブース内「The Beetle World」では、世界的に活躍するDJ、沖野修也(Kyoto Jazz Massive)氏とモデルたちによるクラブ・スタイルパフォーマンスも予定。



The Beetleのデビューを、パワフルで心に響くサウンドと共に楽しみたい。

The Beetle 偉大なる名車を継ぐ 新たなオリジナル

60年以上もの長きに渡って世界中で愛され、2,150万台が販売されたという伝説をもつ初代ビートル。『ザ・ビートル』は、まさにその初代をトリビュートしたモデルである。先代ニュー・ビートルよりもルーフピークからリアにかけてのラインが初代に近く、原点回帰を図ったことがうかがい知れる。だが現代のニーズに合わせ

たエモーショナルでダイナミックなフォルムは「新たなオリジナル」という形容がしっくりとくる。そこへ搭載されるのがTSI®やDSG®などフォルクスワーゲン自慢の最新ユニット。低燃費とハイパフォーマンスを両立する先進テクノロジー、そして現代的な安全性が融合し、偉大なる名車の後継に相応しい1台となった。



今回、世界に先駆け
2台のワールドプレ
ミアが公開されま
す！見逃さないよう、
ぜひ、フォルクス
ワーゲンブースへ！



ドイツではブリー、日本ではType IIの呼び名で親しまれたフォルクスワーゲンバス。1950年にデビューし、クルマの自由スピリットの象徴となったモデルだが、その再来が『新型ブリー』だ。フロントの大型VWロゴマークに特徴的なVの字などヘリテイジを用いるとともに、オリジナルのスタイリングの本質を現代的に解釈してデザインされたという。ショーモデルは電気自動車だが、1.0Lや1.4Lのダウンサイ징・エンジンの搭載も可能だという。

全長3.99m×全幅1.75m×全高1.70mという日本でも取り回ししやすいコンパクトボディに3座×2列というユニークなシート配列。フロント・ベンチシートは2/3分割で助手席と中央席を折り畳むことができ、リアのベンチシートは完全に収納可能。自由度が高く簡潔なシートアレンジなので、アイデア次第で様々な使い方が想定できる。まさに自由スピリットを堪能できるモデルである。



News 3

Type IIの現代版、 New Bulliにも注目！ “自由”のスピリットの再来



その他の ジャパンプレミアにも注目！



New CC



New CrossTouran

News 5

環境対応への強い意志。 スマートモビリティシティでは、 「NILS」日本初公開。

世界30カ国でサステイナビリティキャンペーン『Think Blue.』を展開するなど、環境対応へ強いこだわりをみせるフォルクスワーゲン。スマートモビリティシティでは未来を見据えたコンセプトカー『NILS（ニ尔斯）』を日本初公開する。通勤・通学に使われるコミューターは約9割が乗せていないという実態（欧州）に合わせて1人乗りの電気自動車としたのは、まさに「時をとらえた」提案だ。また、実用性の高さと走る楽しさに定評のあるゴルフの電気自動車『ゴルフ ブルーモーション』も出展。フォルクスワーゲンが考えるエコで安全な近未来のモビリティを体感できる内容になっている。



（スマートモビリティシティは西3・4ホールです）

Think Blue.

Audi キーワードは「Vorsprung durch Technik」

アウディの考える未来。 「Audi e-tron」「Audi ultra」「Audi connect」

News
1

3つの“柱”でアウディの今、そしてこれからを感じてみよう。
「Audi e-tron」「Audi ultra」「Audi connect」

「Vorsprung durch Technik (技術による先進)」をキャッチフレーズとするアウディ。そのアウディが目下、テクノロジーのキーとして据えているのが「Audi e-tron」「Audi ultra」「Audi connect」という3つの柱である。

Audi e-tron

そのうち「Audi e-tron」とは電動モビリティの未来を切り拓く技術の総称。電気を動力源とするクルマとしてはハイブリッド車がボピュラーだが、「e-tron」に定義されるのは、その更に一歩先のテクノロジーだ。バリエーションは様々。外部電源から充電した電気で20～80kmの距離を走行可能としたプラグインハイブリッド(PHEV)や、長距離走行用に発電

用小型エンジンを積むレンジエクステンダー付き電気自動車(EREV)、そしてピュアEVとも呼ばれるバッテリー電気自動車(BEV)、水素から取り出した電気を動力源とする水素燃料電池(FCEV)などが、「Audi e-tron」の傘の下に入れられている。

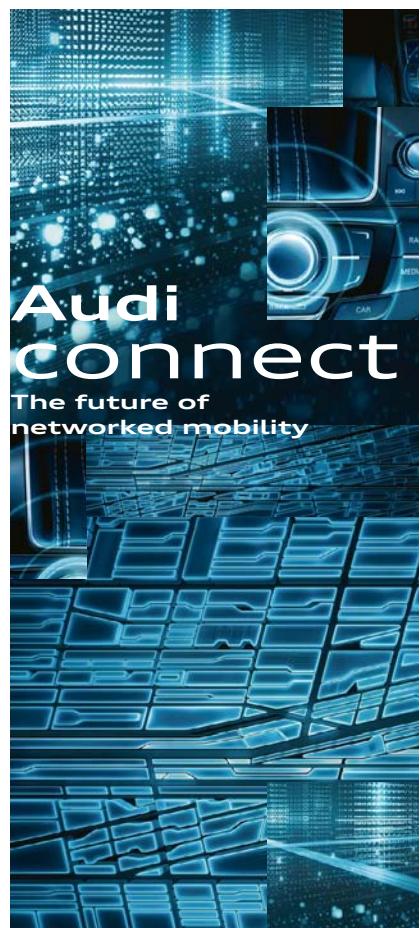
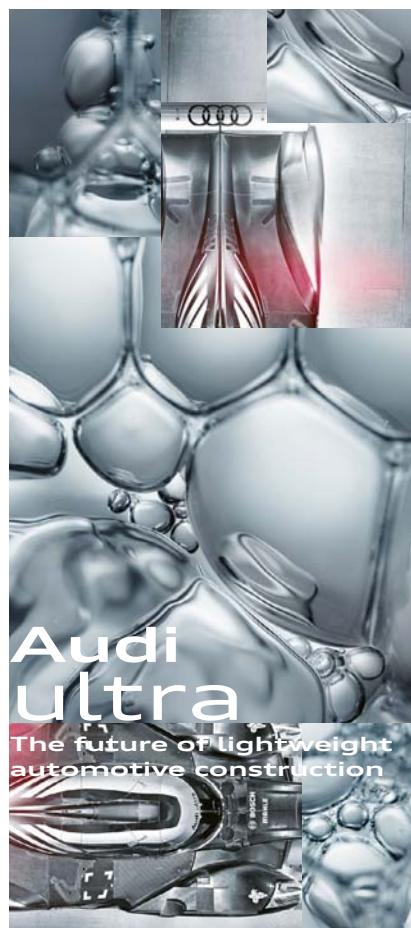
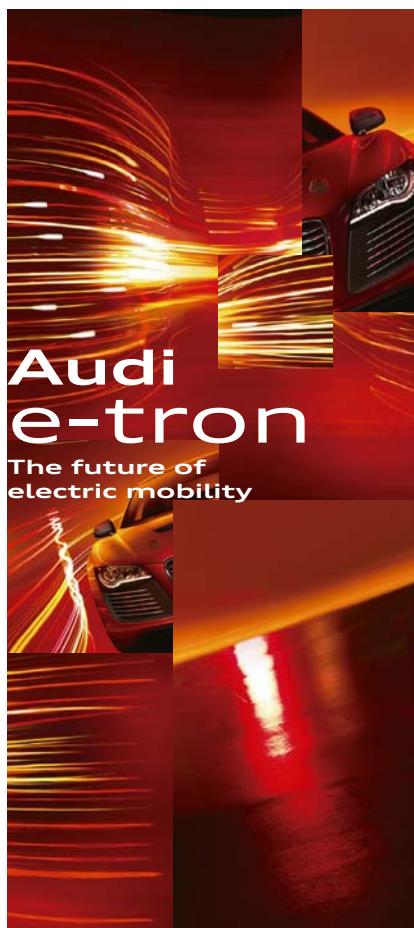
Audi ultra

「Audi ultra」とはアウディ独自の軽量化技術の総称だ。アウディが早くから手掛けてきたアルミボディを筆頭に、細部に渡る軽量化の徹底によって動力性能と燃費の向上、そしてリサイクル／再利用素材の使用を推し進め。資源を有効に活用して、持続可能なモビリティに貢献するのが、この「ultra」なのである。

Audi connect

そしてアウディが今、一層力を入れ始めているのが「Audi connect」である。カーナビゲーションシステムとGoogle Earthの連携、車内W-LAN環境の整備など、既にテレマティクスにおいて最先端を走るアウディだが、今後はインフラとの連携、車車間通信の強化などによってサービスを充実させ、クルマが“繋がる”ことにより、更なるカーライフの充実を図る。

今回の東京モーターショー、アウディのベースはまさにこの3本の柱の下に様々な展示が行なわれる。それを踏まえつつ見ていけば、アウディの考える自動車の未来が、よりリアルに浮かび上がってくるに違いない。



2

News

Audiの先進技術が注ぎ込まれた クルマたちをブースで!

Audi A1 e-tron

Audi A1 e-tronは、プレミアムコンパクトセグメント用電気自動車である。4人乗り、3ドアハッチバックで、アウディのメガシティ・ビークル(MCV)カテゴリーの代表となる1台だ。世界の大都市圏でデイリーユース可能なクルマとして設計されている。電気で駆動し、内燃エンジンはバッテリーへの充電が必要な場合のみ使用される。その場合、254ccのロータリーエンジンが滑らかに始動し、アウディの電気自動車ならではのドライビングが味わえる。



Audi R18 TDI

2011年のル・マン24時間レースでアウディに通算10回目の勝利をもたらしたAudi R18 TDIが登場。アウディ独自の軽量化技術の粋が詰まった「Audi ultra」カーボンボディにはV型6気筒3.7ℓ TDIエンジンが搭載される。

Audi Q3

コンパクトカテゴリーにおけるプレミアムSUV、Audi Q3。スポーティで効率的、オンロードでもオフロードでも快適に走れるシティビークルとして、アウディファミリーに加わった最も新しい1台。日本発売に先駆け、東京モーターショーで日本初披露となる。



会期中、Audiのブースでe-mailアドレスを登録すると、Audiの東京モーターショーオリジナルコンテンツが入ったUSBメモリ(4GB)がもらえます!



Mercedes Benz キーワードは「CONNECTING SHOW」

新しいメルセデス・ベンツが満載!

1 News

新型BクラスとコンセプトAクラス。 近未来を示唆する2台のコンパクトカー

マイバッハ、AMG、スマートなどのブランドを擁するメルセデス・ベンツのブース。その一番の注目株は2台のコンパクトカー、新型Bクラス、そしてコンセプトAクラスだ。

来春にも上陸を予定している新しいBクラスは、車体の基本設計からシャシー、エンジンやトランスミッションに至るまで、全てが完全新設計の意欲作。サイドを走る大胆なキャラクターラインが目をひくボディは、これまでより全高が低く、空気抵抗を示すCd値は0.26と、このクラスでは他に例を見ない驚異的な数値を実現している。それでいてBクラスの特徴である室内の広さはそのまま。上質なインテリアとSクラスを凌ぐ後席レッグルーム、クラス最大容量の荷室空間などが特徴だ。

1.6L直噴ターボエンジンに、7G-DCTと呼ばれる7速デュアルクラッチトランスミッションを組み合わせたパワートレーンは、高出

力と低燃費を高い次元で両立している。安全装備の充実も目をひくところで、追突の危険を察知してドライバーに警告、ブレーキアシストを作動させて、ドライバーの操作と同時に最大限の制動力を發揮させて衝突を防ぐコリジョンプリベンションアシストを、何と全車に標準装備している。

あらゆる面で従来のコンパクトカーの常識を塗り替えるとしているBクラス。ブースには2台が展示される予定である。

一方、コンセプトAクラスは、その名から想像できる通り、次期型Aクラスを示唆するコンセプトカーで、日本では初公開となる。

注目は、低く構えたダイナミックなフォルムを持つスポーティコンパクトという、現行モデルとはまったく異なるキャラクター。2台を見比べれば、メルセデス・ベンツのコンパクトカーの近未来について、より深く知ることができるに違いない。



左:次期Aクラスを示唆するコンセプトAクラス。
右:すべてが完全新設計のBクラス。

2 News

125周年を記念する「F125!」 メルセデス・ベンツの新しいラグジュアリーカー像



車名のF125!とは、自動車の、つまりはメルセデス・ベンツの125周年を記念したもの。まったく新しいラグジュアリーカーの姿を定義するリサーチカーである。

ガルウイングドアを持つ全長約5メートルの4ドアボディは、カーボンやアルミなどを組み合わせて軽量、高剛性に仕立てられている。最新型の燃料電池を用いたプラグインハイブリッドシステムは航続距離1,000kmを実現。4輪に1個ずつのモーターを配したe4MATICによる卓越した運動性能も自慢だ。

音声入力にタッチ操作、手振りで制御する“@yourCOMAND”も注目したい。これこそ車内インフォテイメントの将来像である。

メルセデス・ベンツのリサーチカーは、常に単なるコンセプトには終わらず、技術やデザインが後の市販車に活かされてきた。きっとF125!も同じだろう。そんな目で見ればF125!、さらに興味深く映るはずだ。

すでに市販が決定しているニューモデルがひと足先にお披露目されるのも見逃せない。メルセデス・ベンツが今回、日本初公開するのは以下の2つのモデルだ。

まずはメルセデス・ベンツSLS AMGロードスター。昨年発売されるや大反響を巻き起こしたSLS AMGをベースに、ルーフをソフトトップに置き換えた2人乗りのオープン・スポーツカーである。

ソフトトップの開閉はわずか11秒、しかも走行中も時速50kmまでなら開閉操作が可能というから、望む時にすぐオープンエアドライビングを楽しむことができる。乗り心地を任意で変化させられる、電子制御ダンピングシステムを搭載したAMGライドコントロールスポーツサスペンションがSLS AMGに先駆けて搭載されたのは興味深い。

長いノーズの内側に積まれるのはV型8気筒6.3L自然吸気エンジン。最高出力571psという凄まじいパワーを、オープンにして解き放つ快感は、想像をはるかに超えるはず。まさに期待のニューカマーである。

もう1台は、これが3世代目となる新型Mク

SLS AMG ロードスターと 日本初公開の 3代目新型Mクラス登場!

ラス。そのスタイリングは特徴的なリアクオーターウィンドウなど、各部にアイデンティティを継承しながら全体に逞しさを増している。一方でインテリアは、デザインとクオリティの両面で格段にラグジュアリーさをアップ。印象はまさに一変している。

セレクティブ・ダンピング・システムを採用したサスペンションは、走破性と快適性を高次元で両立。最新鋭のV型6気筒3.5Lエンジンの搭載で、動力性能を向上させる一方で燃費の大幅な低減を達成したこと、特に今の時代、見逃せない進化と言えるだろう。

メルセデス・ベンツらしい最新鋭の安全装備の充実ぶりも注目のポイント。つまり、すべてに隙の無い進化を遂げているのが、新型Mクラスである。参考出品として今回の東京モーターショーでいち早く公開されている。

こちらも見逃せない。

News
3



上:メルセデス・ベンツSLS AMG ロードスター。
下:進化を遂げて登場する新型Mクラス。

INFOSOUNDで あなたも“つながって”みる?!

「INFOSOUND」を活用した“つながる”体験をブースで提供【専用アプリ(MBConnect)をダウンロード】。スマートフォンユーザーは各種情報が得られるほか、プレゼントが当たるチャンスも!※一部利用できない機種もあります。



コンパニオンのユニフォームで 来春のテキスタイルを先取り!

コンパニオンのユニフォームは新進気鋭のデザイナー、motonari onoが手掛けている。テキスタイルは2012年春夏コレクション用の先取りです。



News
4
ショー会場と、六本木
メルセデス・ベンツ・コネクション
を結ぶシャトルバス運行

数多くのラインアップを誇るメルセデス・ベンツだけに、会場内に展示しきれないモデルも沢山出てきてしまう。しかし今回の開催地は東京お台場。そのメリットを活かし、三菱ふそうとのタイアップによってショー会場と六本木にあるメルセデス・ベンツ・コネクション間のシャトルバスが運行される。

期間限定でオープンしたメルセデス・ベンツ・コネクションは、車両の展示のほかにカフェやレストランを用意し、メルセデス・ベ

ンツを通したスタイリッシュな時間を提案する新感覚の空間。両方訪れて様々なモデルに触れ、美味しいフードやドリンクとともに心地良い時間を過ごせば、今のこのブランドをさらに深く理解できるというわけだ。

つまり今回のショーでは、メルセデス・ベンツは、ニューモデルの展示のほかにも様々な楽しみを用意しているということである。運行スケジュールなど、詳しくは当日のブースで問い合わせられたらし。

Isuzu Motors ☺ キーワードは「Always Next to You —いつもあなたの暮らしのそばに—」

働くクルマをより身近な存在に感じられる



ERGA HYBRID



スミダバス

過去、現在、そして未来。働くクルマ達を見つめてみよう。

1924年以来トラックやバスを作り続けているいすゞの車は社会の身近なところで活躍している。今回は近代化産業遺産のひとつ、昭和7年生まれ「スミダ」を展示。めったにお目にかかるない逸材を眺められるのは、ショーならではの楽しみとして感慨深い。日本初公開のハイブリッド路線

バスとの対比も興味深いところ。また、見て触れる主力製品群を通して、いすゞを深く知るチャンスも。同社のホームページ上で子供にも人気の「世界のはたらく車」コーナーでは特大バージョンをブース展開。常に我々のそばに居たいすゞの歩みの一端を知り、家族で楽しむことができる。

小型も手掛けるいすゞの最新ピックアップトラック



D-MAX

タイで生産されるD-MAXは日本初公開モデル。実用的な貨物車利用から、アクティブなSUVとしての機能的な魅力は侮れない。今のところ国内発売の予定は無いと言うのが残念。夏に冬に遊び道具満載で走る姿は颯爽と格好良い。

Hino Motors ☺ キーワードは「人に、暮らしに、もっとやさしく、もっと便利に」

生活を支えるHINOのテクノロジー



ハイブリッドから未来のEVまで 環境にやさしい先進技術が勢ぞろい

小型トラックやバスの最新ハイブリッド車を披露。世界初公開の日野デュトロ プラグインハイブリッドや商用EVのコンセプトモデルも注目だ。プラグインは外部電源から充電できるだけでなく、災害による非常時等では逆に外部へ電源供給もできる。一方EVパンは電気モーターをフロントに搭載したFF方式のワンボックスタイプで低床な広い荷物スペースを誇る点も見逃せないところ。そのデザインは次世代の商用車を彷彿とさせる。またインドネシアで活躍する重ダンプも興味深い。35tの積載量は日本のダンプの3台分以上の働きに相当。そのタフな姿には圧倒されてしまう。



20回連続参戦・
完走を続ける
日野レンジャー

日野チームスガワラが
2011年にダカールラリーに参戦した車両。
その勇姿は企業姿勢のひとつを象徴する。

海外の鉱山で活躍する HINO 700 Seriesダンプ。その運転席に乗れる。



普段はお目にかかるないスケール。日本を走るダンプのほぼ倍の、迫力のある超大型ダンプだ。その差はホイールサイズの違いでも顕著。キャビンは国内の日野プロフィアと同じだが巨大なスケール感は目を見張るばかり。乗って触れるチャンスを見逃す手はない。

Mitsubishi Fuso Truck and Bus ☺ キーワードは「POWER TO THE FUTURE」

グローバル市場を視野に 未来を見据えたトラック・バスづくり



キャンターエコハイブリッド(写真左)は世界初公開。ミッションはトラック世界初採用のデュアルクラッチ式AMT「DUONIC」。エアロクイーン(写真上)は乗車もできるので、撮影スポットとしてもお勧めだ。(※AMT:Automated Manual Transmission)

ダイムラー・グループとのコラボで次世代技術の積極採用が進む

世界初公開と日本初公開、2台のキャンターに注目したい。今グローバル市場で活躍する小型トラックのキャンターは、エンジンもミッションも最新鋭の技術を投入して高い評価を集めている。世界初公開のキャンターエコハイブリッドは来春に追加発売予定。一方日本初公開となるキャン

ターE-CELLはEV(電気トラック)コンセプトだが実動モデル。ステージ上を音もなく動く姿が見られる。そして同社のフラッグシップバスであるエアロクイーンの優美なスタイリングと心地よいインテリアは必見だ。また、ブースでは素敵なプレゼントが当たるクイズ&アンケートも実施している。

2台の新型ローザが
無料シャトルバスに



今夏、六本木にオープンしたメルセデス・ベンツコネクション(カフェ&レストラン)とモーターショー会場を結ぶ無料シャトルバスが運行される。ローザは会期中限定のラッピングバス。六本木でランチを楽しむのも良い。

UD Trucks ☺ キーワードは「Road to Your Success」

働く車に込められる究極の信頼



「Quon」ウイング
(国内市場向け)



「Quon」トラクタ
(海外市場向け)

安全と環境と省燃費を求めて技術革新に邁進する企業姿勢を披露

UD トラックスは世界に先駆けて尿素SCRシステムの実用化に成功しQuonに搭載した。同社はディーゼルエンジンの排出ガスをクリーンにする先進技術を総称してFLENDs(フレンズ)と名付けている。ディーゼルエンジンは高性能と省燃費を追求するとNOx(窒素酸化物)が排出されてしま

う宿命がある。尿素水を活用する後処理でNOxを無害化するのだ。今では他社も追従し、標準的な手法のひとつとして定着した。現在のディーゼルエンジンが、如何に綺麗な排気ガスを手に入れたのか、主力製品とエンジンを展示するUD トラックスブースでそのカラクリを探ってみると良いだろう。

新ブランド、社名に込められた
“UD”の意味するところは?



UD TRUCKS

2010年2月に日産ディーゼル工業から社名変更したUD トラックス。“UD”はUltimate Dependabilityの頭文字で「究極の信頼」を意味する。ブランドコンセプトのRoad to Your Successも企業理念の“UD”に基づいているのだ。

Hitachi Automotive Systems ◎ キーワードは「Driving Force for Global Automobiles」

「環境」「安全」「情報」技術で未来の駆動力となる

1
News

日立が自動車部品産業へ参画したのは1930年のこと。黎明期の日本車は電装品を輸入に頼っていたが、その国産化を果たしたのが始まりだ。あれから80年余り。日立グループの幅広い技術とモノづくりの豊富な経験を背景に、日本のモータリゼーションの発展に貢献するとともに、グローバルな展開で成長を続けてきたが、2009年には競争力強化や事業発展のための経営判断、意志決定の迅速化などを目的に、日立製作所から分社・独立した日立オートモティブシステムズが設立されることとなる。現在は「環境」「安全」「情報」という3分野の進展に向け、4つのシステム事業の技術開発に重点を置いているという。

日立オートモティブシステムズの取締役、CTOで、JAMAが組織した東京モーターショー運営会議に参画する福永 泰氏は、モーターショーの24年ぶりの東京カムバック開催に大きな意義を感じている。

「次世代の新たな提案とともに、社会システムとの連携を展望する“SMART MOBILITY CITY2011”を併催するなど、世界をリードするテクノロジーモーターショーとしてたいへんに相応しいものになったと考えています。自動車関連産業が、エネルギー、電機、通信といった産業界とも連携し、先進性とともに次世代車両の情報発信を行うことには大きな



福永 泰氏(取締役 CTO)

社会システム全体での最適なエネルギー・マネジメント、情報制御に取り組む

意義があるのです」(福永氏)。

また、昨今の日本ではエネルギーを効率良く使おうという気運が高まっている。経済成長華やかなりし時代は、自動車も、より豪華なより煌びやかな方向に進んでいたが、今は「燃費」が自動車選びの重要なファクターだ。環境意識の高まり、震災の影響で強まったエネルギー問題への関心などがその要因だろう。

「日本全体が、行きすぎた部分を戻そうしているようにも思えますね。日本伝統の

“もったいない”文化、東洋思想に基づいた技術開発に期待が集まっているようにも感じています。そういう意味でも、東京カムバックは象徴的な出来事ではないでしょうか」。

江戸の町は太陽や川の恵みを最大限に活用した循環型社会で、理想的なエコロジーが実現されていたというが、今はそういう原点を見つめ直す必要にも迫られている。その現代的な解釈がスマートモビリティシティへ繋がっていくということだろう。

「与えられた環境のなかで、エネルギーを賢く、効率良く使っていく。そのために現代では、様々な情報を集積してコンピューターで解析・処理する。どうすれば高効率になるかをユーザーの方にフィードバックすることが必要です。日立グループは、火力・水力のみならず自然エネルギーなどの発電開発からエネルギー監視制御システム、送配電、情報通信、公共交通システム、電動車両システムなど、スマートシティを実現するための豊富な実績と技術、ノウハウを有し、電動車両を含めたクルマにおけるエネルギーの高効率化にとどまらず、社会システム全体での最適なエネルギー・マネジメント・情報制御の実現に向けた取り組みをおこなっています。

日立オートモティブシステムズを中心に自動車機器事業をご紹介している東京モーターショーブース(E6101)だけでなく、日立製作所を中心に次世代モビリティを含むスマートシティへの取組みを紹介しているスマートモビリティシティブース(SMC13)へも是非、足をお運び頂ければ幸いです」(福永氏)。

〈日立オートモティブシステムズがグループで取組む製品の一例〉



ハイブリッドシステム



Li-ion Battery
LITHIUM
ION BATTERY



エンジンマネジメントシステム



内燃エンジンの高効率システムと電動化システムで「環境」に貢献。



ステレオカメラ



電動型制御ブレーキ
外界認識センサーとアクチュエーションを連携し「安全」を支援。



カーナビ
ゲーション
(クラリオン)

ハードとソフトを合わせて、安心・快適・利便性を「情報」で高める。



EV向け
ICTソリューション
採用例「日産リーフ」

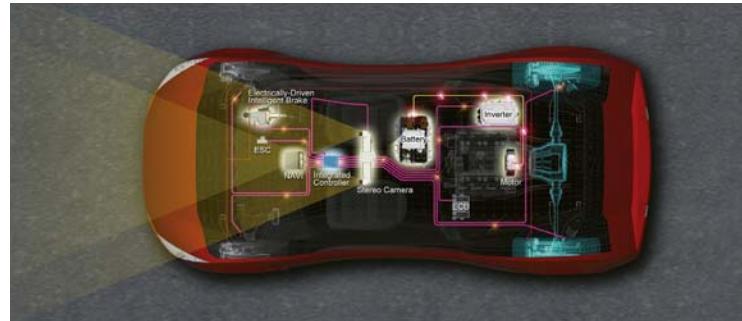
「環境」と「安全」と「情報」を 繋げる。めざすは、よりスマートな 次世代電動車両システム

日立オートモティブシステムズは、3分野4システムからなる事業をグローバルに展開している。1つめの「環境」分野は環境保全とエネルギーの効率的な利用を実現する直噴エンジン制御システムなどの「エンジンマネジメントシステム」と、ハイブリッド・電気自動車といった電動化向けの「エレクトリックパワートレインシステム」という2つのシステムからなる。2つめの「安全」分野では、ステレオカメラなど外界認識カメラ・センサー技術、機械系を電機・電子系に置き換えるバイワイヤ技術を活用し、パワーステアリングや電動型制御ブレーキなどをきめ細かくコントロールして車両運動制御する「走行制御システム」に取り組んでいる。

3つめの「情報」分野では、ナビゲーションやデータ通信モジュールなど車載情報機器のハードをはじめ、グローバルデータセンターを介した交通情報サービスや電気自動車の充電管理などのICTソリューションを提供する「車載情報システム」が事業領域だ。

これら3分野4システム事業は、次世代車に求められる高次なシステムソリューションの実現にむけて、各コンポーネントが独立機能

News 2



次世代電動車両システム図

優れた指揮者によって、バイオリンやフルート、ピアノが素晴らしいハーモニーを奏でるように、一つ一つのキーコンポーネントを、最適な電子・電動制御システムとして繋げ、全体の効率化を図る。

するだけでなく、互いに協調・連携し、高度に統合された車両制御のイノベーションを取り組んでいるという。つまり、日立オートモティブシステムズの強みは、各キーコンポーネントをシステムとしてとらえ、センシング技術や情報通信技術との連携で全体の最適化が行えることだ。

たとえばハイブリッドカーでは、回生ブレーキによっていかに電気エネルギーを回収し、どんな場面で駆動へ使うかということが効率改善に繋がっていくが、それにはこれから走る道路の地形などが分かっていればさらに都合がいい。もうすぐ長い下り区間になって回生ブレーキがたくさん働くとなれば、それまで電力使用量が多くてもさほど問題はない。バッテリー容量が少ないハイブリッドカーではむしろ、電力を使い切っておいたほうがより多くのエネルギー回収に繋がり、トータル

の効率は良くなるはずだ。

また情報通信技術を用いることで、データセンターで車両充電を管理し、最適な充電ステーションに誘導したり、目的地までの高精度な渋滞予測など、電気自動車のドライブに安心・快適を提供するソリューションをすでに始めている。

次世代の自動車では個々のハードウェアの性能だけではなく、車載システム連携と、情報通信技術を核とした社会との連携が重要であり、さらには自動車だけではなく公共交通機関も含めた交通全体が最適なかたちで繋がっていく社会デザインが必要だと日立グループは考えている。まさに、スマートモビリティシティの具現化がテーマでもあるのだ。

News 3

日立グループの 技術を ブースで体感！

モーションライド
シアター

さらに第39回東京モーターショー2005で好評を博し、長蛇の列となったモーションライドシアター2005の進化バージョンも今回導入された。4人乗りのドライビングシミュレーターが前方のスクリーンの映像に合わせて動作するもので、今回はスマートシティを走行しながら日立の走行制御技術をモーションとともに体験できる。

日立グループは東6ホール(E6101)だけでなく西4ホール(SMC13)で併催のスマートモビリティシティ2011にも出展。非接触IC内蔵の携帯電話を用いた認証システムにより、2つのブース両方に訪れた来場者には、毎日先着限定数でノベルティの配布をおこなっている。



今回、日立オートモティブシステムズは、臨場感ある映像とともに、日立グループの技術を体感できる2つのシアターを東京モーターショーのブースに導入し、来場者の期待に応える構えだ。まず迫力の3Dマッピングシアターは、未来的なデザインのクルマ原寸大模型を立体スクリーンにして、複数のプロジェクターから映像を分割投影することによって、裸眼でも3Dカーの走行空間を体感できるものだ。日立オートモティブシステムズがグループで取組む製品紹介や、キーコンポーネント連携により高効率エネルギー・マネジメントを可能とする次世代電動車両システムがわかりやすく紹介されている。

Asahi Glass ◉ キーワードは「世界はガラスで変えられる」

「スマートな社会」は“ガラス”で実現する

**「世界は本当にガラスで
変えられる。
私たちはそう信じています」**

世界最古のガラスは紀元前数千年まで遡ると言われている。その始まりは“偶然”であったそうだが、そのとき、人々はどんなに驚いたことだろう。

「私たちは今回、スマートモビリティシティの出展にあたり“世界はガラスで変えられる”をコンセプトとして掲げました。実際、ガラス

の発明によって、またガラスの進化によって、人々の暮らしは豊かになってきたのです。窓や自動車などは分かりやすい例ですが、液晶ディスプレイ、スマートフォン、デジタルカメラなど、便利で快適な現在の生活はガラスなしにはあり得ません。ガラスを中心とした最先端の材料、さらには技術がどのように私たちの暮らしを支え、また、これからの世界を変えていくか、皆さんに知っていただきたいと思っています」(石村和彦氏)。

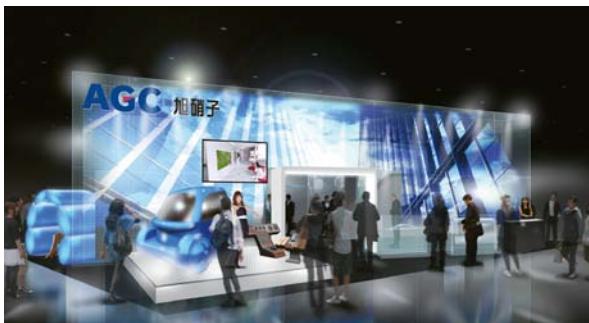
A G C 旭硝子の信念が表現されたブース。“ガラス”が未来への希望の1つであることを実感できるに違いない。



News
1

代表取締役・社長執行役員・CEO
石村和彦氏

News
2



**AGC 旭硝子のブースで、
様々なガラスの
世界を体感しよう**

ブースでは縦3m×横11mの巨大なガラスの壁面が設営され、そこに「世界を変えてきた」ガラス等の映像が映し出される予定である。また、様々な新しいガラスの実験機が設置され、不思議なガラスの世界を体感できる。

**創業以来104年
世界をガラスで変えてきた**



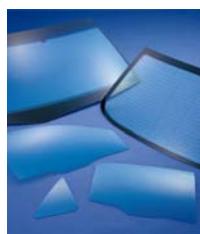
News
3

普段当たり前のように目にする、ガラスを使用した様々な製品。窓、自動車、TV、太陽電池。全て同じに見えるガラスだが、実はそれぞれ機能に合わせて進化してきた。

A G C 旭硝子は今年で創業104年。104年間世界の変化をガラスで支えてきた。例えば自動車用ガラスでは、視界がクリアで割れても飛び散らない安全なガラス、液晶TVでは、厚さわずか0.7mmの非常に薄くて平坦なガラス、建築用では、夏の太陽熱をはね返し、

冬の結露を防ぐ快適なガラス、太陽電池用では、非常に透明で太陽光をより多く取り込むガラスなど、数多くの「世界を変えたガラス」を、A G C 旭硝子は開発してきた実績がある。

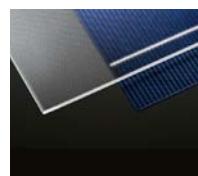
それらの開発に伴う幾多の困難を、創業の精神「易きになじまず難きにつく」を合言葉に克服してきたA G C 旭硝子。ガラスの可能性に挑戦し、新たな世界の創造を続ける。今回の出展のテーマに掲げた「スマートな社会」の実現に向けてこれからも同社の挑戦は続く。



自動車用ガラス。外界が
歪みなく見えるのは、高
度な技術の裏付けがある。



液晶TVの普及はディスプレー
ガラスが支えている。
AGC 旭硝子は世界で第二
位のシェアを誇る。



上:太陽電池用カバーガラ
ス「ソライト®」

下:快適なガラス(Low-Eガラス)が採
用されたロシアのナベレジナヤタワー



- 1907 創業
- 1909 板ガラスの生産開始
- 1954 複層ガラス(ペヤグラス)の生産開始
- 1956 自動車用加工ガラスに
本格進出
- 1998 TFT液晶TV用ガラス基板の
量産開始
- 2010 自動車フロントドア用UVカット強化ガラス
「UVペールPremium®」の販売開始
- 2011 化学強化用ガラス
Dragontrail®の量産開始

News 4

ガラスの常識を変える「薄く、強く、しなやかな」 Dragontrail®

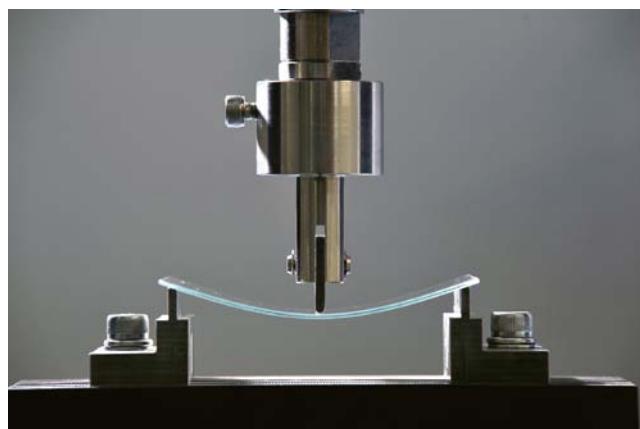
一般的に、ガラスのイメージは、割れやすく、曲がらない。そういった、従来のガラスの持つ常識を変えるのが、AGC旭硝子が開発した新世代ガラス「Dragontrail®」だ。

この製品は、現在、目覚ましい普及を見せるスマートフォンやタブレットPCなどの携帯型情報端末用カバーで要求される「軽く、割れ・傷に強く、高級感がある」といった特性に応えるため、AGC旭硝子が長年培ったガラス開発技術を駆使して開発された。

「Dragontrail®」は、通常の窓ガラスなどに使われているガラスでは不可能な強度、しなやかさ（写真右：ガラスが割れずに曲がる！）を達成し、もちろんプラスチックにはない「傷つきにくい」、「艶やかな質感」など、ガラス素材ならではの特長を持ち合わせている。

「Dragontrail®」は、今後携帯型情報端末分野だけでなく、IT化が進むにつれタッチパネル操作がより一般的となりつつある自動車用インパネや、家庭内情報端末、また省

エネ・創エネの要求から薄型・軽量が進む自動車用窓ガラス、軽量太陽電池など、世界が「スマートな社会」に変化する中で、重要な位置を占める製品となることが予想されている。



「Dragontrail®」は通常のガラスでは得られない強度と、優れた耐傷性を有する。

ガラスの常識を変える 「紫外線を約99%カットする」 UVペールPremium®

AGC旭硝子では、女性にとって耳よりな製品もラインナップされている。そのひとつが「UVペールPremium®」。

多くの女性にとって紫外線は大敵。AGC旭硝子の独自調査でも、女性がもっとも気にしていたのが運転中の日焼けだった。そこで、従来のフロントドア用UVカット強化ガラスに新たな高性能UV吸収膜をプラスすること

で、さらに高いUVカット性能の実現を目指した。フロントドア用ガラスは窓の開閉により表面が傷つきやすいなど、多くの技術的な課題があったが、世界トップシェアを誇る自動車用ガラスの技術力を基に開発された「UVペールPremium®」は、独自の技術革新でそれらを克服。フロントドア用強化ガラスとして世界初^{*1}のUVカット率約99%^{*2}を実現し、昨年12月発売のトヨタ「ヴィッツ」に初めて採用された。

*1 2010年12月現在、同社調べ。

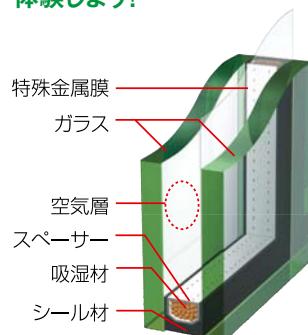
*2 同社測定値。ISO9050基準。

News 5

紫外線を当てると反応するUVチェッカーでテスト。窓を開けると紫色に反応したUVチェッカーも、「UVペールPremium®」に守られると色が消える。



快適なガラス「サンバランス®」を体験しよう!



「サンバランス®」は、ガラスの内側の特殊金属膜の働きで、照りつく夏の太陽熱（赤外線）をね返す。また2枚のガラスの間の空気層で結露を防ぎ、冬は暖房効率を高めてくれる。

AGC旭硝子のブースでは、「快適」を体験する装置があるので、住宅用ガラス「サンバランス®」から実現する「スマートな社会」をこの機会にぜひ体感しよう。

BRIDGESTONE ☺ キーワードは「あなたと、つぎの景色へ」

“技術”のその先へ。新しいブリヂストンが分かる!

News
1

創立80周年、ブリヂストンの 新たな決意。 「一人ひとりを支える」企業でありたい

2011年3月1日、ブリヂストンは創立80周年を機に、ロゴやマークなどのブリヂストンシンボルをリファインし、顧客に向けたメッセージであるタグラインを一新した。新しいタグラインは、「あなたと、つぎの景色へ」。

顧客に対する思いと真剣に向き合った結果、「一人ひとりを支える」企業でありたいと、改めて思ったのだという。

そんなブリヂストンの新たな決意が、東京モーターショーのブースに反映されている。

BRIDGESTONE
あなたと、つぎの景色へ

これまで技術を前面に押し出す展示が多かったが、今回は一歩先まで踏み込み、「その技術がどんなふうに役に立つか」が直感的にわかるような仕掛け。ブリヂストンが導く「つぎの景色」を実感してみよう。

News
2

「エコピア」「ブリザック」 そして「リトレッド」 革新的タイヤをブースで

ブースでは、低燃費タイヤの「エコピア」、北海道・北東北で装着率ナンバーワンを誇るスタッドレスタイヤの「ブリザック」、1次寿命が終了したトラック・バス用タイヤのトレッドを再生して使用する「リトレッドタイヤ」を展示している。ブリヂストンのリトレッドタイヤは、タイヤケースのクオリティに力を入れていると胸を張る。リトレッド後の品質を誇れるのも、骨格がしっかりしていればこそだ。

エコピアは乗用車用だけでなく、小型トラックやトラック／バスなど、幅広いラインアップをそろえているのが特徴。転がり抵抗の低減とウェット性能の両立が低燃費タイヤ開発の課題だが、ブースには、最新技術を盛り込んだ革新的な製品の展示がありそうだ。



News
3

「CAIS」や「新コンセプトタイヤ」 新技術にも注目！

新技術にも注目しておきたい。「CAIS（カイズ）」は、タイヤのトレッド面内側に装着したセンサーによって振動を検出し、路面状態を判定する技術。乾いた路面と濡れた路面では、トレッド面の振動が異なることに着目した技術だ。この技術を利用すると、気づかず間に凍結路面に遭遇したドライバーに警告を発したり、通信技術によって後続のクルマに危険な状態を知らせることができるようになる。今回のショーでは、この画期的な技術の最初

の適用例がアナウンスされる。

「新コンセプトタイヤ」の斬新なアイデアは一目瞭然だ。タイヤとは切っても切れない関係にあった“空気”を必要としないからだ。加えて、再生利用可能な材料で製造することを想定しているため、環境性能が高いのがウリ。



News 4

「fun」もいっぱい。 楽しみながら タイヤのことを知ろう!

あの「タイヤカフェ」をブースで再現!

テレビCMでおなじみのICE TAIYA CAFEがブースに再現されている。CMの中では店主はさかんに床で足を滑らせていたが、実際はどうなのだろう。やっぱり寒い? 冷たい?なんてところが気になってしまふ。クルマ好きの心をくすぐる、タイヤをあしらった調度品や小物にも注目したい。残念ながら「アイスタイヤコーヒー」は注文できず、店主も不在だが、客になりきって演じてみよう。



News 5

タイヤのことがやさしく分かる 楽しいステージイベントも!

普段当たり前のように覆いているタイヤだが、実は私たちひとりひとりの暮らしを支えてくれている。そのことをショーコンパニオンが、ショートストーリーを通じて分かりやすく、楽しく伝えてくれるステージイベントにも注目だ。お見逃しなく!



MotoGPマシンが見られる!

レプソル・ホンダ・チームRC212V、ヤマハ・ファクトリー・レーシングYZR-M1のMotoGPマシンを展示。レース走行後のタイヤも併せて展示。



「タイヤセーフティー選手権」 表彰式開催!

ブリヂストンブースでは、12月10日(土)14時から、「タイヤセーフティー選手権」の表彰式が開催される。タイヤセーフティー選手権とは、交通安全やタイヤの日常点検の推進につながる動画や活動アイデアを募集するコンテスト。2011年5月8日~10月8日の期間中に、高校生以上の方々から応募を募った。当日は映画監督の大林宣彦氏の他、同社役員から表彰される予定。参考URL:<http://tiresafety-contest.jp/>

ぜひ、ブースを覗いてみよう!

DUNLOP ☞ キーワードは「低燃費タイヤ、石油外天然資源タイヤ」

ダンロップの本気。「エナセーブ」が地球を救う!?

1
News

環境配慮タイヤが変えていく クルマ社会の未来

ダンロップは、早い段階で環境配慮自主基準を策定し、地球環境保護に配慮したタイヤ開発に力を注ぐ企業である。

「タイヤが地球環境に貢献しうる方向性は「原材料」「低燃費性」「省資源」という三つのアプローチだと考えます」と、住友ゴム工業株式会社 代表取締役社長の池田育嗣氏は語る。

ひと口にタイヤのエコといっても、作ると

きと使うときのエコがある。「原材料」を石油由来以外のものに切り替えたり、スペアタイヤを省いて「省資源」に取り組み、作るときのエコを進めてきた。使うときのエコでは、「低燃費性」を向上させたタイヤの開発にも注力している。自動車の走行抵抗のうち、タイヤの転がり抵抗が約20%を占めており、それを小さくすれば自動車の低燃費化に大きく貢献



わたくしたちは、環境先進企業として、
環境省と環境保全の取組をしました。



住友ゴム工業株式会社
代表取締役社長
池田育嗣氏

できる。「石油外天然資源タイヤ」「低燃費タイヤ」を最先端の環境技術で推進し、環境対応ブランド「エナセーブ」を市場に投入している。

2
News

エナジーセーブとネイチャーセーブを形に。 それがエナセーブブランド



エナセーブブランドには、「エナジーセーブ」と「ネイチャーセーブ」の2種のコンセプトが含まれている。タイヤの転がり抵抗を減らし、自動車の低燃費化を目的とするエナジーセーブの考え方とは、ミニバン専用の「エナセーブ RV503」、セダン・コンパクトカー向けの「エ

ナセーブEC202」に反映されている。さらに転がり抵抗を半分まで下げた低燃費タイヤを2015年までに発売する目標だ。一方、ネイチャーセーブのコンセプトに則って、石油や石炭などの化石資源の使用量をわずか3%まで減らした「エナセーブ97」を

2008年に発売している。石油外の天然資源を97%も使用し、従来のタイヤの性能を保つことの難しさは筆舌に尽くしがたいが、さらに天然資源100%を実現したタイヤの発売も2013年を目標に進められている。

News 3 エナセーブ エクスペリエンス!

低燃費タイヤ エナセーブのヒミツは、転がり抵抗を低減させる技術にある。

ブースではエナセーブの世界観やそれを実現したテクノロジーを紹介。エナセーブ体感コーナーでは、ナノレベルのゴム素材開発を「見える化」したコーナーや、転がり抵抗が燃費に影響する原因を明かす実験機などを用いながら、エナセーブについて分かりやすく紹介してくれる。また、2013年発売予定の100%石油外天然資源タイヤのプロトタイプも展示される。



Topics

エナセーブと東京モーターショー

ダンロップは、2001年の東京モーターショーで、「石油外天然資源タイヤ開発プロジェクト」を発表して以来、常にこの会場でプロジェクトの最新成果を報告してきた。2005年には石油外天然資源比率70%のタイヤを、

その後には97%まで高めたエナセーブ97、2009年にはエナセーブシリーズの拡大など毎回が驚きの連続だ。そして2011年、今年のダンロップブースでは我々に何を驚かせてくれるのだろう。

2001



石油外天然資源
使用比率97%
プロトタイヤ

2003



石油外
近未来タイヤ

2005



エナセーブ ES801
石油外天然資源
使用比率70%

2007



エナセーブ 97
石油外天然資源
使用比率97%

2009



エナセーブ
RV503
ミニバン専用
低燃費タイヤ

エナセーブ
EC202
スタンダード
低燃費タイヤ

2011



NTT DOCOMO ↗ ドコモが創る未来のカーライフ。楽しくて便利！

「あつたらいいな」のカーライフをドコモが創る



「ドコモ ドライブネット」
サービス契約、
専用アプリ

News
1

スマートフォンが本格派カーナビに！

いつも使い慣れたスマートフォンが、クルマに乗ったら本格ナビゲーションになる。「ドコモ ドライブネット」によって、そんな新しい世界が始まっている。

使い方は、対応スマートフォンでドライブネットサービスを契約し、専用アプリをダウンロード。そして車内でのスマートフォンの定位置となる、専用の「ドライブネットクレイドル 01」に設置する。これは単なる台座ではなく、GPSレシーバーや、加速度センサー、ジャイロセンサーを搭載し、高度な位置認識で自車位置を計算する優れもの。

スマートフォンをセットすればハンズフリー通話が可能となり、音声入力でのフリーワード検索もできる。さらに、ドコモの通信を利用して、年2回（予定）新しい地図に更新さ

れるのもうれしい。

また、渋滞情報はVICSのみならず、実際に走行する他車からの走行データを加味することで広範囲で精度の高い情報が反映されている。きめ細かな道案内で、きっとドライバーのイライラを解消してくれるはずだし、オービス情報も入っているから、安全運転に一役買うことだろう。そのほかにも駐車場の満空情報、グルメや観光情報、テレビ紹介スポットなど、様々な役立つ情報が手に入る。また「ドライブネットクレイドル 01」はシガーライターソケットから電源を取っているから、車中でスマートフォンの充電も可能だ。

「あつたらいいな」と思っていた、楽しく便利なカーライフ。ドコモのブースでは、最新機種で、デモ画面や操作性を実際に体験できる。



Go ! Go ! ドライブネットキャンペーン

キャンペーン期間中（2012年1月15日まで）に
「ドライブネットクレイドル 01」を購入すると抽選でステキな賞品が当たる。
詳細はドコモのホームページで確認しよう。

[ドライブネットキャンペーン](#)

検索

News
2

大画面で操作しやすい タブレットに対応した クレイドルも

「ドコモ ドライブネット」対応のタブレット用クレイドルが今回、参考出展される。タブレットならスマートフォンより大きい画面サイズだから、さらに見やすく、操作しやすくなるはずだ。地図や渋滞情報だけでなく、グルメや観光情報なども大きい画面で見ることができるのでとても便利に。地図や渋滞情報を見ながら、テレビで紹介されたレストラン

や観光スポットを探したりといった操作も、画面が大きいからスムーズに使えるし、もちろんキーボードも大きいので快適なタッチ操作が行えて検索もラクラク。

みんなで見られるから家族でお出かけの際にも最適！ そんなタブレット用のクレイドルをドコモブースでぜひチェックしよう。



News 3

人とクルマの関係を 変える通信モジュール

クルマとの新しい付き合い方。ドコモのブースには、そんな先進技術の結晶「FOMAテレマティクスマジュール」も展示されている。日産自動車から発売されたEV(電気自動車)、「日産リーフ」に搭載されている。その通信機能によってケータイから充電操作やエアコン



操作、オペレーターと会話してナビ設定やトラブル対応を頼めるサービスを実現。近い将来には、たとえば「明日は朝7時出発ね」「OK、エアコン入れておくよ」なんて会話が、クルマとできるようになるかも知れない。

News 4

ドコモが創る未来のカーライフを ブースで体験しよう

ストーリーの始まりのような映像に惹かれ、白を基調とした明るいブースへと足を踏み入れると、ステージには気品のあるグランドピアノ。生演奏の美しい音色に耳を傾けつつ、大画面の映像に描かれる新しい「未来のカーライフ」に浸ってゆく。

「デザイン」や「燃費」といったハード面を中心に進化してきたクルマにドコモの技術・サービスが加わることで、未来の自動車はソフト面でも更に進化が加速していくはずだ。

ナビゲーションシステムの高度化だけでなく、たとえば、ドライバーの走行シーンに合

わせて自動的に音楽を配信したり、クルマが歩行者情報を入手することで事故を未然に防いだりなど、未来のカーライフはより便利に、より安全にと、進化していく。

今回の出展では、「ドコモ ドライブネット」などに加え、未来のITSサービスが分かりやすく紹介されている。

そこから感じるのは、情報でつながる安全な社会の楽しさ、便利さ。クルマ同士、クルマと歩行者、クルマと街が瞬時につながりあって、ドコモが創るカーライフをじっくり体感してみよう。



ブースのご案内

ピアノの生演奏と大画面映像の プレゼンテーションステージイベント

ドコモが創る未来のカーライフを、楽しみながら聞けるプレゼンテーションは約1時間おきに展開される。ぜひのぞいてみよう。(時間や内容は変更になる場合があります)

アンケートに答えて ドコモダケグッズをもらおう!

受付で渡されるアンケートに答えると、ドコモダケグッズがもらえます!(無くなり次第終了)



・画像はイメージです。

充電サービスが利用できる

ブースではドコモの携帯電話の充電サービスが用意されているのも嬉しい。(非対応機種もありますので、ご利用条件など詳しくはドコモブースまで)

※ご利用には、ドコモ ドライブネット対応機種、ドコモ ドライブネットアプリのインストールとは別に、ドコモ指定の料金プラン(タイプSS バリューなどのご契約)、プロバイダ(spモードまたはmopera Uのご契約)が必要です。機能によりドコモ ドライブネットサービスのご契約(月額使用料:315円(税込)、ご利用日数にかかわらず日割りされません)、ドライブネットクレイドル 01が必要です。

※ドコモ ドライブネット提供のため、ドコモはお客様の現在地情報を取得することがあります。

※アプリのご利用には大容量のデータを送受信し、パケット通信料が高額になるおそれがありますので、定額サービスのご利用を強くお奨めします。

※直射日光が当たるなど、機器が高温になりやすい状況下では、ご使用、保管、放置しないでください。

※ドコモ ドライブネットのご利用にあたっては、ドコモが定めるドコモ ドライブネット利用規約および注意事項をよくお読みいただき、その全ての条件に同意いただく必要があります。

△運転中のご利用について

※ドコモ ドライブネットアプリを運転者がナビゲーションとしてご利用の場合は、必ずドコモ ドライブネット対応クレイドルに装着してご利用ください。

※車内でスマートフォンの操作をする場合には、必ず安全な場所に自動車を停車させてから行ってください。

・本記事のアプリ画像は、「ドコモ ドライブネット powered by カロッツェリア」アプリを掲載しています。

・VICSは、財団法人 道路交通情報通信システムセンターの登録商標です。

・画面および画像はイメージです。

・平成23年11月18日現在

ドコモ ドライブネットの対応機種・ご利用条件などの詳細は、ドコモブースまたはドコモのホームページをご確認ください。

LIXIL ◎ キーワードは「ミッドテリア～LIXIL NATURE GIFT HOUSE～」

「いのちもくるまも集う家」 ミッドテリアでつながるモビリティのある新しい暮らし

News

内と外、人と自然、家と地域…、それらを再びつなぐ。

住宅設備機器・建材の総合メーカーであるLIXIL（リクシル）が

先人の知恵とハイテクを融合させ、安全・安心・快適な住まいを提供する



かつては廐に愛馬をつないで世話をしたよう
に、EVを玄関先に停めて充電する。菜園か
らもぎたての野菜を仕分けしたり、ご近所の
人たちとお茶を楽しむ空間にもなる。外でも
中でもない“ミッドテリア”のある暮らしなら、
「ただいま」の声とともに、人と家と自然のコ
ミュニケーションがつながっていく。

そんな光景が浮かぶような今回の展示は、
LIXIL（リクシル）の企業理念のひとつとして
掲げる、“地球と調和する「暮らしの理性」を
創造する”がベースとなったものだ。そこか
ら描かれたキーコンセプトは、「いのちもくる

まも集う家」。そこにはLIXILが考える10の要
素が具現化されている。家とクルマのしきり
を取り除くことで生まれる新たな空間の活用
や、自然との調和を考えたさまざまな工夫が
施された暮らし方の提案を行っている。

また、これまでにLIXILが協力しているふた
つの施設にもその想いは継承されている。東
京大学生産技術研究所と共同で、東大駒場リ
サーチキャンパスに、2020年に広く普及す
ることを想定して建設した実験住宅「COMMA
ハウス」（写真中）。太陽や風を上手に利用し、
エネルギーをかしこくコントロールして、快

適に暮らせるスマートハウスを研究する。も
うひとつは、北海道大樹町に完成した、隈研
吾氏設計の寒冷地住宅環境研究施設「メーム」。
アイヌ民族の知恵を活かし、-30℃という厳
しい外気温の中、何もしなくても家の中は-
10℃まで保温される。これは今までにない、
環境に配慮し、ひとにとって真に快適な住
まい、環境共生住宅の可能性を研究するものだ。

LIXIL 営業カンパニーの吉田氏は、「日本人
は永きに亘り、自然の力を活かした暮らしを
してきました。そこには、さまざまな先人の
知恵が受け継がれてきています。私たちが提
案するのは、その知恵を最大限に活かしながら、
最先端の技術をプラスした、これから
の新しい暮らし方です」と話す。

内と外、人と自然、家と地域など二元にわ
かれていたものごとを、再び「ミッドテリア」
がつながっていく。ブースではきっと、“ミッド
テリアでつながるモビリティのある暮らし”に、
心地よく浸れるはずだ。



(株) LIXIL 営業カンパニー
吉田 格氏



東京大学生産技術研究所と共同で
設計した実験住宅「COMMAハウス」



北海道大樹町に完成した隈研吾氏設計の寒冷
地住宅研究施設「メーム」。

2

「ミッドテリア」と、それを生かす技術や工法で より快適な住まいへ

LIXILが提案する「ミッドテリア」は、内と外を心地よくつなぐ空間として、エクステリアとインテリアの中間に位置する。屋根があれば雨や雪をしのぐことができ、壁で囲わずによく風が吹き抜けるような、自然を楽しむスペースがイメージされている。外とつながる開放感と、ホッとできる居心地の良さがほどよく調和したミッドテリアによって、人・家・自然がゆるやかにつながり、モビリティはもっと、人や家と近くなる。

「ガーデン」と「ルーム」が融合したミッドテリア。環境に配慮した素材にこだわり、心地良さを追究する。



ミッドテリアの開放感とくつろぎ感を、いつでも享受できるようにしたのが、日本の家造りの知恵を活用し実現した「外付け可動ルーバー」だ。たとえば、夏の強い陽射しは遮りたいけれど、心地よい風は入れたい。逆に、冬には暖かい陽射しを取り込みたい。そんな時、ルーバーの角度を変えたり、開け放したりすることで自在に叶えることができる。またルーバーがもつ防犯効果は安全・安心にもつながる。

開口部の外側に縁側空間を設け、その外側に「外付け可動ルーバー」を配置している。



木材の欠点（曲がり・割れ・ヤニなど）を緩和する「EDS工法」。炉の中の温度やガス分子、酸素分子をセンサーで制御して材質改良を行う技術で、従来使えなかった樹種も建材として活用できるため、森林環境保全の一役を担うことができる。今回の展示では、防虫、防腐効果に優れたEDS竹材を使用したミッドテリアのためのキッチンを公開。愛知万博で、EDS竹+トラス構造で巨大ドームを完成した実績を持つ高い技術に注目だ。

EDS工法は世界中の様々な樹木に適しており、今回これまで有効利用されていなかった竹材が使われている。



3

LIXILが手ければ、 自然と調和する やすらぎのあるテイストに

コンパニオンが着物で
お迎えします

コンパニオンはひび
のこずえさんデザイン
の着物で迎えてくれ
る。また、帯の制作
は日本で初めて自動
車シートファブリック
に着手した川島織物
セルコンが手掛けた。



EVを木材で カスタマイズ

スローモビリティをイメージし、
木材でカスタマイズしたEV
が、ミッドテリアに展示される。

LIXILとは

株式会社LIXIL（リクシル）は、住宅を構成するさまざまな部材、設備を製造・開発する住宅設備機器・建材の総合メーカーだ。住宅市場が大きく変化する中、既存の枠組みを超えた総合的なソリューションを提供するため、2011年4月にトステム、INAX、新日軽、サンウエーブ、東洋エクステリアの5社が統合して誕生した。LIXILは新しい価値を創造し、人びとの快適で豊かな暮らしを実現する製品やサービスを届けていく。

ていねいな暮らしを。

LIXIL

TOSTEM INAX SHINNIKU sunwave TOTO



RENAULT キーワードは「FTS戦略—フレンチタッチ・トレンディ・スポーツ」

退屈とは無縁。ルノー車って面白い!

News
1

コアユーザーの心を がっしり掴む、個性的な 展示車両が目白押し

フランスのパリ郊外に本拠を置くルノーは、傘下に収めたグループ会社まで含めるとヨーロッパ最大規模を誇る自動車メーカーである。小型乗用車から商用車まで、ベーシックカーから高級車までと、あらゆるクラス、様々なタイプの自動車を世界に送り出している。

それら数多い選択肢の中から、ルノー・ジャポンは“クルマならではの楽しさ”をハッキリと具現化したふたつの路線をチョイスし、日本での展開に力を入れている。

ひとつはスポーツモデル。御存知のとおり、ルノーはF1グランプリと縁が深い。2011年シーズンは、ルノーのF1エンジン部門である“ルノー・スポールF1”が供給するルノーエンジンを搭載したレッド・ブル レーシング ルノー チームが、2年連続でチャンピオンを獲得した。

ルノーの市販車スポーツモデル（R.S.、GT、GTライン）の開発と、フォーミュラカー、ラリーカー、ツーリングカーなどのレーシン

スポーツ系としては「メガーヌ R.S.」。このほか、スポーティ&ファッショナブルなウインド ゴルディーニ、メガーヌのクーペカブリオレ版でガラスのルーフを持つ、メガーヌ グラスルーフ カブリオレ、またメガーヌGTラインも出展されている。



グマシンの開発は、この“ルノー・スポールF1”と並び立つ開発部門“ルノー・スポール”が手掛けている。つまり、ルノーの市販スポーツモデルには、両者のレーシングテクノロジーが惜しみなく注ぎ込まれているのである。

そしてもうひとつは、日々の暮らしをさらに楽しくしてくれる家族向け多目的自動車、“カングー”的存在。個性的でお洒落なルックスに、豊かで快適なシート周りと遊び心を満載した広い荷室。走らせても楽しいカングーは、家族全員が心から満足できる世界的にも稀有なミニバン（フランスではルドスバス=遊び



大人気のカングー。フランスではルドスバス（=遊びの空間）と呼ばれており、そのスピリットが日本人に響いているのかも知れない。

の空間と呼ばれている！）だ。

ルノー・ジャポンは、スポーツ系モデルを存分に走らせることのできるサーキットイベントや、家族連れがカングーに乗って自然の中でのんびり休日を過ごせる“カングージャンボリー”など独自のイベントを開催し、ルノーファンやユーザーにライフスタイルのあり方を提案している。

今回の展示車両も、そうした方向性に添ったフレンチタッチ溢れるモデルが中心。コンセプトカーの“キャブチャー”はじめ、メガーヌ グラスルーフ カブリオレ、ウインド ゴルディーニ、カングー イマージュといった本邦初お目見えの参考出品車が並んでいる。

東京モーターショーの会場で、ぜひルノーのオモシロさに気づいていただきたい。



遊び心とスポーツ性を両立するルノーラしさ。
近い将来の小型SUVをイメージしたコンセプトカー、キャブチャーも本邦初公開となる。



BMWのキーワードは「プロジェクトi～持続可能で先駆的モビリティ・コンセプトを開発する」

駆けぬける歓びも持続する。BMW i

1 News

完全なる電気自動車「BMW i3」 2種の駆動システムの 長所をあわせ持つ「BMW i8」

BMWが発表した持続可能性を追求するサブブランド「BMW i」。今回、会場に展示されている2台の「BMW i」は、いずれもEV／PHV用にブランニューで設計されたもの。

エンジン車をベースにEV／PHV化するのではなく、モーター駆動を前提に新設計することにより、環境性能だけではなく、モーター駆動の車両独自の走行性能も手に入れた。

「BMW i3」ではリチウムイオン電池をアルミフレームの中に抱え込むことで重心を低め、衝突安全性能と十分なボディ強度を確保。その上にカーボン複合材料製のボディを搭載して、万が一の事故の際にも乗員のための空間を確保。軽量化と剛性の確保を両立した。リアに搭載される電気モーターの出力は、すでに市販されているEVと比べて170ps／250Nmと非常にパワフル。



一方、「BMW i8」は170psのモーターで前輪を駆動し、220psのターボ付3気筒エンジンで後輪を駆動する。0-100km/h加速は5秒以下、最高速250km/hを確保しつつ、33km/L以下の低燃費を両立。エコを追及しつつ、走りも追求するのがBMW流であり、「BMW i」ブランドの目指す未来の乗り物像なのだ。

写真左がBMW i8、右がBMW i3。いずれもEV／PHV用にブランニューで専用設計されただけあって、未来感にあふれている。BMW流の未来の走りを期待させる2台だ。

2 News

ビス、わずか4本!? 自動車ビジネスすべてで持続可能性を徹底追求



BMWでは、調達計画から生産を経て販売・マーケティングに至る全課程でサステイナビリティを推進している。写真はBMWのライプチヒ工場。

「BMW i」がユニークなのは、走行時のCO2排出量を減らすだけではなく、製造に使うエネルギーを減らし、リサイクルしやすい設計を採用し、サプライヤー網まで含めた自動車ビジネスすべてを持続可能に発展させるという壮大なブランド構想の一環である点だ。

「BMW i3」では、カーボン製ボディとアルミ製フレームを留めるビスはわずか4本。それ以外は接着剤で留める。溶接で使うエネルギーも必要なくなる。そのほか、フレーム用アルミの原材料として50%ものリサイクルアルミを採用するなど、自動車の生産方法から大幅に見直してCO2排出量を大幅に抑えた。

「BMW i」は、将来に渡って自動車に乗る歓びを提供するために自動車メーカーとしてどうしたらいいか？を考えた結果として生まれてきた持続可能なブランドなのだ。

DENSO ◎ キーワードは「つなぐ」。デンソーは人・クルマ・社会をつなぎます

自動車部品の総合メーカーが生み出す新しい価値

トップシェアのカーエアコンを初め、先進的な自動車技術、システム、製品を世界の主要な自動車メーカーすべてに提供しているデンソー。ショーの目玉は「Resonance（レゾナンス）2021」と呼ばれる体感型コクピットで、人とクルマ、クルマと社会、人と社会を「つなぐ」ことで、近未来のクルマがもっと楽しく便利になり、そして安全性や環境対応へ寄与できることを提言している。

「Resonance（レゾナンス）2021」にはコンダクターと呼ばれるエージェントが組み込まれており、ドライバーのことなら何でも知っている。例えば、食べ物の好みから昨日の食事内容まで把握しており、今日のドライブでのオススメのレストラン情報をきめ細かく最適な形でツイートガイド。

また、車両の情報は他車も含めてリアルタイムでセンターに集約されており、いま走っている場所の状況を把握。混雑していく運転に集中する必要があると判断した際、あるいはドライバーが疲れている場合などは情報提供を控えめにするなどインテリジェントなシステムとなっている。周辺のクルマに搭載されているエージェントとも通信しており、接

近未来のクルマは もっと楽しく、もっと安全に 「Resonance2021」



News
1

触や衝突の危険性がある場合にはドライバーに警告を出したり、いざというときには強制的にステアリングやブレーキを操作して致命的な事故を回避。また、クラウドによる最適ルート探索で時間短縮、燃費改善を図るなど

「Resonance（レゾナンス）2021」には無限の可能性がある。

デンソーが提案する「つなぐ」によって実現できる自動車の近未来像を、是非ブースで体験してみてほしい。



一方、「電動化への対応」もデンソーの大きなテーマだ。すでにハイブリッドカーの周辺技術、部品などの提供で高い評価を得ているが、さらに電動化が進んでいくと電子機器や熱機器などデンソーの得意分野が生きてくる。

とくに主要部品の一つであるインバーターは発熱が大きく冷却技術が問われるが、創業当時からラジエーター開発で培った経験が物を言う。また、インバーター内部の半導体のエネルギー損失を低減することでそもそもその発熱を抑える研究・開発にも余念がない。

もっとも得意とするカーエアコンでも威力を発揮することになりそうだ。2009年にはトヨタ・プリウス向けに世界初のエジェクタ搭

載型カーエアコンを開発。従来と比べてコンプレッサーの消費エネルギーを最大約25%低減させ、脚光を浴びたものの、一般的にはどれぐらい恩恵があるものかわかりにくかった。従来のガソリン車ではカーエアコンの効率が評価の対象になることは残念ながらほとんどない。だが、プラグイン・ハイブリッドや電気自動車など電動化が進んでいくと、カーエアコンの消費エネルギーが「見える化」されてくる。エアコンのON・OFFによってクルマの航続可能距離が変わる。つまり、カーエアコンのトップブランド、デンソーの実力が如実にわかるようになるのだ。

ブースではインバーターや電池監視ユニット、電動コンプレッサーなどが展示され、デンソーの電動化時代へ向けた技術開発に触れることができるようになっている。

News
2

「電動化」の時代にこそ デンソーの得意分野が生きる

AISIN ◉ キーワードは「心躍る気持ちとエネルギーを大切に」

自動車業界を底支えする老舗メーカー 次世代発電システム分野でも大きく躍進



1
News

アイシングループは自動車の基幹部品を一気通貫して開発・生産している。トップシェアを誇るATをはじめ、エンジンおよび周辺機器、ドアハンドルなどの外装部品、カーナビまで実に幅広い製品を提供し、売上は世界ランキングで4位を誇る。まさに自動車業界を底支えするメーカーなのである。

それらの製品群に直接見たり触れたりする機会はなかなかあるものではないが、ワイヤーフレームカーならばどこにどういった部品が組み込まれているかが一目瞭然だ。部品からユニットまでアイシンの幅広い製品が見られるのはもちろんのこと、パワートレインはハイブリッドシステムとなっている。日本が世界をリードするハイブリッドカーの仕組み

ハイブリッドをベースとした
ワイヤーフレームカーで
クルマの仕組みを見てみよう

をじっくり見てみるのも面白い。

また、スポーツカーの走る歓びの源にもなっているマニュアルトランスミッションの基本構成が理解できるカットモデルなども展示されており、メカ好きの心も満足させてくれる。近年では自動車にとって重要なファクターとなっている燃費性能・環境性能を高めるための製品も見逃せない。ハイブリッドカー関連では、アイシンが得意とするATをベースにモーターを組み込んだ北米商用車向けシステムが最新作。ワイヤーフレームカーのハイブリッド・システムとの違いを知るのも興味深い。

その他、急増する自動アイドリングストップ・システムをサポートする周辺機器、根本的に燃費性能を向上させる車体の軽量化技術など最先端テクノロジーに触ることもできる。

燃料電池コージェネレーションシステム、
色素増感太陽電池など、
エネルギー分野も牽引。
次世代の発電システムに大きな期待

アイシンは自動車部品以外にも積極的に展開しているが、エネルギー分野に関しては歴史は古い。最近では家庭用のガスエンジンコージェネレーションシステムを発売。コージェネレーションとは電気と熱の両方を生み出すもので、都市ガスやLPGを燃料に発電し、家庭の電力を賄いつつ同時に発生する熱を暖房や給湯に活用。大規模な火力発電所から送電された際には燃料が持つエネルギーの3~4割しか活かせないが、熱の有効利用によって8~9割へと飛躍的に向上する。

ブースでは2012年度以降に発売予定の燃

料電池のタイプも展示される予定。そう遠くない将来にEVやプラグインハイブリッドが家庭と連携するスマートハウスが実用化されそうだが、そこでも発電システムとして重要な役割を果たすことになるはずだ。

もう一つの注目は開発中の色素増感太陽電池である。これは光エネルギーを電気エネルギーに変換する太陽電池の一種。酸化チタンに色素を吸着しており、透過性があつてカラフル。主流のシリコン半導体タイプに比べて低コストと資源の制約がないのが特徴だ。今後、様々な分野への応用が期待されている。

2
News



都市ガスやLPGの燃料から電気と熱を生み出すコージェネレーションシステム。熱の有効利用が飛躍的に高まる。家庭用の普及も期待される。

GOODYEAR ◎ キーワードは「Mission to Space with GOODYEAR」

次世代の月探査用タイヤをその目で見てみよう!

News
1

1971年にアポロ14号が月面探査を行ったとき、グッドイヤーはNASA（アメリカ航空宇宙局）の要請を受けて観測機器などを運ぶ小型車両のタイヤを開発した。タイヤにはゴムを使用するのが一般的だが、月面に地球の常識はあてはまらない。なにしろ、昼夜の温度差は約300℃に達するし、大量の放射線を浴びることになるからだ。通常のゴムでは過酷な環境に耐えることはできないと考えられたため、グッドイヤーはさまざまな研究の積み重ねから、月での使用に耐えうる技術を確立し、開発した経緯がある。

それから36年後の2007年、グッドイヤーのもとに再びNASAから依頼が舞い込んだ。次の宇宙探査計画のために、進化版のタイヤを開発してほしいという内容である。要請を受けたグッドイヤーはまず、アポロ計画に使われたタイヤのレプリカを作ってデータを収集し、それをもとに次世代の探査車に適したタイヤを作ろうとした。当時の情報が十分でなかったため、残された書類や当時開発に携わったエンジニアから聞いた話をもとに、レプリカを作ってテストしたという。

新たな月面探査車は、重量がアポロ計画で使用した車両の10倍で、走行距離は2,000kmから1万kmを見込んでいる。そうした過酷な要求に応えるため、グッドイヤーは空気を一切つかわず、大きな荷重や長距離走行に耐えるタイヤを開発した。

それが、スプリングタイヤである。約800本のスプリングを放射状に組み合わせた構造となっており、ゴムを使っているわけではなく、空気も充填していない。スプリングそれ自体が荷重を支える構造だ。昼夜の温度差はもちろん、宇宙空間から放出される大量の放射能にも耐えうる実力を持つ。

新型のスプリングタイヤを装着した大型宇宙探査車のテストは、すでにジョンソン宇宙センターにある月面を再現したテストコースで実施されており、全てのテストに対し、満足のいく結果を残しているという。一般にゴム



左: グッドイヤーがNASAと共同で開発した次世代ムーンタイヤ。実物はブースで…。下:開発中の次世代月面探査車。ブースでは車両のイメージモックや実際の宇宙服も展示予定。

NASAと共同開発。 800本のスプリングを組んだ ムーンタイヤ



製のタイヤは、ゴムの発熱によるエネルギーの消費が大きいのだが、スプリングタイヤは変形時の発熱が小さく、エネルギー消費が少ない。そのため、電池で動く探査車の走行距離を大幅に伸ばすことが期待されている。

高い悪路走破性もスプリングタイヤの特徴だ。ゴム製空気入りタイヤの場合、1ヵ所でもダメージを受けて空気が漏れると、タイヤとしての基本機能を失ってしまう。それに對してスプリングタイヤは、構造上、一部のスプリングが損傷しても走行を続けることが可能。耐久性、信頼性が大幅に向上了した。

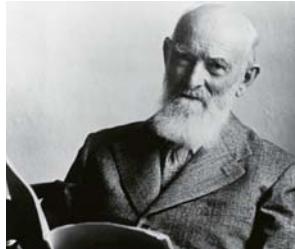
スプリングタイヤがもたらす耐久性や信頼

性、燃費向上の価値は、月面であろうと地球上であろうと変わらない。シンプルな構造にもかかわらず、現行のゴム製空気入りタイヤが抱える諸問題を克服するボテンシャルを備えており、ひょっとすると未来のタイヤの姿を先取りしているのかもしれない。

グッドイヤーとNASAが共同開発したスプリングタイヤは、革新技術発明のオスカー賞とも評される、2010年「世界の技術発明ベスト100」に選出された。その革新的なタイヤがアメリカから海を渡り、東京モーターショーに展示される。未来を切り拓くタイヤの姿を目に焼き付けておきたい。

Bosch キーワードは「Invented for life」

クルマの歴史とともに創業125周年を迎える



写真上: 創業者ロバート・ボッシュ
中央: 神戸イリス商会ボッシュ部と柳生商店本店前のマネージャーと従業員



写真上: 1910年のポスター
ボッシュ製マグネット式低圧点火装置を搭載した60HPメルセデスがレースで優勝。ステアリングを握ったのは当時もっとも有名だったレーシングドライバー、カミュー・ジェナツィで、彼が赤い髪、赤いマント、ゴーグルをトレードマークとしていたゆえ「レッド・デビル」と称されていたことから、このような図案になったという。

News
1

「信頼を失うくらいなら、 お金を失った方がいい」

ボッシュにとって2011年は記念すべき年となった。ドイツ・シュトゥットガルトで創業してから125周年にあたり、創業者ロバート・ボッシュの生誕150年でもある。さらには日本進出から100周年ともなるのだ。

今でこそグローバル化は当たり前だが、ドイツの自動車部品会社が明治時代の日本で活動していたというのは驚きだ。当時はまだ国産車はなかったが輸入車にボッシュの部品が

採用されており、修理や手入れ方法を伝授するためドイツから技術者が派遣されていたという。ロバート・ボッシュは「信頼を失うくらいなら、むしろお金を失った方がよい」という信念を持っていたが、それを貫くべく自社製品ユーザーのケアを徹底。それが古くからのグローバル化を促し、世界有数の自動車部品会社へと成長していく原動力となっている。

現代のボッシュは、自動車社会には様々な課題があり、それを解決する技術は3つに大別できると考えている。環境負荷低減と経済性を両立させる「クリーン&エコノミカル」、安全性を高める「セーフティ」、快適でカーラ

イフを充実させる「コンフォータブル」。

環境対応技術に対してはクリーンディーゼルやガソリン直噴システムなどで大きく貢献。また、電気自動車やハイブリッドカー向けの開発にも積極的だ。ABSやESC（横滑り防止装置）など安全装備の普及率を押しあげてきたのもボッシュの功績の一つだが、最近では事故防止のためのアシスト機能の開発が盛んになっている。快適性は「技術によって人々の生活の質を向上させる」というボッシュの企業理念に通じるものであり、未来の交通のためのモビリティソリューションまで含めた包括的な研究・開発が進められている。



News
2

ハイブリッド・システムや ドライバー・アシスタンス・システムなど 最新技術を、体験しながら理解しよう



「クリーン&エコノミカル」「セーフティ」「コンフォータブル」の3つにブースを大別。分かりやすくボッシュの技術を伝える。

ブースでは「クリーン&エコノミカル」「セーフティ」「コンフォータブル」の3つの軸に沿って展示。

それぞれ製品紹介やイメージグラフィックを用いての概要説明などがなされるが、興味深いのは体験型のデモマシンが設置されていることだ。たとえばハイブリッド・システムのコーナーではエンジン、モーター、バッ

テリーがどのような仕組みで働いているのかをシミュレーターとして体験できる。エネルギーの流れがわかるのだ。

その他、衝突予知緊急ブレーキシステム、レーンアシストシステム、ディーゼルの排気ガスマネジメントなどのデモマシンを用意。日本のボッシュで開発した世界初のモーター・サイクル専用ABSにも注目だ。

Mitsubishi Electric キーワードは「みらいにつながる、新しいくるま生活」

総合電機メーカーが描くクルマの未来像がここに!

News
1

体験すれば、未来の クルマをイメージできる。 体験型ブースへ行こう！

今年、創立90周年を迎えた三菱電機は自動車事業においても約80年の歴史と伝統がある。オルタネータやスタータ等のエンジン電装品分野。電動パワーステアリング用モータ、ECU、エンジン制御システムおよびデバイス。そしてカーナビやオーディオ等の情報通信技術をベースにしたカーマルチメディア製品を扱い、クルマ社会を大きく下支えしている。

その三菱電機が今回、“つながる（=インテリジェントコネクト）”をキーワードに「EMIRAI」というEVコンセプトカーを出展。同社がこれまでに培ってきたモータ技術、AV技術、宇宙技術（衛星通信）などがクルマに応用されるとどんな世界が広がるのだろう。



例えば、手持ちのスマートフォンで個人認証し、家で見ているテレビやDVDやBlu-rayをそのままクルマでも楽しめるといったふうにホームエレクトロニクスとクルマが通信できたり、外部サーバにアクセスして情報を自在に引き出したり…。クルマの中でも外の世界と簡単に便利に、「賢く」つながることができるという。

ブースでは実際にコンセプトカーやデモ機で未来のクルマを体感できる。クルマの電動化時代を迎え、三菱電機がその技術力を生かして、「つながる」という視点から作りあげたコンセプトカー「EMIRAI」。総合電機メーカーだからこそできる未来のクルマを是非体験してみて欲しい。



ゲーム感覚で
未来のクルマを体感しよう！

コンセプトカーでは、スマートフォンで認証してシステムを立ち上げたり、3次曲面に手書き文字を入力して検索をかけたり、デモ機ではアクセルとブレーキの疑似音や信号予測など、様々なことを体感できる。表示装置は家電メーカーなればこその積層ディスプレイを採用。家族や仲間とは是非ブースへ行ってみてほしい。

News
2

最新技術を駆使した EVコンセプトカー 「EMIRAI」(イーミライ)



優れた環境性能が特徴であるEVカーだが、この分野でも三菱電機はモータやインバータなどの製品で大きく貢献している。加えて、今回のコンセプトカーでは“つながる”をテーマにしたインテリアや居住性にも注目したい。

ドライバーや同乗者が直感的に操作できる

よう、3次曲面表示上に手書き予測入力を採用したり、携帯電話による個人認証や顔認識、心拍検知といった生体情報活用技術も盛り込まれている。自分の手や顔や鼓動…。自分とクルマが“つながっている”ことを実感できるに違いない。

「EMIRAI」(写真右)は、EVカーならではの優れた環境性能と情報通信技術が随所に搭載されている未来のクルマの姿だ。また、ブースでは最新のモータ(写真中央)とインバータ(写真左)も参考出品されている。優れた性能とデザイン性を両立せられるのも総合電機メーカーの実力あってこそ、である。

NTNのキーワードは「Earth-friendly NTN - Pioneering Technologies for Tomorrow」

ベアリングのスペシャリストが提案する 次世代EV(電気自動車)システム

クルマに欠かせない 重要部品ベアリングと、 新たな開発領域

クルマを動かす力の源はエンジン、あるいはモーターで、最終的に路面に力を伝えるのはタイヤだが、それぞれの部位がスムーズに動くために重要な役割を担っているのがベアリングだ。

回転する部品に接して荷重を受け止めると同時に、滑らかな回転で摩擦抵抗を減らし、低燃費化に貢献するのがベアリングの役割。ボールを用いる構造に加え、円筒や円すい形状のローラを用いた構造もある。自動車用途では、ハブやトランスミッション、デファレンシャル、エンジン内部の要所に数多くのベアリングが用いられている。

ベアリングは荷重を支え、静かで、滑らかに回転するので運転中にその存在を意識することはないが、その存在があってこそ、クルマ本来の性能が發揮できる。

近年、クルマには一層の軽量化・低燃費化

News 1



が求められていることはご存知の通り。NTNでも軽量化・低燃費化に対し、様々な提案を行っている。たとえばハブベアリング。形状の見直しやモジュール化により大幅な軽量化が計られている。

さらにNTNではこれまでベアリングで培った技術をベースに、新たな発想で次世代EV用のシステム商品の開発に取り組んでいる。

エンジン、ハブ、サスペンション、トランスミッション、車体、電装機器など、クルマのあらゆる部位に、様々なタイプのベアリングが約150個ほど使われている。なおNTNはハブベアリングで世界ナンバーワンシェアを誇っている。

News 2

インホイールモータ それはNTNの 「将来技術の創造」

現在、EVはワンモータ方式が主流だが、その一步先に行くのがモータで直接車輪を駆動するインホイールモータ方式だ。NTNはインホイールモータにセンサ情報に連動した制御システム(インバータ含む)を組み入れた『インホイールモータシステム』を開発した。

エンジルーム内にコンポーネントを搭載する必要がなくなるので、高効率・軽量化され、充電走行距離(電費)が向上すると共に、空間・車体デザインの自由度が大幅に高まる。更に左右輪それぞれの駆動力を制御システムにより調整することが可能で走行安全性が向上する。2011年10月より、NTNが開発した



インホイールモータを搭載したコンバートEVが、磐田市(静岡県)の公用車として社会実験に入っている。更に、インホイールモータシステムは買い物などの近距離走行や、高齢者にやさしいタウンカーに適した小型の電動コミュータとしての需要が期待される。

『電動コミュータ用インホイールモータシステム』は、薄型ハブベアリングの採用、減速機やモータの機構を変更することでホイール内に駆動装置を収納した。各輪の独立操舵システムと組み合わせることで、「その場回転」や「横方向移動」などこれまでの乗用車では不可能だった動きが実現できるようになる。

インホイールモータシステムを
ブースで体験しよう!



NTNブースでは、インホイールモータを搭載した電動コミュータがデモ走行を行い、「その場回転」や「横方向移動」なども実演される。また次世代EV用のシステム商品を、リアルとバーチャルが融合したAR(拡張現実)を用いて紹介するなど、目で見て、肌で感じ、体験できるブースとなっている。ぜひ、ブースへ行ってみよう!

NTNブース:西1ホール W1401

TOKYO SMART DRIVER ◉ キーワードは「コミュニケーションの力で首都高の交通事故を減らすプロジェクト」

「やさしさ」の連鎖で交通事故をなくしたい

News

ゆずりあうことが当たり前。 それがこのプロジェクトの目指す終着点

右下のマップにあるピンクと白のチェックフラッグ、見掛けたことがある方も多いのではないかだろうか。これは、「コミュニケーションの力で首都高の交通事故を減らす」というプロジェクトのシンボルマークで、その名も「東京スマートドライバー」。発起人の小山薫堂さんにお話を聞いた。

「首都高では年間1万件以上の交通事故が発生していますが、それの大半が料金所や合流地点での強引な割り込みなどによるものでした。つまり、原因はドライバー同士のコミュニケーションミス。だったら“お互いにもっと譲り合えれば、交通事故は減るはず”と、アイデアはそこから生まれました。

月に一度、“こうしたら交通事故が減らせるのではないか”というアイデアを持ち寄るスマートミーティングを開いたり、一般の方から横断幕のメッセージを募集し掲出したり、スリップが原因で交通事故が増えた梅雨の時期には、いつも以上に安全運転を呼び掛けるレンスマートドライバー計画を実施したり…。悪い運転を叱るのではなく、良い運転を褒めて回る“ホメパト”を自動車メーカーとのコラボで走らせたりもしています。

“参加するとかっこいい”“自然と参加したくなる”ことを大事にしたのが良かったのか、発足から丸4年が経って、気が付けばスマートドライバーは首都高（東京）を飛び出して、全国へと広がっています。

人にやさしくしたら、ハザードで“ありがとう”と言われてうれしくなる。すると今度は他の人にも勧めたくなる。やさしさの連鎖ですね。楽観的すぎるかもしれません、人のやさしさで交通事故が減ると僕は信じているんです。

これからは、トラックドライバーなどのプロドライバーにももっと広げたいですね。プロドライバーであるからこそ高い意識を持ってマナーの先頭を切ってほしい。また自動車教習所や運転免許センターでも、資料やプロモーションビデオで紹介してほしいと思います。

そしていつか、ゆずりあうことが当たり前。そうなることが僕の理想の終着点ですね」。



小山薫堂（こやまくんどう）
放送作家・脚本家。日本芸術学部在学中に放送作家としてデビュー。
映画『おくりびと』では米アカデミー賞外国語部門賞を獲得した。
大のクルマ好きで、首都高ファンでもある。



6/6～7/23はレインスマートドライバー計画という梅雨時期の交通事故削減キャンペーンを実施。雨の日、首都高での事故が普段の6倍になることをご存知だろうか。雨の日こそ、いつも以上に安全運転を意識したい。

全国に広がる、 やさしさの連鎖。



思いやりを増やす。交通事故を減らす。



東京スマートドライバー

参加の仕方、活動の紹介、ステッカーの申し込みはホームページで！

www.smartdriver.jp 法人でも参加できます。

YAMAHA のキーワードは「あしたらしい風。」

どんな人にも“あしたらしい風。”を届けたい

2輪車をもっと身近に感じる 4台のコンセプトモデル。 中でも「EC-Miu」に注目

創業以来、製品開発と2輪レースとのかかわりは深く、オートバイレースの最高峰「世界GPロードレース」に参戦を開始してから半世紀。ヤマハはこれまで幾度となく栄冠に輝き、常に最先端の技術を様々な製品にフィードバックし、感動を提供してきた。とは言え、オートバイはパワーやスピードを追求するエキサイティングなシーンを提供するばかりではない。日常を支えるパートナーとしても世界中の人々に愛用されているのである。そしてヤマハの根底にあるのは、2輪車を通じて人々の生活を豊かにしたいという気持ちである。

その代表が今回出展される電動3輪バイクのコンセプトモデル、EC-Miu（イーシー・ミウ）だろう。EC-Miuは前1輪、後ろ2輪の3輪EVコミューター。マルチホイールならではの

安心感で、2輪車に乗りなれない女性でも気軽に街へ繰り出せる、コンパクトで優しいスタイリングを持っている。

そんな優しさは環境に対しても同様で、100%電気の力で動くことにより排ガスゼロで移動することが可能。都市部での生活を静かに、そしてクリーンに支えてくれ、風や自

然を感じながらのんびり気ままに足を伸ばしたくなる…。乗る人にとって最高のパートナーとして、注目されるだろう。

軽やかで利便性に優れる2輪車生活を提案するヤマハが届けてくれるのは「あしたらしい風。」というメッセージ。その風は、新しい生活と新しい自分を運んでくれるに違いない。



2

どんな場所でも、どんな人にも あらゆるシーンで移動の楽しみを提供する

ヤマハが世界に送り出すモビリティの世界はなにも2輪だけに限らない。オールテレンジャー・ヴィークル (ATV) やスノーモビル、そしてウォーターバークルなど様々なカテゴリーに渡りオフロードや雪上、果ては海に至るまで、ありとあらゆるステージに人を連れ出してくれる。

しかもそれはパーソナルな楽しみばかりではなく、機動力や走破力を活かしフィールドワ

ークでも活躍。地球上のあらゆる場所でそのモビリティ性の高さを発揮している。

また、電動アシスト自転車の制御技術を応用し電動車イスを展開。介護の分野でも人々の生活をサポートしている。

世界のさまざまな場所で、人が自由に移動する楽しさを享受できるようにと、生活のあらゆるシーンをヤマハの技術が支えていることを実感していただきたい。

一度乗ったらやめられない…
電動アシスト自転車PAS(パス)
に試乗してみよう!



今回のモーターショーでは電動アシスト自転車PASの試乗体験ができます！誰かが背中をスーと押してくれるような驚きの走りをこの機会に是非、体感してみよう。詳しくはブースです。
*12/8~12/11開催。





PLUG & PLAY



2012年、スマートの電気自動車が、いよいよ日本へやってくる。

smart electric drive

www.smart-j.com

メルセデス・ベンツブース内、smartスタンドにてオリジナル情報誌"smart STYLE"を配布中。
未来志向のコンセプトカー「smart forvision」も展示中です。
また、東京モーターショー特設試乗コーナー、「SMART MOBILITY CITY 2011」にて、
12/7(水)~11(日)の5日間、smart electric driveが試乗できます。

smart call 0120-656-256 お問い合わせ/9:30~12:00, 13:00~17:30



smart forvision

街、人、暮らしを、
支え続ける。

日本興亜
since 1892



自動車保険は、 「やっぱり」 日本興亜。



24時間365日、どんなときも迅速に対応をしてくれる。^{*1}「事故にあわれた方の気持ちで」しっかり向き合ってくれる。だから、事故解決に向けたアドバイスから病院への連絡、レンタカーの手配まで安心して任せられる。価格.comの「2011自動車保険満足度ランキング」でもみんなの満足度がNo.1。さすが、私の保険。すぐ頼りになるんだね。

おかげさまで皆様から高い評価をいただきました。

これからも、より安心できる保険を目指して努力していきます。ご期待ください。

あなたを全力で支える。



日本興亜損保

*1 事故のご連絡時に、初期対応サービスの要請があった場合。

*2 価格.comの2011自動車保険満足度ランキングより、代理店系損保(通販系商品取扱損保を除きます)内順位を表示。通販系損保を含めた順位は、総合満足度部門5位、コミュニケーションの満足度部門3位、対応の迅速さ部門4位。このほか、初期対応部門2位(5位)^{*3}、対応の的確さ部門2位(5位)^{*3}。^{*3}()内は通販系損保を含めた順位。

上記以外に保険金の認定満足度部門などがありますが、当社の順位は公表されていません。

Eco-Net約款で **ECORaTTa**を増やそう キャンペーン!! 実施中。詳しくはホームページへ。

**日本興亜損保は、
エコ・ファースト企業です。**



〒100-8965 東京都千代田区霞が関3-7-3 日本興亜損害保険株式会社 03-3593-3111(代) www.nipponkoa.co.jp

The 42nd TOKYO MOTOR SHOW 2011

日本興亜損保は
第42回東京モーターショー2011を応援しています。

当会場で
限定デザインが
手に入る!

デジモ第一弾

Debut!!

@TOKYO MOTOR SHOW 2011



The Beetle × digimo

現実世界に隠されたザ・ビートルのオリジナルデザインをGETせよ!

デジモの第一弾 iPhone アプリが、ザ・ビートルとのコラボで登場。3D のデジタルプラモデルを、自分の好きなデザインにカスタマイズできます。位置情報と連動し、さまざまな場所に隠されたオリジナルデザインを探し出そう!

まずは東京モーターショー2011で限定モデルをGET!



App Storeで検索

The Beetle × デジモ

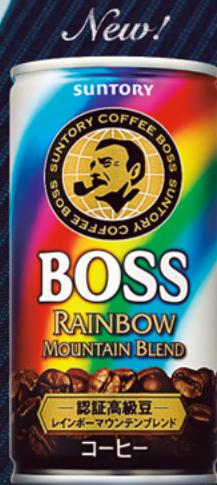
<http://mydigimo.com>

お問い合わせ先：株式会社インフォバーン info@mydigimo.com

水と生きる SUNTORY

誰かのために働く。

BOSS



4DOORのMINI!

西1ホールにてエキサイティングに展示中。



MINI Customer Support 0120-56-5532 WWW.MINI.JP

MINI CROSSOVER. 4DOOR×4WD.



スタンプを集めてオリジナルグッズをGETしよう!!

第42回東京モーターショー2011

ディズニー/ピクサー「カーズ2」ブルーレイ&DVD 発売記念

臨海副都心スタンプラリー

第42回東京モーターショー2011の開催中の12月3日(土)から11日(日)までの9日間、臨海副都心において東京モーターショーと臨海副都心まちづくり協議会、さらにディズニー/ピクサー「カーズ2」ブルーレイ&DVD発売記念してスタンプラリーを実施しております。

「カーズ2」のオリジナルスタンプを集めて、豪華賞品をGETしよう！

ファーストステージ参加賞

スタンプを4個集めて賞品引換所へ行くと
「カーズ2」クリアフォルダを
先着10,000名様にプレゼント！



臨海施設内にて
1,000円以上お買上げで

Wチャンス賞品

(合計100名様)

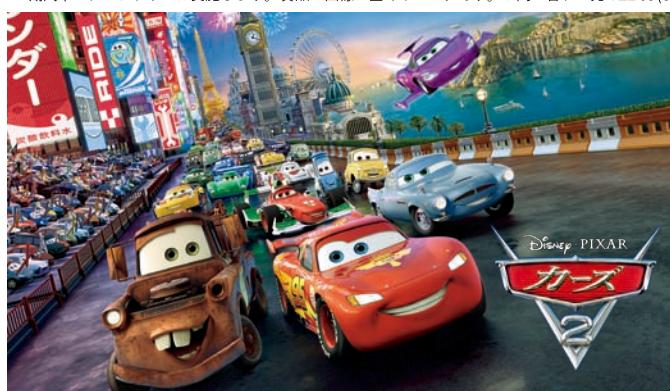
さらにスタンプの数により

Wチャンス*でスロットに挑戦!!

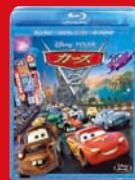
ステキな賞品がGETできるよ！



*臨海副都心エリア施設にて1,000円以上お買上げのレシートを提示。●内容・期間は予告なく変更になる可能性があります。参加賞、Wチャンス賞は賞品がなくなり次第終了ですが、期間中スタンプラリーは実施します。賞品の画像は全てイメージです。お問い合わせ先 TEL 03(3496)3247



12月2日金
ブルーレイ
& DVD
新登場！



ライフサイズマックィーンも
モーターショー会場に
やって来る！



©Disney/Pixar

ET² × SCRAP

musicChef

×

謎解きスパイゲーム

きみはこの謎が解けるか？

「迷宮モーターショー～謎の旋律を追え～」

クルマ向け音楽配信サービス「music-Chef」と、5万人以上の動員を誇り海外でも好評を得ているイベント企画会社「SCRAP」が送る体験型謎解きエンタテインメントがタッグを組み、大人も子供も楽しめる新感覚ゲームイベントを東京モーターショーで開催！

Date

2011.12.3 sat > 12.11 sun

9日間

ゲーム
受付時間

10:00 ~ 18:00

※ただし日曜日は、16:00。最終日は、15:00に受付を終了いたします。

※ゲーム想定時間：1～2時間。受付時間内であれば、何時からでも参加できます。

会場西展示棟1Fアトリウム内、「(株)ETスクウェア」ブースにお越しください。



さあ ET²ブースへ急げ!!

西

西展示棟

West Halls



※ このイベントは、実際にあなたがスパイとなって、謎を解くゲームイベントです。



輸入車ブランドと商用車ブランドを探訪

注目ブースから、今クルマに期待したこと

ドイツとフランスの人気ブランド、そして大型トラックなどの商用車を展示するブースで
注目しているモデルや今後どのようなものが登場してほしいかを聞いてみました

VOLKSWAGEN

フォルクスワーゲン



The BeetleにBulli 新しさと可愛らしさが魅力

山口 葵さん
(左／34歳・東京都)
山下由理子さん
(右／34歳・東京都)



“デザイン&テクノロジー” “エモーション&ライフスタイル” “サステイナビリティ”を軸に、技術と情熱で時をとらえた最新のフォルクスワーゲンモデルを展示。世界初披露のクロスカーブを12月4日まで限定展示

開放的な気分で乗ることができるコンセプトカーのBulliが可愛くて気に入りました。クルマはカジュアルに乗りたいので、小型車が好き。手が届きやすい価格で燃費がいいところも魅力ですね。(山口さん)

私は日本初公開のThe Beetleを楽しみにしていました。叶わぬ夢かもしませんがVWがビートルのような軽自動車を作ってくれたら、プレミアムな雰囲気を保ちつつ可愛いものになると思います。(山下さん)

HINO

日野自動車



金子剛士さん(34歳・千葉県)

子どもの頃から大型トラックなどに惹かれていきました。インドネシアの鉱山で使用されるHINO700シリーズのように、日本のクルマが海外で役に立っているというのは誇らしいですね。またモーターだけでも走行できるプラグインハイブリッドにも興味を持ちました。日本のあらゆる道を走るトラックにこのような技術を普及させられれば、地球環境を改善していく上で本当に有意義なことになるでしょうね。



「人に暮らしに、もっとやさしく、もっと便利に」をテーマに、ハイブリッド、プラグインハイブリッド、電気自動車などの環境にやさしいトラックやバスを展示。超大型のトラックも展示される

CITROËN

シトロエン



小林 充さん(27歳・東京都)



展示されているDSラインの3モデルを見て思ったのは、「やっぱりシトロエンは独創的だ」ということです。癖のあるデザインがカッコイイです。他のメーカーとは違うフランスっぽい雰囲気が好きですね。クルマにとって大切なのは安全・安定して走ること。でも、それ以外の付加価値——燃費やプライベート空間で過ごす時間をどう楽しむかが今以上に提案されると、クルマにもっと興味を持もつようになると思います。

ブランドスローガンである“クリエイティブ・テクノロジー”的象徴として、DS3 Racing、DS4、DS5(日本初披露)を展示。シトロエンの独創と革新性を極めたモデルラインを存分に味わうことが可能

UD TRUCKS / VOLVO TRUCKS

UDトラックス／
ボルボトラックス

駒井 浩さん(34歳・東京都)

材料関係の仕事をしているので、どこにどんな素材が使われているなどを見にきました。間近で目にする機会が少ない海外メーカーのトラックにはとても興味がありますね。今後はトラックのような超大型車から小型乗用車まで、ドライバーはもちろん歩行者なども事故を回避できるような技術が伸びてほしいですね。そしていつか年配の方でも安心してクルマを楽しめるような世の中にならいいなと思っています。



UDトラックスは大型トラック2種と中型トラック、およびエンジンなどを展示。ボルボトラックスはFH6×4トラクターのほか、CO₂ニュートラル工場の取り組みなどを展示している



Today's Question

クルマのITが進化。何をしますか？

カーナビのクラウド化など、どんどん進化を続けるクルマのIT。進化した新しい世代のクルマに乗ったら何がしてみたいですか？
また、IT化だけでなく、これからクルマにどんな進化を望みますか？来場の女性に突撃！

①年齢 ②誰と来ましたか？ ③何を楽しみにしていますか？ ④本日の質問の答え



1

木村真紀さん

スマートフォンのように
使いたい

①27歳 ②友人 ③次世代エネルギーの展開 ④深夜に仕事が終わることが多いので、まだ開いているマッサージやレストランなど、場所だけではなく営業時間や口コミなども表示してくれようになれば嬉しいです。

乗り込むのが
楽しみになるクルマへ

①25歳 ②同業者 ③最新の技術 ④渋滞でも乗るのが楽しみになるようなアミューズメント性が追加されれば面白いですね。元気になりたいときはカラオケ、リラックスをしたいときはアロマなど空間をフレキシブルに。



2

龜井茉莉さん



3

徳田真紀さん

クルマが勝手に
駐車してくれたら…

①39歳 ②彼氏 ③スバルBRZ ④駐車場に入ったら、人が運転しなくてもリモート操作をするだけで勝手に駐車をしてくれたり、また乗り場に戻ってきてくれたりする自動バレーパーキング機能が付けばとても素晴らしいですね。



4

青山めぐさん

運転席でも
メールが出来るように

①23歳 ②仕事関係 ③全部 ④車内で運転中でもメールに返信出来るようになればいいなと思います。音声で着信を読み上げたり、音声認識で文章を入力出来るようになれば運転中も安心ではないでしょうか。

スマートフォンとの
完全同期を！

①27歳 ②ひとりで ③コンセプトカーとスバルBRZ ④スマートフォンにスケジュールを入れれば自動的に次の行き先がナビに入力されるなど、完全な同期を希望します。スマートフォンをステアリングで操作出来れば完璧です。



5

一戸恵梨子さん



6

門田朋子さん

自動操縦で
事故のない未来を

①33歳 ②夫 ③アウディ、ポルシェ、メルセデス・ベンツ ④クルマから完全にタイヤがなくなり、自動操縦で空を飛ぶような未来のクルマになれば、渋滞・事故が減ってもっと安全なクルマ社会に変わっていくと思います。



注目イベント&ブースをピックアップ

東京モーターショーでの日々の出来事

2011年12月2日、会場内では来賓を多数招いた開会式が行われ
皆さんが待ちに待った第42回 東京モーターショー2011が開幕しました

開会式



開会式では東京都の佐藤副知事が祝辞を

24年ぶりの東京開催となった第42回 東京モーターショー2011。開会式には総裁である寛仁親王殿下のほか、佐藤廣東京都副知事や牧野聖修経済産業副大臣などが出席。副知事は「東京都を代表して開催を歓迎します。自動車産業が最先端技術の創出をしていくことを期待しています」と語りました。



志賀会長は「東京で新生モーターショー開催出来たことを嬉しく思う」と語った

耳かー



街の人と考える未来のクルマの姿を公開

アトリウムステージ脇ではTOKYO FM & J-WAVEコラボ企画として「どんなクルマが世界を変える?」をテーマに集めたみなさんの声と、その声を集めた「耳かー」も展示しています。「地球の磁力を利用して走るクルマ」(東京・オジマさん・75歳)「交通安全を守った人だけが乗れるクルマ」(三芳町・イタガキリンさん・8歳)など、あらゆる世代が考える未来のクルマの姿が垣間見えます。中には「歌声をエネルギーに走るクルマをつくりたい」(名古屋市・ひさちゃん・43歳)というユニークな声もたくさんありました。みなさんはどんなクルマが世界を変えると思いますか? 集まった声を見ながら一緒に考えてみてください。

緊急対談

寺澤 勉さん

拓殖大学名誉教授。学生時代に設計アシスタントとしてモーターショーに関わったことをきっかけに、約50年にわたり晴海会場から幕張メッセを経て今回の東京ビッグサイトまで、モーターショーの会場全体の企画・設計などを担当。展示デザインの専門家「展示ニア」として活動している



社長は会社の“顔”
ショーを通じて
ファンと接してほしい

片山 豊さん

1909年、静岡県生まれ(102歳)。1935年、慶應義塾大学卒業後、日産自動車に入社。米国日産社長に就任し、1969年から「DATSUN Z CAR(日本名／フェアレディ240Z)」を米国で100万台以上販売。1998年には日本人として4人目の米国自動車殿堂入りを果たす



60年近い歴史がある東京モーターショー。1954年に開催された第1回東京モーターショーを立ち上げた“Mr.K”こと片山 豊さん(102歳)と、約50年にわたり東京モーターショーの会場全体の企画・設計を担当する“展示ニア”寺澤 勉さんの対談が12月2日に第42回 東京モーターショー2011の会場で実現しました。

片山— 私が入社した頃は広報・宣伝の仕事はすべて外部に任せたものでした。でも私は社長がユーザーである皆さんとの前に出て自身ですることが

必要だと考えていました。ショーをやることで各社の社長が一堂に集まればと考えたんです。

寺澤— 第一回目の会場は日比谷公園にある日比谷図書館の前の広場でした。雨が降るとクルマが泥だらけになったそうですね。そこに延べ50万人以上も集まったというのは驚きです。

片山— そこからさらにショーが大きくなり、国内外のメーカーのトップが発表できる場に育っていったのはよかったです。クルマはインターナショナルな製品。国境など関係ないですから。社長が自動車ファンの前で自社商品を説明すれば、

信頼とブランド力が上がります。これが本来の姿ですしお客様もそれを楽しみにしていますよ。

寺澤— 今年は12月3日(木)に、国産5社のトップがファンの前で話すトークイベントも行われます。日本もようやくここまできましたね。

片山— アメリカのモーターショーでも社長たちが集まって、ファンの前で話す機会があります。社長は会社の“顔”です。日本のファンも声を直に聞ける機会を楽しみにしているはずです。これからもファンと接する機会をもっと増やしていくことを願っています。



松本零士、22世紀のクルマのある風景

東京モーターショーニュースは日刊です。松本零士氏の表紙イラストは会期中毎日変わります。お楽しみに！



11.30

地下トンネルを高速で走り抜けるクルマたち。車線という概念はなくなり上下左右に行き交うが、レーダーが一定の距離を取って安全を確保する



12.01

乗車定員が300人超となった大型バス。車室内の快適性とステーションの利便性から多くの人が利用する。走行制御はコントロールラインによる



12.02

街灯に装備されるガイドアンテナにより浮上制御されるシティコミューター。ボディ下部の二つのフロートには高機能タイヤが格納されている



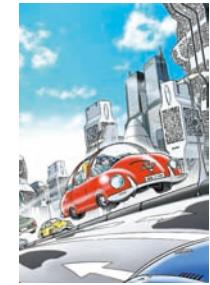
12.03

ドライバーがクルマのコントロールレバーに触れるのは車庫入れや路地走行時のみ。ナビゲーションに話し掛ければ自動制御走行が可能になる



12.04

反重力浮上機構により橋のない河川も渡ることができるバイクは、気軽な乗り物として普及している。タブレットで仕事をしながら帰宅も可能



12.05

20世紀のクルマへの憧憬も根強くレトロデザインは大切にされる。金属風パンパーや溝付きタイヤなどもドレスアップアイテムとして人気



12.06

山岳地帯を走り抜ける大型トラック。反重力浮上機構は路面の状態を選ばないため、未開拓地での走行も自在。積載物が重いほどパワーが出る



12.07

シニア電動カートで高速道路を安全に走行できるように。キャノピーは簡単に取り外しが可能で、コンビニなどにもこのまま入ることができる



12.08

すべての自動車が自動制御されるため渋滞がなくなる。反重力浮上機構は電磁波ではないため、もちろん人体への悪影響はまったくない



12.09

水平ジャイロと垂直スタビライザーが装備されたクラシックタイプのバイク。スタビライザーには障害物センサーが組み込まれ衝突を回避する



12.10

救急車は患者搬送を優先して路上走行機能がデフォルトとなっている。医療設備は車内で手術が出来るほど充実。サイズは大型だが小回りがきく



12.11

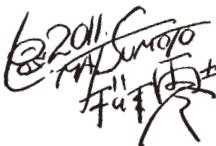
キャビティーがないクレーンを運ぶ輸送車。反重力浮上機構をネガティブに使用すれば重量以上に安定するため建設機材もどんどん軽量化される

誰もが安全性と利便性を享受できるモビリティ社会に！



まつもとれいじ

漫画家。福岡県久留米市生まれ。16歳の時に雑誌「漫画少年」の第1回長編漫画新人賞を受賞。代表作は「銀河鉄道999」「宇宙戦艦ヤマト」、「宇宙海賊キャプテンハーロック」など多数。日本宇宙少年団理事長、宇宙航空研究開発機構参与などを歴任。



19世紀に発明されて以来進化を続けてきた自動車だが、21世紀の終わりにはモーターなどが発生する回転エネルギーでタイヤを回すという考えはなくなり、空気との摩擦や熱エネルギーを取込むことで永続的な推力を獲得できるようになっていた。そして22世紀には位置エネルギーを蓄積して利用することが可能になる。

そう、「反重力浮上機構」の完成である。そのアイデアはいたってシンプル。つまり地球のもつ重力と太陽系惑星の重力をバランスさせることで物体を浮上させるという発明である。その機構を自動車にも利用可能とした最大の要因はボディの軽量化である。金属ではなく紙や草などに特殊な樹脂を混合することで耐熱性が高く弾力性のある素材が開発された。この素材はどんな形状にも成型することが可能。塗装の必要もなく特殊なフィルムをラミネートさせれば紫外線を遮ったり夜でも昼のような明るさにしたり様々な効果を生み出す。またボディに

装備されるタイヤは、たとえば路地走行や車庫入れ時に車体を安定させるために使用するが、緊急時や震災時における安全性確保としての機能はさらに進化していた。

反重力浮上機構の発明により大幅に簡便化されたのは道路舗装である。道路はアスファルトやコンクリートで舗装するという概念はなくなりコストも圧縮。自然を痛めつけることも少なくなった。必

要になってきたものは路面上に埋設させた「コントロールライン」や道路照明灯のようない「ガイドアンテナ」である。反重力浮上機構は時に橋梁さえも必要としない。もちろん船ではないので海上に浮かぶ構造はもたないが、数キロ程度ならば水上でもスムーズに走り抜けることができる。

自動車の操作自体は完全なオートマチックであり乗員が行うことはたった一つ。それはナビに「話しかける」ことである。ナビゲーションに目的地を伝えれば最適なルートを割り出して安全に送り届けて

くれるが、もちろん自動運転を解除すれば「走る楽しさ」も存分に堪能できる。操作テクニックの優劣はハンドル、ブレーキ、変速といった一連の操作ではなく、センサーに読み込まれるドライバーの脳波イメージで決まっているもの。もちろんマニュアル運転でも安全性が完全に確保されていることは言うまでもない。

大型輸送手段も含めて大きく変化した22世紀のモビリティは、安全かつエコ、そして人間らしい楽しみを与えてくれるプロダクトとして、大きな社会的役割を果たし続けているのだ。

本誌表紙イラストの 2012年カレンダー発売中

会場内オフィシャルグッズショップにて発売中。630円(税込み)。このカレンダーの販売収益金は東日本大震災支援金として寄付させていただきます。



EVENT

In the TOKYO
BIG SIGHT

東京ビッグサイト内開催イベント

12/3 TODAY's EVENT

12月3日(土) のイベント

9:00~10:00 オープニングパレード

場所:夢の大橋(センタープロムナード)

ヒストリックカーから市販前の車両まで、スーパーカーから軽自動車まで、大型トラックから二輪車まで。総勢50台程度の車両が勢ぞろいするパレードです。先頭車は各メーカーなどのトップ9人と、テリー伊藤さんが運転する予定です。

1回目 キッズワークショップ

10:00~12:40

集合場所:パナソニックセンター東京

2回目

13:30~16:10

小学4年生~小学6年生を対象としたプログラム。ハイブリッドカー工作教室に参加したあと、ナビゲーターと共に SMART MOBILITY CITY 2011を見学します。お子様1人につき、1人の保護者の参加が必要です。

小学生は東京モーターショー入場料・参加料とともに無料ですが、保護者の方が参加券付き入場券をお買い求め頂く必要があります。※オフィシャルWebサイトから申し込みが必要です。定員に達し次第、締め切りとなります。

10:00~16:30 プロの運転による乗用車同乗試乗会

場所:屋外展示場

12月6日
まで開催

日本自動車ジャーナリスト協会(AAJA)のジャーナリストや専門インストラクターがドライブする各社の最新モデルに同乗試乗し、性能を体感できます。試乗車両はスズキ、スバル、トヨタ、日産、ホンダ、三菱、レクサス、アウディ、AMG、シトロエン、ジャガー、BMW、フォルクスワーゲン、プジョー、ポルシェ、MINI、メルセデス・ベンツ、ランドローバー、ルノー、ロータスの計20ブランドから36台を予定しています。

10:00~16:00 自動運転デモンストレーション

場所:西展示棟屋上展示場

12月6日
まで開催

自動車、電気自動車が自動運転や障害物の回避、自動駐車を行なうデモンストレーションを実施。夢の自動走行への期待がふくらみます。

11:00~11:50 オープニングイベント トークセッション

場所:アトリウム内ステージ(西展示棟)

日産、トヨタ、ホンダR&D、三菱、マツダの5社トップに演出家のテリー伊藤さんを交えたトークセッションを開催。「思い出に残るクルマ」を語るほか、「耳カーネ」で集められたクルマへの要望や期待などの声にも答えます。

出席者:志賀俊之(日産自動車 代表取締役 最高執行責任者)、農田章男(トヨタ自動車 代表取締役社長)、山本芳春(本田技術研究所 代表取締役社長)、益子修(三菱自動車工業 代表取締役社長)、山内孝(マツダ 代表取締役会長兼社長)

13:00~18:00 「COTY DAY」

日本カー・オブ・ザ・イヤー最終選考会・表彰式

場所:アトリウム内ステージ(西展示棟)

国内で発表される乗用車のなかから年間を通じて最も優秀なクルマを選定する、2011-2012年日本カー・オブ・ザ・イヤーの最終選考会・表彰式を「日本カー・オブ・ザ・イヤー・デー(COTY DAY)」として実施します。

13:00~ COTYトークショー

14:15~ 10ベストカー表彰式

15:30~ 開票LIVE 中継

17:30~ イヤーカー・インポートカー・実行委員会特別賞 表彰式

14:00~16:00 東京モーターショー シンボジウム 2011

自動車旅行で日本を元気にする人「カーパス」になりませんか?

場所:会議棟6F

主催:自動車旅行推進機構(カーパス機構)

国内旅行の6割を占める自動車旅行に焦点を当て、自動車旅行ならではの魅力の再発見を行うと同時に、自動車旅行をサポートする情報提供環境などを紹介しながら、日本国内の自動車旅行によって日本を元気にするための提言を行います。

コメントーター:飼田裕子(モータージャーナリスト)、北川えり(タレント)、国井律子(旅エッセイスト)

18:00~19:00 みんなのモーターショー

場所:アトリウム内ステージ(西展示棟)

ラジオDJのピストン西沢さんが東京モーターショー2011を盛り上げるためにUstream番組を開始。本日はアトリウム内のステージから公開放送します。<http://mms.ptic.jp/u/tl/>

12/4 TOMORROW's EVENT

12月4日(日) のイベント

1回目 キッズワークショップ

10:00~12:40 集合場所:パナソニックセンター東京

2回目

13:30~16:10

小学4年生~小学6年生を対象としたプログラム。ハイブリッドカー工作教室に参加したあと、ナビゲーターと共に SMART MOBILITY CITY 2011を見学します。お子様1人につき、1人の保護者の参加が必要です。

小学生は東京モーターショー入場料・参加料とともに無料ですが、保護者の方が参加券付き入場券をお買い求め頂く必要があります。※オフィシャルWebサイトから申し込みが必要です。定員に達し次第、締め切りとなります。

12月
10.11日
も開催

10:00~16:30 プロの運転による乗用車同乗試乗会

場所:屋外展示場

12月6日
まで開催

日本自動車ジャーナリスト協会(AAJA)のジャーナリストや専門インストラクターがドライブする各社の最新モデルに同乗試乗し、性能を体感できます。試乗車両はスズキ、スバル、トヨタ、日産、ホンダ、三菱、レクサス、アウディ、AMG、シトロエン、ジャガー、BMW、フォルクスワーゲン、プジョー、ポルシェ、MINI、メルセデス・ベンツ、ランドローバー、ルノー、ロータスの計20ブランドから36台を予定しています。

10:00~16:00 自動運転デモンストレーション

場所:西展示棟屋上展示場

12月6日
まで開催

自動車、電気自動車が自動運転や障害物の回避、自動駐車を行なうデモンストレーションを実施。夢の自動走行への期待がふくらみます。

13:00~14:40 就職サイト「リクナビ」トークイベント

技術立国ニッポンの若者たちの「働く観」はどうあるべきか?

場所:アトリウム内ステージ(西展示棟)

岡崎仁美「リクナビ」編集長による基調講演と、㈱エヌ・ティ・ディ・ドコモ スマートコミュニケーションズ＆ソリューションズ部の斎藤剛さん、日立オートモーティブシステムズ(株) パワートレイン＆電子事業部 藤下政克さん、㈱LIXIL ハウジング企画部の吉田格さん、岡崎編集長によるパネルディスカッションを開催。「3.11を経た企業側の採用動向」や「求める人物像はどう変化しているか」など、ここでしか聞くことのできない就職情報を得るチャンスです。

13:00~16:00 アドバンス・テクノロジー・セミナー

スマートコミュニティシンポジウム2011

～新しい技術で、変わるべき～

場所:会議棟6F 主催:SMART MOBILITY CITY 2011実行委員会 協力:読売新聞社 後援:経済産業省

東京工業大学統合研究院教授の柏木孝夫さんによる基調講演や企業事例の紹介のほか、女優の菊川怜さんたちによるパネルディスカッションを実施します。

16:30~17:30 AJAJタウンミーティング ~トヨタ86開発ストーリー～

場所:アトリウム内ステージ(西展示棟)

AJAJ(日本自動車ジャーナリスト協会)のモータージャーナリスト河口まなぶさんと、トヨタ86のチーフエンジニアであるトヨタ自動車製品企画本部の多田哲哉さんによるトークショー。トヨタ86の開発ストーリーを語っていただきます。

常時開催イベント

□ ソープボックスダービー

場所:西3ホール

木製モックカーを作りして全長約10メートルのコースでタイムを競います。小学生の参加優先(保護者同伴必要)。モックカー作りから親子で参加できるファミリーイベントです。受付は先着順です。

□ ワールド フード カップ

場所:西展示棟 屋外展示場

屋外展示場の特設試乗コース手前に、朝の情報番組「めざましテレビ」(フジテレビ)がサポートするフードコートが誕生!世界を8つの地域に分け、それぞれの地域の一押しへルメをケータリングカーで販売。おいしかったメニューを投票してください。あなたの1票で、No.1グルメが決まります!

□ 迷宮モーターショー

場所:アトリウム(西展示棟)

ET2とSCRAPによる、実際にあなたがスパイとなって謎を解くゲームイベント。「東京モーターショーに潜入し、旋律の謎を追え!」というミッションをクリアしてください。

□ 東京モーターショーファッションショップ

場所:西3ホール

□ トミカコーナー

場所:西3ホール

□ パーソナルビークル試乗会

場所:西4ホール

時間:10:30~19:30(12/4は10:30~17:30、12/11は10:30~16:30)

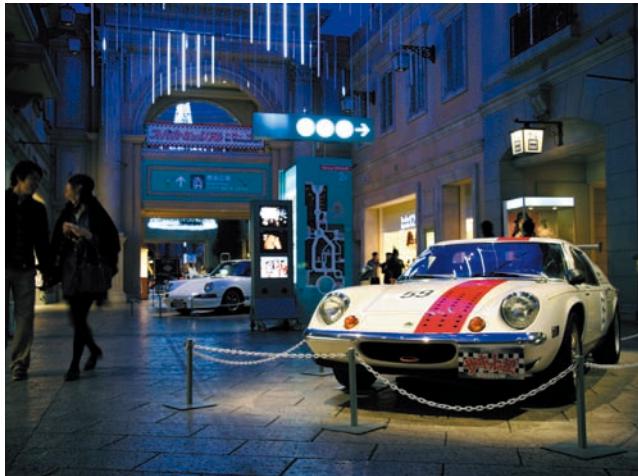
□ PlayStation®/「グランツーリスモ」ブース

場所:アトリウム(西展示棟)

※イベントの時間や出席者等は予告なく変更になります



臨海副都心エリアの楽しいイベントもチェック!



「サーキットの狼」の世界がヴィーナスフォートに蘇る ロータスヨーロッパやスーパーカーが集結!

□ヴィーナスフォート

ヴィーナスフォートでは東京モーターショーの開催中、「スーパーカーミュージアム」を開催しています。スーパーカーブームの火付け役であるランボルギニカウントラックLP400Sのほか、トヨタソアラ2800GTや日産スカイライン2000GT-Rなど往年の国産名車も集結。人気漫画「サーキットの狼」でおなじみのロータスヨーロッパスペシャル（サーキットの狼Ver.）も展示されています。

さらに12月4日（日）の14:00～

14:30には、2F教会広場で「サーキットの狼」作者の池沢早人師先生とタレントの岡本夏生さんによるトークショーも開催されます。



1Fには人気の高かった日本の旧車、絶版車を、2Fには輸入車を展示する

「自由の女神像」沖から打ち上げ お台場の夜空に咲き誇る花火を楽しもう!

□お台場海浜公園（臨海副都心エリア一帯）



本日の19:00より約10分間「お台場レインボー花火2011」が開催されます（荒天の場合は中止）。レインボーブリッジをバックに、空気の澄んだ冬の夜空にダイナミックな華が咲き誇ります。

デックス東京ビーチ3Fのシーサイドデッキと、アクアシティお台場5F・6Fのレストランテラス席及び共用スペースでは、花火の打ち上げに合わせた音楽と共に楽しむことができます。臨海副都心（お台場地区）一帯で観覧可能です。



等身大フィギュアが並ぶマダム・タッソー東京 ブライアンなど世界中のセレブが集結!?

□デックス東京ビーチ アイランドモール3F

世界のスターを精巧にかたどった等身大フィギュアで有名な「マダム・タッソー」が東京に上陸！ ブラッド・ピットとアンジェリーナ・ジョリー、ジョニー・デップにレディ・ガガといった世界中のセレブリティが集結しました。日本からは坂本龍一や葉加瀬太郎といった世界的音楽家のほか、鉄腕アトムなども登場しています。

全ての等身大フィギュアと触れ合ったり写真撮影ができるほか、専属のカメラマンによるマイケル・

ジャクソンなどの写真撮影、さらには自分の手形をワックスで作るワックスハンドなど、体験型ブースも多数用意されています。



営業時間は11:00～21:00。大人800円、小人（4歳～中学生）500円





**① ホテル日航東京
レストラン・バーご利用10%OFF!**

台場駅直結でリゾート感覚あふれる全室バルコニー付の「ホテル日航東京」。ホテル内にはレインボーブリッジや東京タワーなど、「The 東京」の景色を一望できるレストラン・バーが揃います。その全10店がご利用10%OFFでご提供!

営業時間 ランチ11:30~14:30 ディナー17:30~21:30
※一部店舗によっては異なります。

交通手段 ゆりかもめ【台場】駅直結
りんかい線【東京テレポート】駅徒歩10分



**② アクアシティお台場 メディアージュ
「ナイスクーポン」プレゼント!**

お台場海浜公園隣接の東京リゾー島「アクアシティお台場 メディアージュ」。館内インフォメーションカウンター(～21:00)で本誌を提示すれば館内で使える「ナイスクーポン」がもらえます。
※詳細は「ナイスクーポン」をご覗ください。

営業時間 物販・フードコート11:00~21:00 / 飲食11:00~23:00
メディアージュ11:00~23:00(土曜日のみオールナイト)

交通手段 ゆりかもめ【台場】駅徒歩1分
りんかい線【東京テレポート】駅徒歩6分



**③ デックス東京ビーチがまるごとおトク!
「DECKS プレミアム カード」プレゼント!**

エンターテインメントスポット「デックス東京ビーチ」。本誌をシーサイドモールのインフォメーションカウンター(～21:00)で提示すれば「DECKS プレミアム カード」をプレゼント。今話題のマダム・タッソーエントラムも20%OFF!! ※詳細は「DECKS プレミアム カード」特典一覧をご覗ください。

営業時間 ショップ11:00~21:00 / レストラン11:00~23:00
東京ジョイボリス10:00~23:00(最終入場22:15)

交通手段 ゆりかもめ【お台場海浜公園】駅徒歩2分
りんかい線【東京テレポート】駅徒歩5分



**④ ホテル グランパシフィック LE DAIBA
レストラン・バー全店10%OFF!**

東京都心から15分のシティリゾート。東京タワーや東京スカイツリー®などの眺望が魅力の「ホテル グランパシフィック LE DAIBA」。和洋中に鉄板焼、カクテルからバーまで最上の空間でお出迎え。本誌提示で館内飲食7店が10%OFF!

営業時間 ランチ11:30~14:30 ディナー17:30~21:00 バー:～24:00
※詳細は店舗によって異なります。

交通手段 ゆりかもめ【台場】駅直結
りんかい線【東京テレポート】駅徒歩10分



**⑤ フジテレビ
球体展望室「はちたま」入場料20%OFF**

フジテレビのシンボルである球体展望室—その名も「はちたま」。期間中本誌を提示すれば「はちたま」入場料を20%OFFいたします。この機会に地上123.45mの高さから臨海副都心エリアを270度見渡せる大パノラマをぜひお楽しみください。

営業時間 10:00~18:00 入館は営業時間終了30分前まで
※曜日を除く毎日開館

交通手段 ゆりかもめ【台場】駅徒歩3分
りんかい線【東京テレポート】駅徒歩5分



**⑥ 台場フロンティアビル
館内店舗でおトクな割引実施中!**

ドリンクバー無料や3名利用で1000円引など、館内各店では皆様のために工夫を凝らしておトクを用意。詳細は各店入口でチェックしてください。また、シェルミュージアムではShellやFerrariのグッズが品揃え10%Off!

営業時間 「笑笑」17時～5時、「クリックスカフェ」7時30分～19時 土12時～18時 日休／「Tokyo串家」11時～15時／17時～23時 日休／「シェルミュージアム」10時～20時 日祝11時～18時 土休

交通手段 ゆりかもめ【お台場海浜公園】駅徒歩1分
りんかい線【東京テレポート】駅徒歩3分



**⑦ the SOHO カフェ&ダイニング
「The Canteen」ランチ・ディナー利用時OFF!**

デザイン性に優れ世界でも類を見ない世界最大級のSOHOオフィスビル「the SOHO」。1F カフェ&ダイニング「the Canteen」でランチメニュー100円引、ディナータイム2,000円以上利用時10%OFFでご提供!

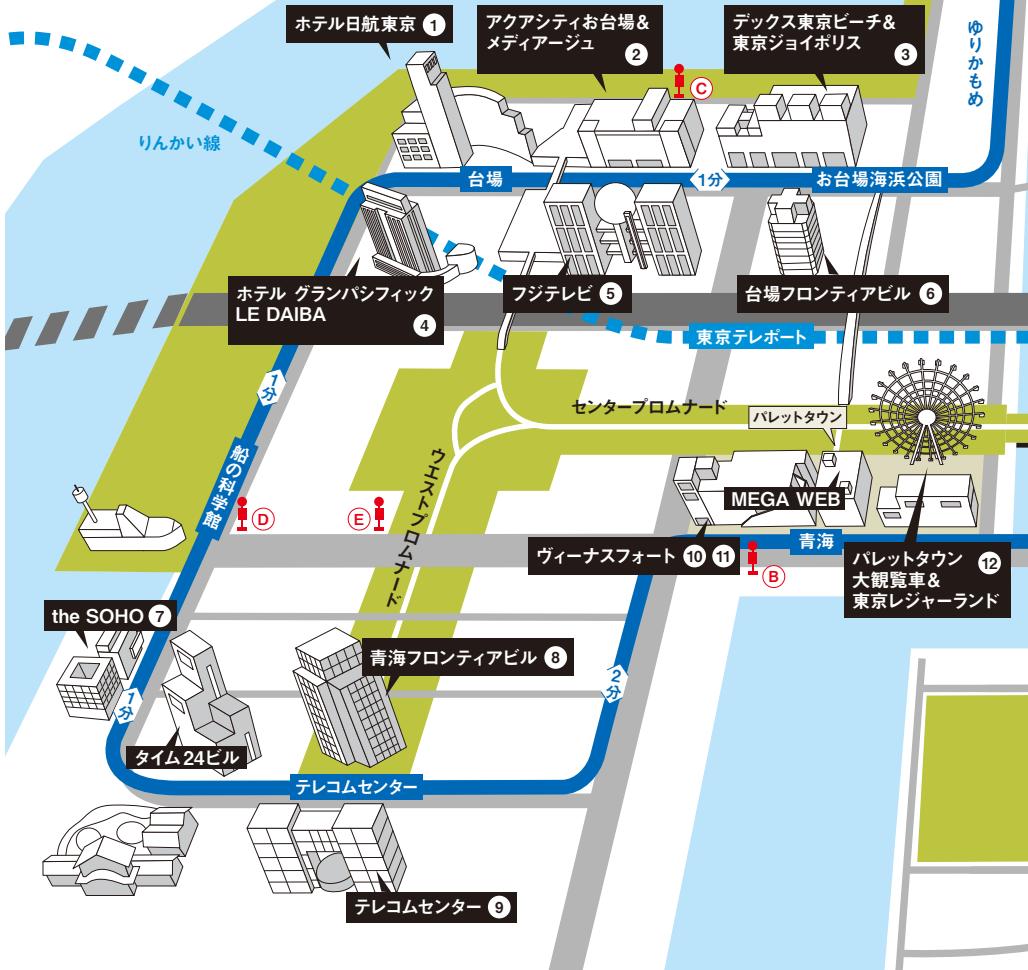
営業時間 ランチ11:30~16:00 ディナー17:00~22:00 (L.O.21:30)
平日10時～22時 土曜10時～18時 日休 (※03-5530-0261)

交通手段 ゆりかもめ【テレコムセンター】駅徒歩5分
ゆりかもめ【船の科学館】駅徒歩5分

東京モーターショーニュースを見せるだけ!

臨海副都心エリアお得MAP

東京ビッグサイトがある臨海副都心地区には多くのお楽しみスポットがあることは皆さんもご存知の通り。そのスポットを運営している各社が、来場者の皆さんのためにお得サービスをたくさん用意しています。いわば街をあげてのおもてなし。この機会にぜひ東京モーターショーと一緒に楽しんでください。



**⑧ 青海フロンティアビル カフェテリア
「グリーンズシェフ」おかわりサービス!**

ビジネス拠点青海フロンティアビル内にあって余裕の130席を誇るカフェテリア「グリーンズシェフ」。ランチタイム(11:30~14:00)に定食を注文すれば、ご飯と味噌汁を何杯でも自由におかわりできます!お腹一杯食べたい人はぜひお越しください。

営業時間 ランチ11:30~14:00のみ
土曜定休

交通手段 ゆりかもめ【テレコムセンター】駅徒歩1分



**⑨ テレコムセンタービル 日本夜景遺産展望台割引
&館内おトクな飲食割引サービス実施中!**

カフェ・蕎麦・和食・中華に居酒屋など、豊富なバリエーションが自慢の館内7店でおトクな割引サービス実施中! 詳細は各店入口でご確認ください。また日本夜景遺産の展望台も入場料100円引で! 展望台内のレストラン&バーも割引

営業時間 ランチ11:00~15:00 ディナー17:00~22:00
※上記は目安です。店舗によって定休日・営業時間は異なります。

交通手段 ゆりかもめ【テレコムセンター】駅徒歩1分



10 ヴィーナスフォート「グルメクーポン」プレゼント&「スーパーかーみゅージアム」開催!

17~18世紀ヨーロッパの街並みを再現したテーマパーク型モール「ヴィーナスフォート」。2階インフォメーションで本誌を提示すればカフェ＆レストランで使える「グルメクーポン」がもらえる!「サーキットの狼」のスーパーかーや車も多数展示中!

営業時間 ショップ11:00~21:00 レストラン11:00~23:00(L.O.22:00)
※詳細は「グルメクーポン」をご覧ください。

交通手段 ゆりかもめ【青海】駅直結
りんかい線【東京テレポート】駅徒歩3分



**11 MEGA WEB ヒストリーガレージ
モデルカーショップ「グリース」で国産車10%OFF!**

ヴィーナスフォート内ヒストリーガレージにあり都内最大級の売場面積・豊富な在庫数を持つモデルカーショップ「グリース」。本誌提示で国産車モデルを10%OFFで販売!そんなミニカーやアートリックカーを眺めながらくつける「アレックスドロ・ナニニ・カフ」や小学生から気軽にカードを楽しめる「Fun カートライド」もぜひどうぞ!

営業時間 11:00~21:00
※Fun カートライドは11:00~17:00

交通手段 ゆりかもめ【青海】駅直結
りんかい線【東京テレポート】駅徒歩3分



**12 パレットタウン大観覧車 乗車優待 &
東京レジャーランド ボウリング・カラオケ優待**

●地上115m、海と東京を見渡すパノラマが広がる大観覧車の乗車料1名様(4歳以上900円→700円)に(※シースルーボンボンを除く)※4名まで可●東京レジャーランドでは①ボウリング一般料金から1ゲームあたり100円引の会員価格でご提供(※貸靴代別途Y300※4名まで可)②カラオケ料金20%OFFで!(※飲食代別1ドリンクオーダー制)

営業時間 ●太鼓観覧車:10時~22時 金土祝前日~23時(※先着時運休)●東京レジャーランド:ボウリング24H/カラオケ13時~翌朝6時(最終受付1時)/3階ゲームコーナー10時~23時50分

交通手段 ゆりかもめ【青海】駅直結
りんかい線【東京テレポート】駅徒歩3分

●お得MAPの使い方

この「TOKYO MOTOR SHOW NEWS」をお店に提示するだけです。当日号に限らず、東京モーターショー開催期間中(~12月11日)ならどの号を提示しても大丈夫!「今日はちょっと時間が…」という方も、後日また来ちゃえばお得サービスを受けられます。もちろん1日使って何ヶ所も巡ってお得に過ごす…なんていうのも大歓迎です。

レインボープリッジ



期間中、東京ビッグサイト(西展示棟横の有明客船ターミナル前)とアクアシティお台場、青海臨時駐車場を巡回する無料シャトルバスが約30分間隔で運行されます。
【運行ルート】
Ⓐ 東京ビッグサイト中央ターミナル
(西展示棟横有明客船ターミナル前)
Ⓑ ヴィーナスフォート(パレットタウン)前
Ⓒ アクアシティお台場
Ⓓ 青海臨時駐車場前(船の科学館前)
Ⓔ セントラル広場前



**13 パナソニックセンター東京 2階カフェ「E-FEEEL」
ソフトドリンク1杯無料プレゼント!**

パナソニックの最新技術や商品を触って体験。「もっと理数を楽しもう!」がコンセプトの体感型ミュージアム「リスニア」で理科と数学をテーマにした不思議体験を!土日は「エコアイデアハウジ」でC02±0のおうち丸ごと体験ガイドツアーも開催中!※ソフトドリンクは指定のドリンクからお選びください。

営業時間 10:00~18:00(リスニア最終入場17:00)

交通手段 ゆりかもめ【国際展示場正門】駅徒歩5分
りんかい線【国際展示場】駅徒歩2分



**14 ホテルサンルート有明 2階「創菜 バティオ」
ディナータイム1ドリンクサービス!**

『カラダにやさしい』をテーマに、和の味わいと洋の華を巧みに組み合せた多彩なメニューが自慢の「創菜 バティオ」。自社製横浜オリガリ手作り地ビールとのペアモードもぜひ一緒にお楽しみください。※1ドリンクサービスはディナータイムのみ

営業時間 モーニング 6:30~10:30(入場~10:00) / ランチ 11:30~14:30
(入場~14:00) / ディナー 17:00~23:00(最終22:00)

交通手段 ゆりかもめ【国際展示場正門】駅徒歩3分
りんかい線【国際展示場】駅徒歩3分



**15 TFTビル(ワンザ有明ペイモール)
1ドリンクサービス&10%OFF!**

17時以降1ドリンクサービス●チャオ! ソフトドリンク●ふかどん! 中生ビールカソードリンク●翼苑! 生ビール●akitsui(あきつい) 日本酒ハイボールカクィスキーハイボール●甜心!「雷ガサギ」「ほおづきや」グラス生ビールカサワーまたはワーン茶●創菜のむくわ! 中生ビールカサワまたはワーン茶●「葉地食堂素ちゃん」グラス生ビール●竹囲繕工房(17:00)~「ボン」(17:30)~ではお1人様3,150円以上ご飲食時10%OFF!

営業時間 ランチ 11:00~15:00 / ディナー 17:00~23:00
※各店により異なります。

交通手段 ゆりかもめ【国際展示場正門】駅徒歩1分
りんかい線【国際展示場】駅徒歩5分



**16 有明フロンティアビル
館内レストラン・カフェお得割引中!**

●居酒屋「チムニー」10名様以上の宴会コースで幹事様1名分料理代無料●中華「春華秋實」ランチ10%OFF/アラカルト10%OFF/ディナーレストランコース10名様以上で幹事1名分無料●食と遊覧!ディナータイムお会計時10%OFF!詳しくは館内各店入口でご確認ください!

営業時間 ●チムニー 1月~11月18時30分~23時、土日16時~23時●春華秋実 11時~15時/17時~22時●遊覧亭 11時30分~14時/17時~22時30分 日休●

交通手段 ゆりかもめ【国際展示場正門】駅徒歩3分
りんかい線【国際展示場】駅徒歩3分

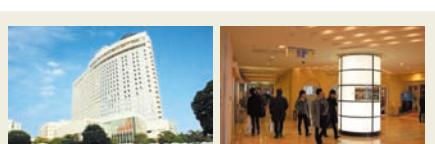


**17 東京ビッグサイト「リストランテ・トレヴィ」
15時以降ご来店で1ドリンクサービス!**

会議棟8階にある「リストランテ・トレヴィ」では、東京モーターショー開催期間中、15時以降クリスマス・ナイト・フェアを開催。お得MAPのご提示で1ドリンク(オレンジジュース、ウーロン茶、コーヒー、グラスワインのいずれかになります)をサービス致します。※他クーポンとの併用不可。

営業時間 11:00~23時(※12月4日(日)、11日(日)は20時まで。L.O.は30分前。※12月8日(木)は15:00まで)

交通手段 東京ビッグサイト内会議棟8階
(2階エレベーターからお上がり下さい)



**18 東京ベイ有明ワシントンホテル
高層階レストラン2店が飲食10%OFF!**

旬を生かした和食を楽しめる21階「三十三間堂」と、ニューヨークスタイルで中国料理を楽しむ20階「チャイナグリル・マダムシェンロン」。東京湾の摩天楼を一望できる眺望が自慢の2店でどちらも会計時10%OFFになります。

営業時間 ●三十三間堂 ランチ11時30分~(L.O.14時00分) ディナー17時~22時30分(※L.O.22時) ●マダムシェンロン 11時30分~22時(※L.O.21時30分)

交通手段 ゆりかもめ【国際展示場正門】駅徒歩2分
りんかい線【国際展示場】駅徒歩2分



東京ビッグサイト 会場案内図

TOKYO BIG SIGHT MAP



第42回東京モーターショー必見のイベント&ブースはコレだ！

Here are the must-see events at the 42nd Tokyo Motor Show!

□ ワールド フード カップ ワニの肉だって食べられるかも？

フジテレビ朝の情報番組「めざましテレビ」が応援する世界の“食”的祭典「WORLD FOOD CUP」。世界中からおいしいグルメが大集結！みなさんの投票でNo.1の国を決定します。今大会は世界を北米、中南米、アフリカ、オセアニア、ヨーロッパ、アジア、東南アジアそして日本の8つの地域に分類し、地域を代表する8カ国を選定、会場内には8カ国を代表するスペシャルキッチンカーが出店しています。料理購入の際に配布したシールを「おいしい」と思った料理の国に投票できる。今まで食べたことのない絶品メニューと自慢のソウルフードなど、世界の“絶品グルメ”をどうぞお楽しみ下さい！

□WORLD FOOD CUP Alligators for lunch?

Fuji TV's morning program "Mezamashi TV" supports the "WORLD FOOD CUP." Try the delicacies brought here from around the globe, and vote for your favorite! There will be 8 regions: North America, Latin and South America, Africa, Oceania, Europe, Asia, South Eastern Asia, and Japan. One country will be chosen to represent each region, and there will be a special kitchen car for each. You will receive a sticker to vote for your favorite country. Enjoy this rare opportunity to try exotic menus and soul foods of various countries.

□ 東京モーターショーファッションショップ 収益金額を東日本大震災支援のために寄付！

クルマとファッションで日本を元気にすることをテーマに、東京モーターショーと国産自動車メーカー14社、ユナイテッドアローズ社がコラボレート。西3ホールに設置したチャリティTシャツを限定販売。収益金額を東日本大震災支援のために寄付します。そのほか廃材を使用したリサイクルファッショングッズなど、クルマのある生活や旅先で贅沢な気分で過ごすためのオリジナルアイテムも用意されていますので要チェック！ステージでもトークショーを実施します！

□Tokyo Motor Show Fashion Shop Proceeds will be donated to earthquake relief

The automobile and fashion industries have stood up to live up Japan. The Tokyo Motor Show, domestic automobile manufacturers, and United Arrows have collaborated to produce charity T-shirts available in limited numbers, which will be sold in West Hall 3. Proceeds will be donated to earthquake relief charities. Other items on sale include items that will enrich your car life, including fashion items made of recycled products. Talk shows will take place on the stage nearby.



□ステージイベント クルマは楽しい！ステージも楽しい！

今回の東京モーターショーの目玉とも言えるのが西展示棟アトリウム内に設置されたステージイベント。開催初日12月3日、国産自動車メーカー5社によるトークセッションにはテリー・伊藤氏も参加。フジテレビのアナウンサーによる「アナ★ババ」公開収録やF1パイロット小林可夢偉のトークショー、TOKYO FM「シンクロノジティ」の公開生放送などを実施。また2011-2012日本カー・オブ・ザ・イヤー開票表彰式、ユナイテッドアローズ社プロデュースのトークショーおよびミニファッションショーの実施や大抽選会、リクルートの就職サイト「リクナビ」編集長等のトークイベント、人気DJピストン西澤による「みんなのモーターショー」トークイベントやインターネット学生放送団体「CLIPS」によるステージイベントなどが毎日盛りだくさんです。ステージを見ないと、もったいないですよ！

□Stage Events Exciting stage events

The main events will take place on the stage in the Atrium of the West Event Hall. Mr. Terry Ito will moderate a talk session by the 5 top executives of Japanese automobile manufacturers on December 3. There will be a public recording of Fuji TV's "ANA-BANG", a talk show by F-1 racer Kamui Kobayashi, and a public recording of TOKYO FM's "Syncro-no-City". Another exciting event will be the awarding of 2011-2012 Car of the Year Japan. There will be a talk event by the chief editor of RIKUNAVI about job opportunities, and by DJ Piston Nishizawa themed "everyone's motor show." CLIPS, an internet-broadcasting student group, will also perform on stage. Be sure you do not miss the excitement!

? インフォメーション INFORMATION
 木 待ち合わせコーナー Meeting Point
 リフター エレベーター Elevator
 エスカレーター Escalator
 化粧室 Restroom
 身障者用施設 Accessible Facility

人 乳幼児用施設 Nursery
 女 授乳室 Nursing Room
 リフター コインロッカー Coin Lockers
 灰 喫煙場所 Smoking Area
 手 救護室 First Aid
 心 AED 自動体外式除細動機 AED / Automated External Defibrillator

食 レストラン・カフェ・休憩ゾーン Restaurant & Cafe, Rest Zone
 COPY FAX SHOP ショップ・サービス施設 Shops & Service Facilities

西展示棟



プロの運転による乗用車同乗試乗会
 Test ride cars driven by professional drivers
 12月2日(金)～6日(火) / Dec 2 (Fri) to 6 (Tue)

二輪車試乗会
 Motorcycle test ride
 12月8日(木)～11日(日) / Dec 8 (Thu) to 11 (Sun)

電動アシスト自転車試乗会
 Electrically assisted bicycle test ride
 12月8日(木)～11日(日) / Dec 8 (Thu) to 11 (Sun)

パーソナルビークル試乗会
 Personal Vehicle test ride
 12月2日(金)～11日(日) / Dec 2 (Fri) to 11 (Sun)

自動運転デモンストレーション
 Auto-pilot demonstration
 12月2日(金)～6日(火) / Dec 2 (Fri) to 6 (Tue)

次世代自動車同乗試乗会
 Next generation automobile test ride (passenger seat)
 12月7日(水)～11日(日) / Dec 7 (Wed) to 11 (Sun)

次世代二輪車試乗会
 Next generation motorcycle test ride
 12月7日(水)～11日(日) / Dec 7 (Wed) to 11 (Sun)

□ オフィシャルグッズ & 出展者プレミアムグッズ 会場で購入できなかった時はWebでGet!?

東京モーターショーのロゴマークをあしらったキーホルダー、マグカップ、ハンドタオル等の記念品のほか、出展者ブランドのプレミアムグッズ（東4ホールのみ）も購入できます。体験販売コーナーでは記念メダルの制作も体験可能。もし買いたいぞびれてしまった場合でも、一部グッズに限り会期終了後から期間限定で東京モーターショーオフィシャルWebサイトで手に入る。



オフィシャル
モバイルサイト



□ Official Goods Products are also available online

Official goods imprinted with the Tokyo Motor Show logo, such as key holders, mug cups, and hand towels, will be sold. The items on sale include solar LED lights, glow-in-the-dark pens, and bags made of recycled tires, and exhibitor premium goods (at the shop in East Hall 4 only). You can also make commemorative coins in the work-shop. If you forgot to stop by, some items are available online! Accessing the page from the QR code.

□ トミカコーナー 「トミカ組み立て工場」で自分だけの1台を!

第35回ショー出展以来、子供たちから絶大な人気を誇るトミカの展示販売。選んだパーツで組み立ててもらえるトミカ組み立て工場も。

□ Tomica Corner Make your original Tomica at the "Tomica Factory"

The Tomica Corner, sponsored by TOMY COMPANY, has been very popular among children since it first appeared at the 35th show to sell mini cars commemorating the 42nd Tokyo Motor Show 2011. You can make your original by selecting parts.



□ ソープボックスダービー モックカーの工作は当日先着順に受け付けです!

NPO法人「ソープボックスダービー」の協力で開催される木製モックカーによるタイム競技。親子で参加できるファミリーイベントです。西3ホールで対象は保護者同伴の小学生です。



□ Soap Box Derby Mock car workshops are on a first-come-first-serve basis

Supported by the NPO group Soap Box Derby, a time trial using wooden mock cars will be held. Children in elementary school and their guardians are eligible to participate. The event will be at West Hall 3.

□ 東京モーターショーガイド2011 まずはコレを買わなくては!

さすがオフィシャルガイドは情報量が豊富。出展車両紹介はもとより、カロッツェリア情報やカーグッズ、クルマのアブリ情報なども充実。日刊自動車新聞社発行 500円(税込み)です。



□ TOKYO MOTOR SHOW GUIDE 2011 A must-buy!

This official guidebook is loaded with information. It includes introductions of exhibited vehicles, information on carrozzerias and car goods, and car related apps. Published by Nikkan Jidisha Shimbun at 500 yen (taxes included).

□ グランツーリスモブース 往年の名車旧車から最新型車まで楽しめる!

アトリウムに設置された「Play Station® 3 / グランツーリスモ」ブース。専用ソフトウェア「グランツーリスモ5」を存分に堪能してください。

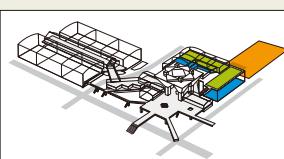


□ Gran Turismo Booth Enjoy a full selection of cars from the classics to the latest models

The Play Station® 3 / "Gran Turismo" booth is set up in the Atrium. Enjoy "Gran Turismo 5" which is especially made for the show.

西展示棟出展ブース一覧

WEST HALL MAP



※地図上、赤文字でページ数を表記しているメーカーは本誌内に取材記事があります。

Manufacturers that are labeled in red letters have interview articles in this guide book

屋外展示場 Rooftop Exhibition Area

プロの運転による乗用車同乗試乗会

Test ride cars driven by professional drivers

12月2日(金)～6日(火) / Dec 2 (Fri) to 6 (Tue)

二輪車試乗会

Motorcycle test ride

12月8日(木)～11日(日)

Dec 8 (Thu) to 11 (Sun)

電動アシスト

自転車試乗会

Electrically assisted bicycle test ride

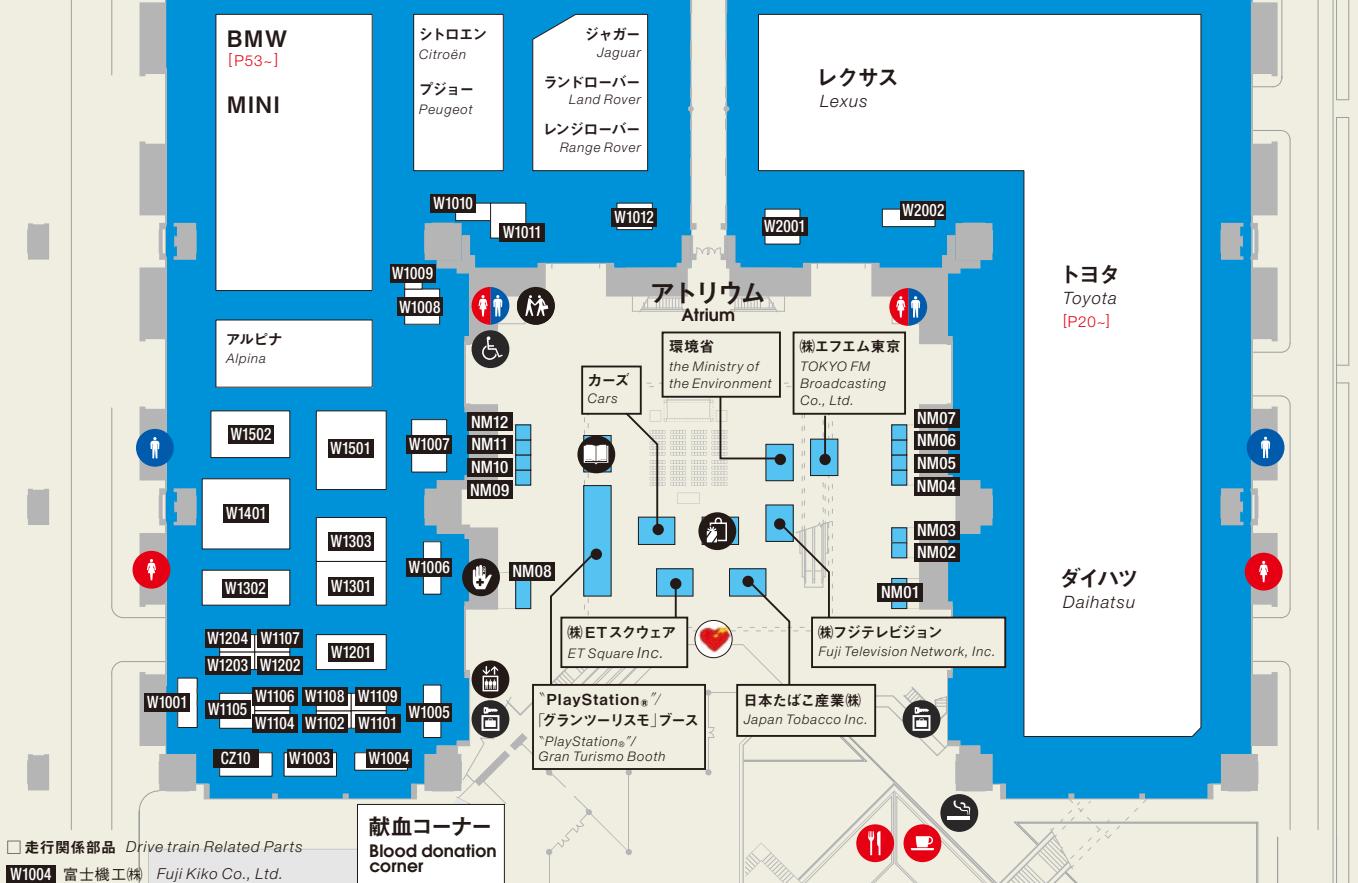
12月8日(木)～11日(日)

Dec 8 (Thu) to 11 (Sun)

西展示棟 1F
West Exhibition Hall 1F

西1
ホール
West Hall 1

西2
ホール
West Hall 2



□ 走行関係部品 Drive train Related Parts

W1004 富士機工株 Fuji Kiko Co., Ltd.

W1005 (株)ヨロズ Yorozu Corp.

W1006 Öhlins Racing AB

Militec Corp.

W1007 (株)エクセディ Exedy Corp.

W1008 光生アルミニューム工業株 Kosei Aluminum Co., Ltd.

W1011 日信工業株 Nissin Kogyo Co., Ltd.

W1101 GMB 株 GMB Corp.

W1102 ナブテスコ オートモーティブ株 Nabtesco Automotive Corp.

W1107 (株)松井製作所 Matsui Universal Joint Corp.

W1108 Hirschvogel Holding GmbH

W1109 協和工業株 Kyowa Kogyo Co., Ltd.

W1201 ジヤトコ株 Jatco Ltd.

W1301 日本発条株 NHK Spring Co., Ltd.

W1302 (株)ジェイテクト JTEKT Corp.

W1303 噴ブレーキ工業株 Akebono Brake Industry Co., Ltd.

W1401 NTN 株 NTN Corp. [P59+]

W1501 アイシン精機株 Aisin Seiki Co., Ltd. [P55+]

アイシン高丘株 Aisin Takaoka Co., Ltd

アイシン化工作 Aisin Chemical Co., Ltd.

アイシン・エ・ダブリュ株 Aisin AW Co., Ltd.

アイシン・エーアイ株 Aisin AI Co., Ltd.

(株)アドヴィックス Advics Co., Ltd.

W1502 日本精工株 NSK Ltd.

□ 内装部品 Interior Parts

W1202 LG Hausys Ltd.

□ エンジン部品 Engine Parts

W1001 (株)リケン Riken Corp.

W1104 日本ビストンリング株 Nippon Piston Ring Co., Ltd.

W1105 (株)ダイセル Daicel Corp.

W1106 TPR 株 TPR Co., Ltd

W1203 富士精工株 Fuji Bellows Co., Ltd.

W1204 (株)アーレスティ Ahresty Corp.

□ 機械器具 Machinery and Tools

W1003 スナップオン・ツールズ株 Snap-on Tools Japan K.K.

W1009 (株)ワイピーシステム YP System Co., Ltd.

W1010 京都機械工具株 Kyoto Tool Co., Ltd.

W1012 水戸工機株 Mito Tool Mfg. Co., Inc.

W2001 (株)東日製作所 Tohnichi Mfg. Co., Ltd.

W2002 前田金属工業株 Maeda Metal Industries, Ltd.

□ カロッツェリア Carrozzeria

CZ10 AD Motors Co., Ltd.

□ 新聞雑誌コーナー Newspaper & Magazine Corner

NM01 (株)日刊自動車新聞社 Daily Automotive News

NM02 (株)ニッポン Nippon Publishing Co., Ltd.

NM03 (株)内外出版社 Naigai Publishing Co., Ltd.

NM04 (株)アンドレジャーニュース Car and Leisure News Inc.

NM05 (有)三樹書房 Miki Press

NM06 (株)八重洲出版 Yaesu Publishing Co., Ltd.

NM07 (株)交通タイムス社 Kotsu Times Sha Co., Ltd.

NM08 (株)三栄書房 San-eishobo Publishing Co., Ltd.

(株)イデア i-dea Co., Ltd.

NM09 (株)ぱると出版 Porte Publishing Co.

NM10 (株)モーターマガジン社 Motor Magazine Ltd.

NM11 (株)フォーユン Fourin, Inc.

NM12 (株)交通毎日新聞社 Kotsumainichi Shimbunsha Corp.

□ SMART MOBILITY CITY 2011

SMC01 LPガス自動車普及促進協議会 Japan LPG Vehicle Promotion Association	SMC12 株東芝 Toshiba Corp.	SMC16 マツダ(株) Mazda Motor Corp.
SMC02 (株)SIM-Drive SIM-Drive Corp. 慶應義塾大学 Keio University	SMC13 (株)日立製作所 Hitachi, Ltd.	SMC17 経済産業省資源エネルギー庁 Agency for Natural Resources and Energy
SMC03 フォルクスワーゲンAG VOLKSWAGEN AG [P32-]	日立オートモティブシステムズ(株) Hitachi Automotive Systems, Ltd. [P40-]	SMC18 (株)エフエム東京 TOKYO FM Broadcasting Co., Ltd.
SMC04 旭硝子(株) Asahi Glass Co., Ltd. [P42-]	日立コンシューマ・マーケティング(株) Hitachi Consumer Marketing, Inc.	SMC19 日産自動車(株) Nissan Motor Co., Ltd.
SMC05 (株)econo econo Corp.	SMC14 インターネットITS協議会 Internet ITS Consortium	SMC20 (株)エヌ・ティ・ティ・ドコモ NTT DOCOMO, Inc. [P48-]
SMC06 (株)LIXIL LIXIL Corp. [P50-]	特定非営利活動法人ITS Japan ITS Japan	SMC21 トヨタ自動車(株) Toyota Motor Corp.
SMC07 本田技研工業(株) Honda Motor Co., Ltd.	沖電気工業(株) Oki Electric Industry Co., Ltd.	SMC22 東レ(株) Toray Industries, Inc.
SMC08 愛知電機(株) Aichi Electric Co., Ltd.	住友電気工業(株) Sumitomo Electric Industries, Ltd.	SMC23 国土交通省 Ministry of Land Infrastructure, Transport and Tourism
SMC09 ワイヤレス テクノロジー(株) Wireless Technologies, Inc.	株デンソー Denso Corp. [P54-]	SMC24 ゼネラルモーターズ・ジャパン(株) General Motors Japan Ltd.
SMC10 (株)プロスタッフ Prostaff Co., Ltd.	日本電気(株) NEC Corp.	SMC25 常盤産業(株) Tokiwa Corp.
SMC11 電気自動車普及協議会 Association for the Promotion of Electric Vehicles	三菱電機(株) Mitsubishi Electric Corp. [P58-]	
	小島プレス工業(株) Kojima Press Industry Co., Ltd.	

西展示棟 4F
West Exhibition Hall 4F



□ 電装・情報関連部品・自動車関連サービス

Electrical Parts, Information Related Parts, Automobile Related Services

W3001 (株)リコ RICOH Co., Ltd.	W3002 九都県市首脳会議 環境問題対策委員会 大気保全専門部会 9 Capital prefectures city Expert committee of the atmospheric preservation	W3003 (株)アル・ダブリュー・シー R.W.C Co., Ltd.	W3004 Whetron Electronics Co., Ltd.	W3005 エーモン工業(株) Amon Industry Co., Ltd.	W3006 高齢者にやさしい自動車開発推進会議事連合 Governor's alliance for the development of senior-friendly automotives	W3007 (株)ベース Basis Co., Ltd.	W3101 一般社団法人日本自動車連盟 Japan Automobile Federation	W3201 (財)道路交通事故情報通信システムセンター Vehicle Information and Communication System Center
-----------------------------	--	--------------------------------------	-------------------------------------	---	--	------------------------------	--	--

W3202 國土交通省

Ministry of Land Infrastructure, Transport and Tourism

(独)自動車事故対策機構
National Agency for Automotive Safety & Victim's Aid

W3301 國土交通省

Ministry of Land Infrastructure, Transport and Tourism

(社)全国自動車標識協議会
National Automobile License Plate Council

W3401 北九州市 City of Kitakyushu

W3402 (株)ワーテックス Watex Co., Ltd.

□ カロッツェリア Carrozzeria

CZ01 ソーラーカーチーム プロミネンス Team Prominence
CZ03 NATS 日本自動車大学校 Nihon Automobile College
CZ04 (株)D Art D Art Co.
CZ05 スマイリーパーク(株) Smile Park Inc.
CZ06 (株)高山自動車 Takayama Cars Co., Ltd.
CZ07 興和デムザック(株) Kowa Tmsuk Co., Ltd.
CZ08 レスク(株) Resc, Ltd.

オフィシャルグッズショップ Official Goods Shop

自動車ガイドブック販売所 Guide Book Stand

インフォメーション INFORMATION

待ち合わせコーナー Meeting Point

エレベーター Elevator

エスカレーター Escalator

化粧室 Restroom

身障者用施設 Accessible Facility

乳幼児用施設 Nursery

コインロッカー Coin Lockers

喫煙場所 Smoking Area

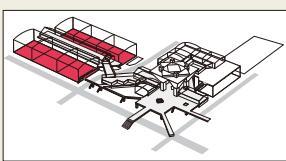
救護室 First Aid

AED 自動体外式除細動器
AED / Automated External Defibrillator

レストラン・カフェ・休憩ゾーン
Restaurant & Cafe, Rest Zone

東展示棟出展ブース一覧

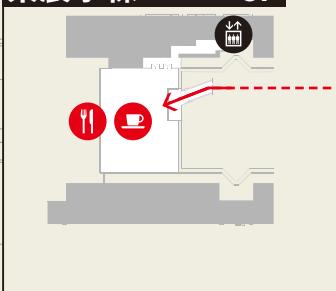
EAST HALL MAP



※地図上、赤文字でページ数を表記しているメーカーは
本誌内に取材記事があります。

Manufacturers that are labeled in red letters
have interview articles in this guide book

東展示棟 EAST Hall 3F



□ エンジン部品 Engine Parts

- E3201** Robert Bosch GmbH
ボッシュ㈱ Bosch Corp. [P57~]
- E3202** MAHLE GmbH
㈱マーレ フィルターシステムズ
MAHLE Filter Systems Japan Corp.
マーレ エンジン コンポーネント ジャパン㈱
MAHLE Engine Components Japan Corp.
- E3203** Schaeffler KG
- E3204** Continental AG
Continental Teves AG & Co. oHG
Continental Automotive GmbH

□ タイヤ・ホイール・情報関連部品 Tire and Wheel / Information Related Parts

- E2010** 住友ゴム工業㈱ Sumitomo Rubber Industries, Ltd. [P46~]
- E2011** ビーウィズ㈱ Bewith Enterprise Japan, Ltd.
- E2012** ㈱レイズ Rays Co., Ltd.
- E2013** ㈱カナック企画 Kanack Planning Corp.
- E2101** 日本グッドイヤー㈱ Goodyear Japan Ltd. [P56~]
- E2102** 横浜ゴム㈱ The Yokohama Rubber Co., Ltd.
- E2103** ㈱ブリヂストン Bridgestone Corp. [P44~]
- E3015** ㈱ソニックデザイン Sonic Design Co., Ltd.

□ 団体 Organization

- E6015** ㈱アステア Asteer Co., Ltd.
大野ゴム工業㈱ Ohno Rubber Industrial Co., Ltd.
3D Auto Protech㈱ 3D Auto Protech Co., Ltd.
大東プレス工業㈱ Daito Press Mfg. Co., Ltd.
丸子警報器㈱ Maruko Keihoki Co., Ltd.
やまと興業㈱ Yamato Industrial Co., Ltd.
(社)日本自動車部品工業会
Japan Auto Parts Industries Association

□ エンジン・電装部品 Engine Parts / Electrical Parts

- E6305** リヨビ㈱ Ryobi Ltd.
- E6402** イワタボルト㈱ Iwata Bolt Co., Ltd.
- E6501** NOK ㈱ NOK Corp.
- E6502** 大同メタル工業㈱ Daido Metal Co., Ltd.
- E6503** ユアサ工機㈱ Yuasa Co., Ltd.
- E6504** ㈱クゼー Kuzeh Corp.
- E6505** 日本モレックス㈱ Molex Japan Co., Ltd.
- E6601** 日鉄バルブ㈱ Nittan Valve Co., Ltd.
- E6602** 大豊工業㈱ Taiho Kogyo Co., Ltd.
- E6603** 東京濾器㈱ Tokyo Roki Co., Ltd.
- E6604** 三輪精機㈱ Sanwa Seiki, Ltd.
- E6701** ㈱ミクニ Mikuni Corp.
- E6702** Scuderia Group, LLC
- E6703** HKT ㈱ HKT Corp.

□ 電装・計器・照明部品 Electrical Parts

- E5010** 永井電子機器㈱ Nagai Electronic Inst. Co., Ltd.
- E6011** ㈱今仙電機製作所 Imasen Electric Industrial Co., Ltd.
- E6012** 三菱電機㈱ Mitsubishi Electric Corp. [P58~]
- E6013** ㈱東海理化 Tokai Rika Co., Ltd.
- E6014** ㈱ミツバ Mitsuba Corp.
- E6101** 日立オートモティブシステムズ㈱ Hitachi Automotive Systems, Ltd. [P40~]
新神戸電機㈱ Shin-Kobe Electric Machinery Co., Ltd.
- 日立化成工業㈱ Hitachi Chemical Co., Ltd.
- 日立ビーカルエナジー㈱ Hitachi Vehicle Energy, Ltd.
- クラリオン㈱ Clarion Co., Ltd.
- トキコテクノ㈱ Tokico Technology Ltd.
- E6102** スタンレー電気㈱ Stanley Electric Co., Ltd.
- E6103** ㈱ユーシン U-Shin Ltd.
- E6104** 日立金属㈱ Hitachi Metals, Ltd.
- E6105** 朝日電装㈱ Asahi Denso Co., Ltd.

東3 ホール East Hall 3

スバル Subaru [P24~]

日産 Nissan [P18~]

三菱ふそう Mitsubishi-Fuso [P39~]

ルノー Renault [P52~]

メルセデス・ベンツ/ マイバッハ/スマート/AMG Mercedes-Benz/ Maybach / smart / AMG [P36~]

東1階ゲート East Hall 1st floor gate

ヤマハ Yamaha [P61~]

川崎 Kawasaki

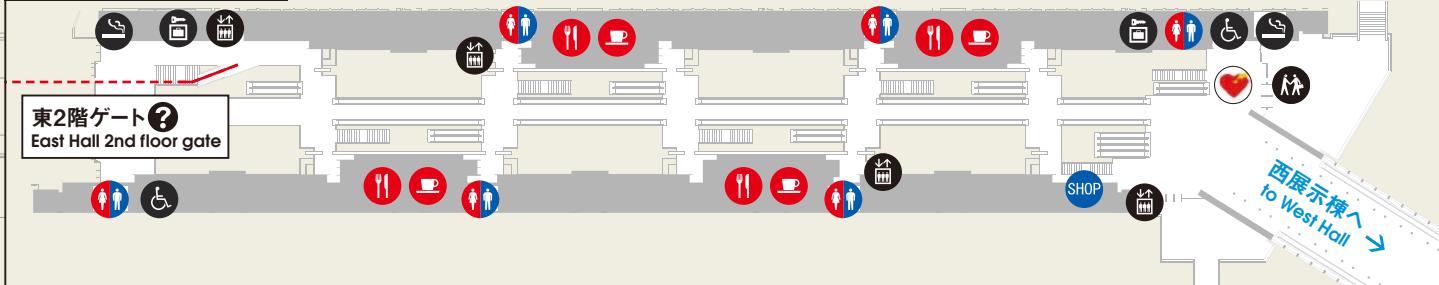
スズキ Suzuki (四輪・二輪) [P30~]

ホンダ Honda (四輪・二輪) [P22~]

東6 ホール East Hall 6

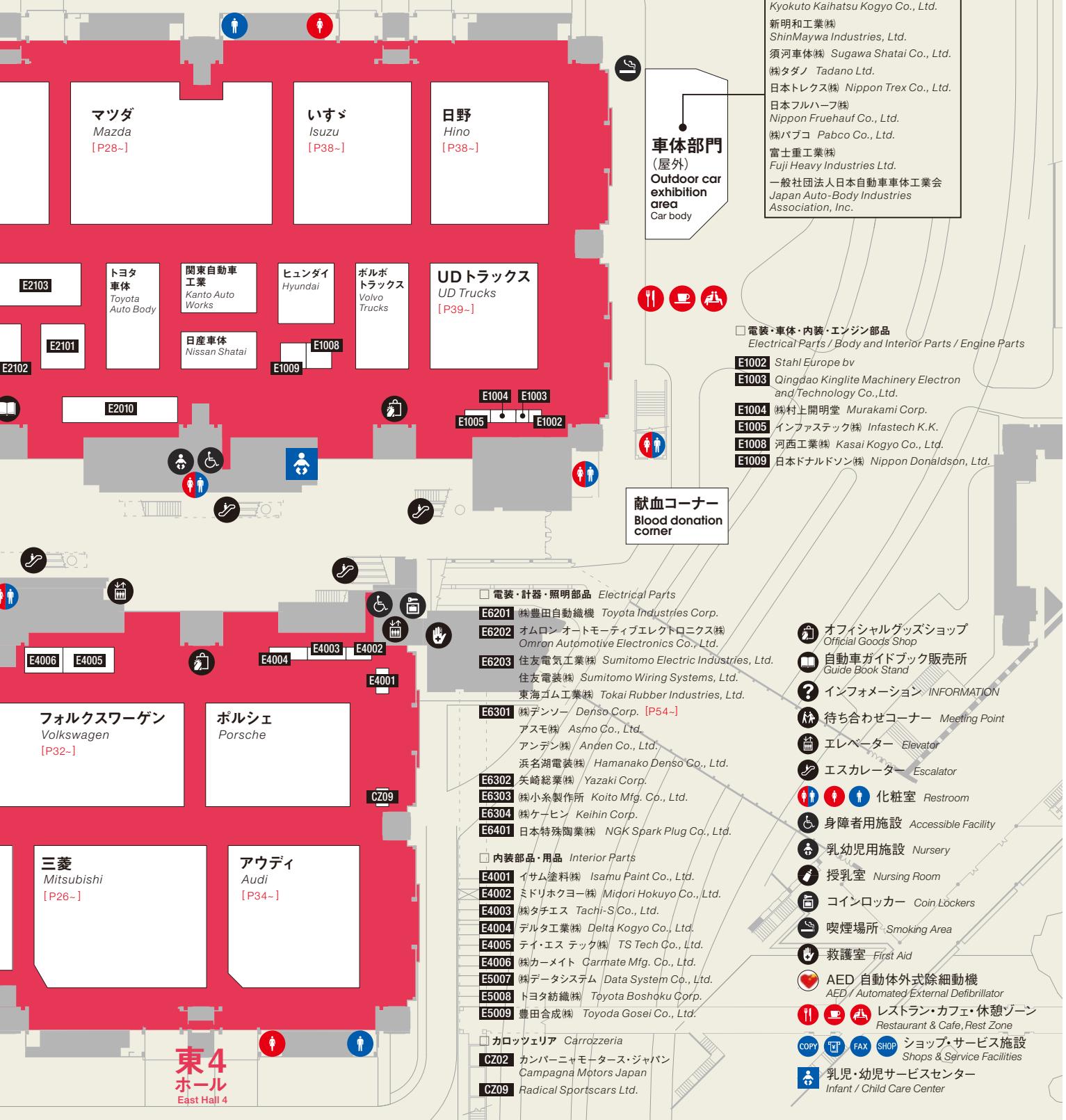
東5 ホール East Hall 5

東展示棟 EAST Hall 2F



東2 ホール East Hall 2

東1 ホール East Hall 1





BRIDGESTONE
あなたと、つぎの黄色へ

「止まる」がすごい。
ブリザック

レボ ジーセット
REVO GZ レボ ツー
REVO 2

www.bridgestone.co.jp

きっと、未来のクルマが帰る家。



SEKISUI HOUSE

西3ホールでお待ちしております。



NKSJグループ

自動車保険は、「やっぱり」日本興亜。

あなたを全力で支える。 日本興亜損保

日本興亜損保は第42回東京モーターショー2011を応援しています。



PS3 PlayStation 3

GRAN TURISMO®
THE REAL DRIVING SIMULATOR

西展示棟アトリウムにて
PS3で「グランツーリスモ5」が体験できます。

PlayStation 3

©2010 Sony Computer Entertainment Inc. Manufacturers, cars, names, brands and associated imagery featured in this game in some cases include trademarks and/or copyrighted materials of their respective owners. All rights reserved.
Any depiction or recreation of real world locations, entities, businesses, or organizations is not intended to be or imply any sponsorship or endorsement of this game by such party or parties.



ET² × SCRAP

musicChef × 謎解きスパイゲーム

モード ショー

さあ ET²ブースへ急げ!!
12.3 sat > 12.11 sun

西展示棟アトリウム内

The 42nd TOKYO MOTOR SHOW 2011

※ このイベントは、実際にあなたがスパイとなって、謎を解くゲームイベントです。



トミカ

TAKARA TOMY

毎月わくわく!
第3土曜日は
トミカの日

出展内容

・東京モーターショー開催記念トミカ販売
・トミカ組み立て工場
・カーズトミカ、トランسفォーマー商品先行発売等

□ オフィシャルエアライン



ルフトハンザ ドイツ航空

□ プレスセンター協力



NEC



ブラザー



Nikon



Canon

「環境」「安全」「情報」技術で、

グローバルに未来のクルマの駆動力となる

日立オートモティブシステムズ。

Environment

Safety

Information

Driving Force

for Global Automobiles

私たち、日立オートモティブシステムズは、クルマの可能性を追求し、社会の課題の解決と新たな価値の創造をめざしています。

環境分野では「エンジンマネジメントシステム」と「エレクトリックパワートレインシステム」、安全分野では「走行制御システム」、

情報分野では「車載情報システム」という3分野4システム事業に注力し、グローバルに展開する未来のクルマの駆動力となります。

「SUBARU BOXER」にしか、
創れない走りを。



SUBARU
BRZ
Proud of BOXER

この驚きを、SUBARUブースで。

SUBARUは、2012年 SUPER GT (GT300クラス) にBRZで参戦を予定しています。

SUBARUお客様センター SUBARUコール 0120-052215 受付時間9:00～17:00(平日)、9:00～12:00・13:00～17:00(土日祝) *平日の12:00～13:00および土日祝はインフォメーションサービスのみとなります。 www.subaru.jp 携帯電話からもアクセス <http://m.subaru.jp/>